

平成27年度 市民意識調査

人口減少・超高齢化を見据えた
コンパクトなまちづくりについて

平成27年12月

北九州市

は じ め に

北九州市では、市民の意見を今後の市政運営に役立てるため、毎年「市政評価と市政要望」及び「特定テーマ」についての市民意識調査を実施しています。

「特定テーマ」調査では市政の重要事項を取り上げており、本年度は、「人口減少・超高齢化を見据えたコンパクトなまちづくりについて」というテーマで調査を行い報告書にまとめました。

人口減少下においても、暮らしやすく、にぎわいのあるまちにしていくためには、医療・福祉・商業などの施設や住居等がなるべく街なかにまとまって立地し、高齢者や子育て世帯をはじめとする多くの市民が公共交通によりこれらの施設等にアクセスできるなど、都市全体の構造を見直して、「コンパクトなまちづくり」を進めることが必要となっています。

このため、市では、2003年（平成15年）に策定した市町村の都市計画に関する基本的な方針である「北九州市都市計画マスタープラン」について、今後、急速に進行する人口減少、超高齢化を見据えて、コンパクトなまちづくりを実現する観点から、その見直しに着手したところです。

今回の調査で寄せられた市民の皆さまからのご意見は、コンパクトなまちづくりの実現に向けた、今後の施策検討に役立てていきたいと思っております。

アンケート調査にご協力くださいました皆さま方に、厚くお礼申し上げます。

平成27年 12月

北九州市長 北 橋 健 治

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の設計	1
3	調査の実施	3
4	回収結果	3
II	調査結果	4
1	回答者の構成	4
2	調査の結果	6
	(1) 現在の北九州市の都市イメージ	6
	(2) 北九州市の問題・課題への対策の必要性	12
	(3) 生活の場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うこと	16
	(4) 働く場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うこと	20
	(5) 都市らしいにぎわいやまちの魅力を高めるために、特に対策が必要と思うこと	24
	(6) これまでのまちづくりの取り組み	28
	(7) 今後、特に重点をおいて取り組む必要があると思うこと	34
	(8) 現在住んでいる住宅	39
	(9) 現在、同居している世帯の構成	44
	(10) 現在の場所での居住年数	50
	(11) 現在住んでいる場所	55
	(12) 住みたいと望む場所	60
	(12) -1 住みたいと望む場所を選んだ理由	65
	(13) 高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由	69
	(14) 「コンパクトなまちづくり」を進めること	74
	(15) 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定すること	78
	(15) -1 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定する場所	83
	(16) 物流・製造拠点としてのポテンシャルが高くなるエリアの今後の方向性	87
3	まとめ	92
資 料 編		
1	クロス集計表	95
2	調査票	144

人口減少・超高齢化を見据えた コンパクトなまちづくりについて

I 調査の概要

1 調査の目的

北九州市では、毎年度、特定テーマについて市民意識調査を実施している。平成 27 年度は「人口減少・超高齢化を見据えたコンパクトなまちづくりについて」というテーマで実施した。

本市では、2003 年（平成 15 年）に策定した市町村の都市計画に関する基本的な方針である「北九州市都市計画マスタープラン」について、今後、急激に進行する人口減少、超高齢化を見据えて、コンパクトなまちづくりを実現する観点から、その見直しに着手したところである。

そこで今年度は「人口減少・超高齢化を見据えたコンパクトなまちづくりについて」をテーマとし、都市計画マスタープランを見直すにあたり、まちづくりに対する取り組みの評価やまちの将来像、今後のまちづくりの方向性などについて、市民の意見を把握し、今後の施策検討の資料とするために本調査を実施したものである。

2 調査の設計

(1) 調査票

この調査は、郵送調査で実施するため設問をできるだけ整理し、以下 7 分野 18 項目の設問で構成した。

なお、問 1 については、例年実施している「市政評価と市政要望」の設問であり、別途報告書作成を行っている。（調査票：巻末参照）

今年度調査項目

現在の北九州市の都市イメージ	
問 2	現在の北九州市の都市イメージ
北九州市の問題・課題への対策の必要性	
問 3	北九州市の問題・課題への対策の必要性
北九州市の将来像	
問 4	生活の場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うこと
問 5	働く場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うこと
問 6	都市らしいにぎわいやまちの魅力を高めるために、特に対策が必要と思うこと
今後必要な取り組み	
問 7	これまでのまちづくりの取り組みについて
問 8	今後、特に重点をおいて取り組む必要があると思うこと
居住地について	
問 9	現在住んでいる住宅
問 10	現在、同居している世帯の構成

問 11	現在の場所での居住年数
問 12	現在住んでいる場所
問 13	住みたいと望む場所
副問 1	住みたいと望む場所を選んだ理由
問 14	高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由
まちづくりの方向性について（その1）	
問 15	「コンパクトなまちづくり」を進めること
問 16	「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定すること
副問 1	「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定する場所
まちづくりの方向性について（その2）	
問 17	物流・製造拠点としてのポテンシャルが高くなるエリアの今後の方向性
フェイスシート	性別・年齢・居住歴・職業・居住区・現在住んでいる場所の近くの小学校（小学校区）

(2) 標本設計

[調査対象者]

市内に居住する 20 歳以上の男女 3,000 人

[標本抽出]

平成 27 年 6 月 1 日現在の住民基本台帳（20 歳以上 802,968 人）をもとに 3,000 人を等間隔抽出

行政区別の設定標本数

区 分	居 住 人 口	抽 出 標 本 数	構 成 比
門司区	86,880 人	295 人	9.8 %
小倉北区	152,535	551	18.4
小倉南区	173,321	645	21.5
若松区	70,262	280	9.3
八幡東区	59,436	232	7.7
八幡西区	210,958	803	26.8
戸畑区	49,576	194	6.5
計	802,968	3,000	100.0

(注 1) 居住人口は 20 歳以上人口で抽出リード件数である。

(注 2) 構成比の単位未満は四捨五入で表示したため、計と各区の合計は必ずしも一致しない場合がある。

(3) 調査方法

郵送調査法

3 調査の実施

この調査は、北九州市市民文化スポーツ局市民部広聴課と建築都市局計画部都市計画課が主体となり実施したものである。

(1) 実査

調査開始 平成27年 6月22日
督促状発送 平成27年 7月 6日
回答期限 平成27年 7月17日

(2) 集計・分析

集計、分析・コメントは株式会社東京商工リサーチが実施した。

※数値の単位未満は四捨五入を原則としたので、総数と内容の合計は必ずしも一致しない場合がある。

※サンプル数が少ない属性（10人未満）の回答については、コメントでは触れないこととする。

4 回収結果

発送標本数3,000票のうち、回収標本総数は1,365票であった。このうち有効回収数は、1,365票であり、有効回収率は45.5%であった。（前年度は有効回収数1,275票、有効回収率は42.5%）

なお、行政区別の回収状況は、下表のとおりである。

行政区別回収状況

区分	設定標本数	有効回収数	有効回収率
門司区	295 人	135 人	45.8 %
小倉北区	551	217	39.4
小倉南区	645	302	46.8
若松区	280	134	47.9
八幡東区	232	109	47.0
八幡西区	803	377	46.9
戸畑区	194	91	46.9
計	3,000	1,365	45.5

II 調査結果

1 回答者の構成

有効回収数 1,365 票の標本は下表のとおりである。

回答者の構成

N : 1,365 人

性別	男性	女性	無回答				
	41.0%	57.3%	1.7%				
	560人	782人	23人				
年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
	6.1%	12.0%	16.0%	14.7%	21.2%	28.6%	1.5%
	83人	164人	218人	200人	289人	390人	21人
居住歴	1年未満	2年未満	3年未満	5年未満	10年未満	20年未満	30年未満
	1.2%	1.5%	1.2%	2.1%	4.7%	8.4%	13.0%
	17人	20人	16人	28人	64人	114人	177人
	30年以上	無回答					
	66.3%	1.8%					
	905人	24人					
居住区	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
	9.9%	15.9%	22.1%	9.8%	8.0%	27.6%	6.7%
	135人	217人	302人	134人	109人	377人	91人
職業	自営業	自由業	会社員	公務員・教員	農・林・漁業	主婦・主夫 (パートなど)	主婦・主夫 (専業)
	7.6%	1.5%	23.7%	3.5%	0.9%	12.2%	18.5%
	104人	20人	323人	48人	12人	167人	252人
	学生	無職	その他	無回答			
	1.2%	24.4%	4.8%	1.8%			
	16人	333人	65人	25人			

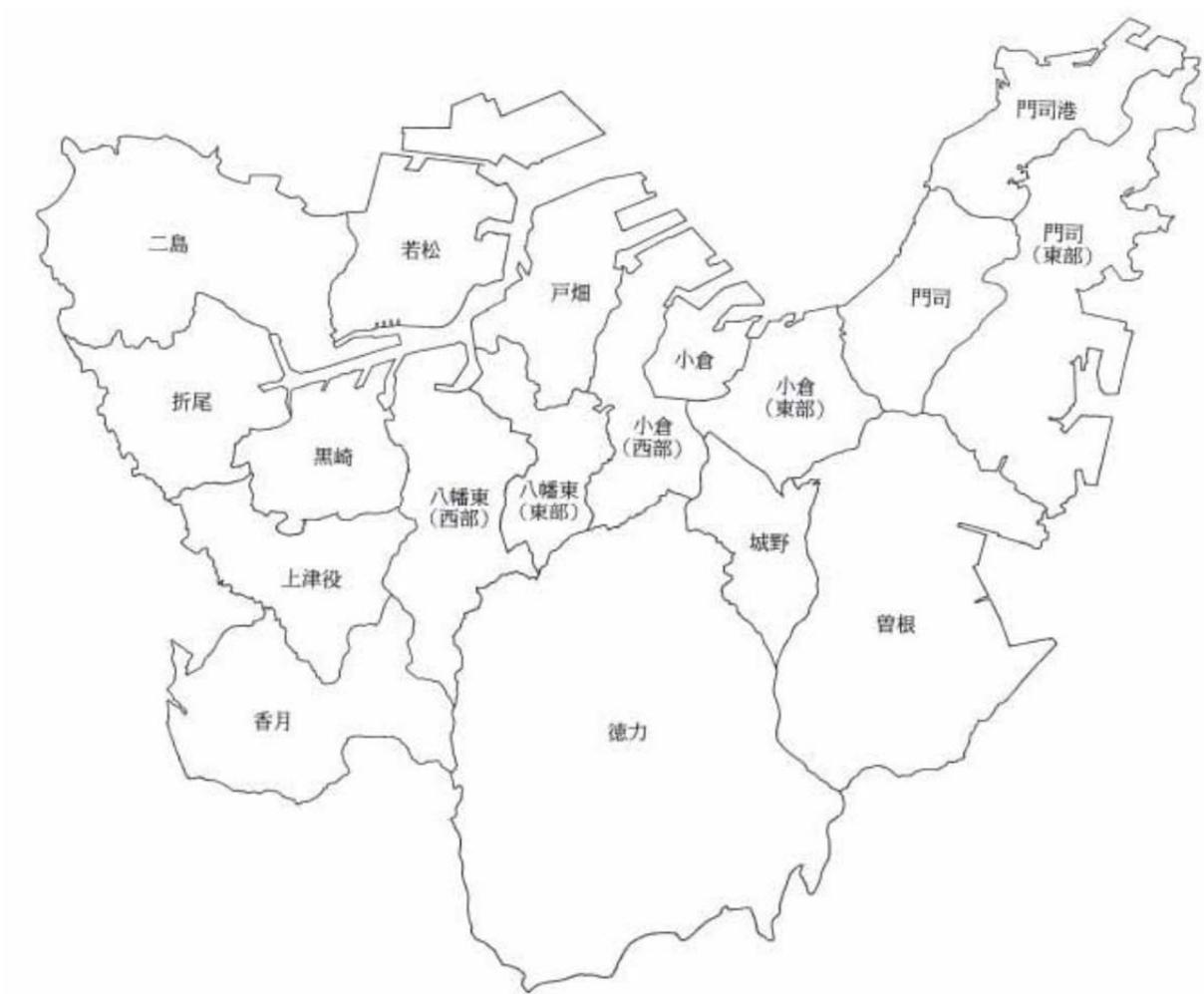
なお、調査実施時期間近である平成 27 年 5 月 31 日現在の住民基本台帳による 20 歳以上の北九州市民の性別、年齢、住居区の属性別構成は下表に示すとおりである。

これを、今年度調査の有効回収の標本構成と比較すると、性別では調査サンプルの男性が実態より 5.5 ポイント低い結果となっている。年齢別では、例年の傾向であるが、有効回答率の低さを反映してか 20 歳代で調査サンプルが住民基本台帳の実態ベースより 5.9 ポイント低く、逆に 70 歳以上では調査サンプルのウエイトが 4.0 ポイント高いのが目立っている。なお、行政区別では概ね両者間に大きな差はみられない。調査結果の解釈にあたっては、主にこの 3 点に関するウエイトの構成差異に留意されたい。

平成 27 年 5 月 31 日現在の住民基本台帳による人口構成 (20 歳以上)

性別	男	女					
	46.5%	53.5%					
年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	
	12.0%	14.5%	16.4%	14.3%	18.2%	24.6%	
居住区	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
	10.8%	19.0%	21.6%	8.8%	7.4%	26.3%	6.2%

また、調査結果をより細かく把握するため、行政区による居住区を以下に示す 18 地区に分割した集計も行っている。



2 調査の結果

(1) 現在の北九州市の都市イメージ

問2 北九州市に対する都市イメージを教えてください。

次の1から10の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んでください。

上段：回答数（人） 下段：割合（％）

項目	N	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そうは思わない	無回答
1 北九州市は産業都市で活気がある	1,365	86	386	456	244	153	40
	100.0	6.3	28.3	33.4	17.9	11.2	2.9
2 北九州市は工場が多くて環境が悪い	1,365	94	252	449	309	217	44
	100.0	6.9	18.5	32.9	22.6	15.9	3.2
3 北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ	1,365	207	438	340	196	141	43
	100.0	15.2	32.1	24.9	14.4	10.3	3.2
4 北九州市は交通が発達し便利だ	1,365	220	517	334	158	96	40
	100.0	16.1	37.9	24.5	11.6	7.0	2.9
5 北九州市は水や空気がきれいだ	1,365	154	397	438	224	115	37
	100.0	11.3	29.1	32.1	16.4	8.4	2.7
6 北九州市は緑が多い	1,365	216	560	392	118	36	43
	100.0	15.8	41.0	28.7	8.6	2.6	3.2
7 北九州市はまちなみがきれいだ	1,365	88	306	565	251	107	48
	100.0	6.4	22.4	41.4	18.4	7.8	3.5
8 北九州市は住宅費や物価が安く暮らしやすい	1,365	126	417	497	189	104	32
	100.0	9.2	30.5	36.4	13.8	7.6	2.3
9 北九州市は高齢者が住みやすい	1,365	59	315	593	254	109	35
	100.0	4.3	23.1	43.4	18.6	8.0	2.6
10 北九州市は子育てしやすい	1,365	60	352	676	159	70	48
	100.0	4.4	25.8	49.5	11.6	5.1	3.5

◇ 北九州市の都市イメージについて、「そう思う」が多い項目は、

1位 「北九州市は交通が発達し便利だ」(16.1%)

2位 「北九州市は緑が多い」(15.8%)

3位 「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」(15.2%)

問2① 北九州市の都市イメージの「そう思う」

		サンプル数	北九州市は産業都市で活気がある	北九州市は工場が多くて環境が悪い	北九州市は商店があちこちにあつて買物に便利だ	北九州市は交通が発達し便利だ	北九州市は水や空気がきれいだ	北九州市は緑が多い	北九州市はまちなみがきれいだ	北九州市は住宅費や物価が安く暮らしやすい	北九州市は高齢者が住みやすい	北九州市は子育てしやすい	
全体		1,365	6.3	6.9	15.2	16.1	11.3	15.8	6.4	9.2	4.3	4.4	
性別	男性	560	7.0	6.1	14.3	14.3	12.0	15.5	5.2	9.5	3.9	4.1	
	女性	782	5.9	7.7	15.7	17.4	10.7	15.7	7.3	8.8	4.7	4.6	
年齢別	20歳代	83	6.0	7.2	10.8	10.8	6.0	8.4	4.8	6.0	6.0	2.4	
	30歳代	164	11.0	14.0	16.5	17.7	2.4	8.5	3.7	9.8	3.0	6.1	
	40歳代	218	3.7	7.3	15.6	14.7	7.3	12.8	4.1	7.8	3.7	6.4	
	50歳代	200	3.0	8.0	11.5	14.5	9.0	17.5	7.5	8.0	3.5	4.0	
	60歳代	289	5.9	6.9	15.9	15.6	10.7	17.0	6.6	8.7	3.5	4.2	
	70歳以上	390	7.9	3.3	16.4	18.5	20.0	20.0	8.7	11.0	6.2	3.3	
居住年数別	1年未満	17	5.9	5.9	11.8	17.6	11.8	23.5	11.8	11.8	0.0	5.9	
	2年未満	20	10.0	20.0	20.0	15.0	20.0	10.0	10.0	10.0	5.0	0.0	
	3年未満	16	12.5	6.3	31.3	18.8	12.5	18.8	12.5	6.3	0.0	12.5	
	5年未満	28	7.1	17.9	10.7	14.3	0.0	3.6	0.0	10.7	3.6	7.1	
	10年未満	64	6.3	12.5	10.9	10.9	3.1	10.9	1.6	9.4	3.1	6.3	
	20年未満	114	4.4	10.5	12.3	19.3	4.4	8.8	4.4	7.9	5.3	5.3	
	30年未満	177	5.6	4.0	12.4	11.3	8.5	13.0	6.2	6.8	4.5	2.8	
	30年以上	905	6.4	6.2	16.1	17.0	13.4	17.8	6.9	9.6	4.5	4.2	
職業別	自営業	104	3.8	7.7	18.3	15.4	8.7	19.2	6.7	10.6	6.7	6.7	
	自由業	20	5.0	10.0	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	10.0	
	会社員	323	5.9	6.5	12.1	14.9	9.3	11.5	5.3	8.7	4.0	3.1	
	公務員・教員	48	4.2	4.2	8.3	16.7	10.4	20.8	8.3	14.6	0.0	6.3	
	農・林・漁業	12	0.0	0.0	33.3	8.3	25.0	41.7	0.0	16.7	8.3	8.3	
	主婦・主夫(パートなど)	167	7.2	9.0	15.6	16.2	8.4	13.2	6.6	5.4	6.6	7.2	
	主婦・主夫(専業)	252	6.0	8.3	19.4	19.0	11.1	16.7	6.0	9.5	3.2	4.8	
	学生	16	6.3	0.0	18.8	18.8	12.5	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	
	無職	333	8.1	6.3	13.8	15.0	15.9	19.2	7.5	9.9	4.5	1.5	
	その他	65	4.6	6.2	16.9	20.0	12.3	15.4	10.8	10.8	4.6	9.2	
	居住区別	行政区分	門司区	135	5.2	3.0	15.6	21.5	20.0	18.5	11.9	14.1	5.9
小倉北区			217	3.7	6.9	18.9	17.5	8.8	12.9	5.5	6.5	3.2	4.1
小倉南区			302	7.3	4.6	15.6	15.6	11.3	17.2	5.0	7.6	3.6	3.0
若松区			134	6.7	9.7	11.9	10.4	13.4	21.6	6.7	9.7	6.7	4.5
八幡東区			109	8.3	1.8	13.8	18.3	15.6	22.9	9.2	15.6	5.5	8.3
八幡西区			377	6.9	8.8	14.1	14.3	8.8	13.5	5.0	9.0	2.9	3.4
戸畑区			91	5.5	14.3	15.4	19.8	6.6	6.6	7.7	6.6	7.7	7.7
居住区別(18地区別)			門司区	門司港地区	36	0.0	0.0	0.0	8.3	19.4	16.7	11.1	8.3
	門司(大里)地区	77		9.1	2.6	24.7	28.6	22.1	22.1	13.0	18.2	10.4	3.9
	門司(東部)地区	22		0.0	9.1	9.1	18.2	13.6	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1
	小倉北区	小倉地区	50	2.0	10.0	28.0	26.0	4.0	10.0	8.0	6.0	6.0	6.0
		小倉(東部)地区	89	3.4	2.2	18.0	14.6	11.2	16.9	6.7	6.7	0.0	4.5
		小倉(西部)地区	78	5.1	10.3	14.1	15.4	9.0	10.3	2.6	6.4	5.1	2.6
	小倉南区	城野地区	68	4.4	4.4	17.6	20.6	10.3	17.6	8.8	7.4	5.9	4.4
		曾根地区	133	9.0	3.0	15.0	10.5	11.3	15.0	3.8	7.5	1.5	2.3
	若松区	徳力地区	101	6.9	6.9	14.9	18.8	11.9	19.8	4.0	7.9	5.0	3.0
		若松地区	61	4.9	14.8	9.8	4.9	13.1	19.7	9.8	8.2	6.6	6.6
	八幡東区	二島地区	73	8.2	5.5	13.7	15.1	13.7	23.3	4.1	11.0	6.8	2.7
		八幡東(東部)地区	70	11.4	2.9	12.9	17.1	15.7	22.9	8.6	18.6	4.3	7.1
	八幡東区	八幡東(西部)地区	39	2.6	0.0	15.4	20.5	15.4	23.1	10.3	10.3	7.7	10.3
		黒崎地区	105	6.7	10.5	13.3	13.3	11.4	12.4	2.9	7.6	2.9	1.0
	八幡西区	折尾地区	120	7.5	7.5	15.8	19.2	5.8	13.3	6.7	7.5	3.3	6.7
		上津役地区	86	4.7	10.5	16.3	11.6	7.0	10.5	1.2	14.0	2.3	2.3
		香月地区	66	9.1	6.1	9.1	10.6	12.1	19.7	10.6	7.6	3.0	3.0
	戸畑区	戸畑地区	91	5.5	14.3	15.4	19.8	6.6	6.6	7.7	6.6	7.7	7.7

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの

問2② 北九州市の都市イメージの賛同層（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）

		サンプル数	北九州市は産業都市で活気がある	北九州市は工場が多くて環境が悪い	利便性 北九州市は商店があちこちにあつて買物に便利だ	北九州市は交通が発達し便利だ	北九州市は水や空気がきれいだ	北九州市は緑が多い	北九州市はまちなみがきれいだ	北九州市は住宅費や物価が安く暮らしやすい	北九州市は高齢者が住みやすい	北九州市は子育てしやすい		
全体		1,365	34.6	25.4	47.3	54.0	40.4	56.8	28.8	39.7	27.4	30.2		
性別	男性	560	34.9	26.6	45.2	53.9	43.4	56.8	24.7	38.1	25.3	27.7		
	女性	782	34.3	24.7	48.6	54.4	38.1	56.9	31.5	41.3	28.6	31.7		
年齢別	20歳代	83	51.8	32.5	46.9	51.8	25.3	47.0	26.5	34.9	34.9	27.7		
	30歳代	164	48.2	44.5	48.2	56.1	28.0	52.4	24.4	31.8	24.3	32.3		
	40歳代	218	34.9	31.2	45.9	56.4	31.6	61.9	25.2	45.9	26.2	36.2		
	50歳代	200	35.0	26.5	47.5	57.5	40.5	59.5	30.0	43.5	21.5	31.0		
	60歳代	289	27.4	21.8	45.0	51.2	40.5	56.1	29.8	36.4	26.3	29.1		
	70歳以上	390	30.0	14.8	48.5	53.1	53.3	57.4	31.3	41.8	31.6	26.4		
居住年数別	1年未満	17	64.7	47.1	58.9	52.9	41.2	52.9	35.3	29.4	29.4	23.5		
	2年未満	20	35.0	40.0	35.0	55.0	35.0	50.0	35.0	45.0	15.0	20.0		
	3年未満	16	50.0	31.3	56.3	50.1	18.8	68.8	37.5	31.3	18.8	25.0		
	5年未満	28	39.2	53.6	32.1	57.2	10.7	39.3	17.9	32.1	14.3	28.5		
	10年未満	64	37.6	40.6	56.2	53.1	17.2	50.0	26.6	29.7	26.5	29.7		
	20年未満	114	36.0	31.6	45.6	59.7	29.8	53.5	21.1	43.0	29.0	29.9		
	30年未満	177	36.7	24.9	45.7	46.9	33.4	57.1	29.4	36.2	24.8	31.0		
	30年以上	905	32.7	22.2	47.3	55.0	46.1	58.6	29.4	41.4	28.4	30.4		
	その他	104	26.9	31.7	45.2	53.9	37.5	55.7	32.7	48.1	33.6	35.5		
職業別	自営業	20	35.0	35.0	50.0	60.0	30.0	65.0	35.0	50.0	25.0	35.0		
	会社員	323	38.1	30.0	41.8	57.0	34.1	54.2	25.1	40.6	22.9	30.7		
	公務員・教員	48	41.7	31.3	37.5	58.4	54.2	66.6	33.3	56.3	29.2	37.6		
	農・林・漁業	12	33.3	8.3	91.6	66.6	66.7	91.7	33.3	50.0	41.6	50.0		
	主婦・主夫（パートなど）	167	33.5	33.6	49.1	52.1	31.8	64.1	30.6	32.3	28.8	35.9		
	主婦・主夫（専業）	252	35.8	22.2	52.7	54.7	43.6	57.6	33.0	43.6	30.2	33.8		
	学生	16	62.6	43.8	56.3	68.8	31.3	62.6	31.3	43.8	50.1	25.0		
	無職	333	31.2	17.1	47.7	49.2	47.4	55.5	25.5	34.8	25.2	20.4		
	その他	65	32.3	20.0	41.5	58.5	36.9	44.6	27.7	35.4	27.7	29.2		
	居住区別	行政区分	門司区	135	36.3	16.3	40.0	63.0	55.6	68.1	42.3	47.4	30.3	27.4
			小倉北区	217	30.4	26.7	61.8	65.4	38.8	53.9	27.2	42.4	27.2	32.7
小倉南区			302	33.8	21.5	49.7	48.7	43.4	62.2	24.5	32.8	26.4	26.2	
若松区			134	33.6	33.6	34.3	35.8	36.5	55.2	34.3	41.0	29.1	30.6	
八幡東区			109	37.7	19.2	51.4	54.1	48.6	61.4	33.1	52.3	34.9	33.1	
八幡西区			377	37.4	26.8	43.8	51.2	35.6	51.4	25.7	36.3	23.9	31.5	
戸畑区			91	30.8	37.4	44.0	69.3	27.5	48.4	27.5	42.9	29.7	31.9	
その他			36	36.1	11.1	19.4	55.5	58.3	69.5	47.2	50.0	36.1	30.6	
居住区別（18地区別）	門司区	門司（大里）地区	77	42.9	19.5	54.6	75.4	52.0	71.5	46.8	49.4	31.2	26.0	
		門司（東部）地区	22	13.6	13.6	22.7	31.8	63.6	54.6	18.2	36.4	18.2	27.3	
		その他	36	36.1	11.1	19.4	55.5	58.3	69.5	47.2	50.0	36.1	30.6	
	小倉北区	小倉地区	50	38.0	32.0	60.0	62.0	30.0	50.0	30.0	50.0	40.0	40.0	
		小倉（東部）地区	89	22.5	19.1	61.8	62.9	44.9	59.6	28.0	42.7	25.8	33.7	
		小倉（西部）地区	78	34.6	32.1	50.0	57.7	37.2	50.0	24.4	37.2	20.5	27.0	
	小倉南区	城野地区	68	35.3	17.6	48.5	53.0	44.1	63.2	33.8	29.5	28.0	27.9	
		曾根地区	133	38.3	19.5	51.1	42.1	48.1	61.6	21.1	31.6	25.6	21.8	
		徳力地区	101	26.7	26.7	48.6	54.4	36.7	62.4	22.8	36.6	26.8	30.7	
	若松区	若松地区	61	32.8	36.1	29.5	31.1	31.1	55.8	40.9	36.1	27.9	26.3	
		二鳥地区	73	34.2	31.5	38.4	39.8	41.1	54.8	28.8	45.2	30.1	34.2	
	八幡東区	八幡東（東部）地区	70	41.4	21.5	51.5	47.1	45.7	61.5	30.0	58.6	38.6	35.7	
		八幡東（西部）地区	39	30.8	15.4	51.3	66.7	53.9	61.6	38.5	41.1	28.2	28.2	
	八幡西区	黒崎地区	105	38.1	30.5	46.6	60.9	32.4	51.4	21.9	40.0	22.9	26.7	
		折尾地区	120	38.3	25.0	50.0	51.7	30.8	48.3	30.0	34.2	26.6	33.4	
		上津役地区	86	37.3	29.1	43.0	43.0	36.1	47.7	24.5	39.6	19.7	32.5	
	戸畑区	香月地区	66	34.9	21.3	28.8	45.4	48.5	62.1	25.8	30.3	25.7	34.8	
		戸畑地区	91	30.8	37.4	44.0	69.3	27.5	48.4	27.5	42.9	29.7	31.9	

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの

北九州市の都市イメージ

【全体的傾向】

北九州市の都市イメージについて尋ねた。

その結果、「そう思う」は、「北九州市は交通が発達し便利だ」(16.1%)が最も多く、次いで「北九州市は緑が多い」(15.8%)、「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」(15.2%)と続いた。また、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『賛同層』では、「北九州市は緑が多い」(56.8%)が最も多く、「北九州市は交通が発達し便利だ」(54.0%)と続き、これらの項目は5割を上回った。次いで「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」(47.3%)であった。

【属性別にみた傾向】

◇ 性別では、「そう思う」の男性は「北九州市は緑が多い」が最も多かったが、男性(15.5%)と女性(15.7%)で差は見られなかった。一方、女性は「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、女性(17.4%)が男性(14.3%)を上回った。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は、女性(15.7%)が男性(14.3%)をわずかに上回った。

『賛同層』では、男女ともに「北九州市は緑が多い」が最も多く、男性(56.8%)と女性(56.9%)で差は見られなかった。「北九州市は交通が発達し便利だ」も、男性(53.9%)と女性(54.4%)で差は見られなかった。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は女性(48.6%)が男性(45.2%)を上回った。なお、「北九州市は水や空気がきれいだ」は男性(43.4%)が女性(38.1%)を上回った。

◇ 年齢別では、「そう思う」は20歳代で「北九州市は交通が発達し便利だ」と「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」が同率で最も多かった。30歳代では「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、40歳代で「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」が最も多かった。50歳代及び60歳代で「北九州市は緑が多い」が最も多く、70歳以上は「北九州市は緑が多い」と「北九州市は水や空気がきれいだ」が同率で最も多かった。「北九州市は緑が多い」は70歳以上(20.0%)が最も多く、次いで50歳代(17.5%)、60歳代(17.0%)と続き、高年齢層で多い傾向にあった。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は30歳代(16.5%)が最も多く、最も少ない20歳代(10.8%)とのポイント差は5.7と、年齢層による大きな差は見られなかった。

『賛同層』では、20歳代は「北九州市は産業都市で活気がある」が最も多く、30歳代は「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多かった。それ以外の全ての年齢層で「北九州市は緑が多い」が最も多かった。中でも、40歳代(61.9%)が最も多く、次いで50歳代(59.5%)、70歳以上(57.4%)と続き、熟年層を中心に高い傾向にあった。「北九州市は交通が発達し便利だ」は50歳代(57.5%)が最も多く、次いで40歳代(56.4%)、30歳代(56.1%)と続き、この項目も熟年層を中心に高い傾向にあった。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は70歳以上(48.5%)が最も多く、最も少ない60歳代(45.0%)とのポイント差は3.5と、年齢層による大きな差は見られなかった。なお、「北九州市は産業都市で活気がある」は20歳代(51.8%)が最も多く、次いで30歳代(48.2%)、50歳代(35.0%)と続き、若年層を中心に高い傾向にあった。「北九州市は水や空気がきれいだ」は70歳以上(53.3%)が最も多く、次いで50歳代及び60歳代(40.5%)と続き、高年齢層で多い傾向にあった。

◇ 居住年数別では、「そう思う」は20年未満のみ「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、1年未満、30年未満及び30年以上で「北九州市は緑が多い」が最も多く、3年未満で「北

九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」が多かった。これらに対して、2年未満、5年未満及び10年未満で「北九州市は工場が多くて環境が悪い」が最も多かった。「北九州市は交通が発達し便利だ」20年未満（19.3%）が最も多く、最も低い10年未満（10.9%）とのポイント差は8.4と、居住年数層による差は見られなかった。「北九州市は緑が多い」は1年未満（23.5%）が最も多く、次いで3年未満（18.8%）、30年以上（17.8%）と続いた。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は3年未満（31.3%）が最も多く、次いで2年未満（20.0%）、30年以上（16.1%）と続いた。「北九州市は工場が多くて環境が悪い」は、2年未満（20.0%）が最も多く、次いで5年未満（17.9%）、10年未満（12.5%）と続いた。

『賛同層』では、1年未満は「北九州市は産業都市で活気がある」が最も多く、2年未満、5年未満、20年未満は「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、10年未満は「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」が最も多く、3年未満、30年未満及び30年以上は「北九州市は緑が多い」が最も多かった。「北九州市は緑が多い」は3年未満（68.8%）が最も多く、次いで30年以上（58.6%）、30年未満（57.1%）と続き、居住年数が長い層を中心に多い傾向にあった。「北九州市は交通が発達し便利だ」は、20年未満（59.7%）が最も多く、次いで5年未満（57.2%）、2年未満及び30年以上（55.0%）と続いた。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は1年未満（58.9%）が最も多く、次いで3年未満（56.3%）、10年未満（56.2%）と続いた。

- ◇ 職業別では、「そう思う」は、会社員、主婦・主夫（パートなど）及びその他で「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、自営業、公務員・教員、農・林・漁業、及び無職で「北九州市は緑が多い」で最も多く、主婦・主夫（専業）及び学生で「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」が最も多く、自由業で「北九州市は工場が多くて環境が悪い」、北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」及び「北九州市は子育てしやすい」が同率で最も多かった。「北九州市は交通が発達し便利だ」はその他（20.0%）が最も多く、次いで主婦・主夫（専業）（19.0%）、学生（18.8%）と続いた。「北九州市は緑が多い」は農・林・漁業（41.7%）が最も多く、次いで公務員・教員（20.8%）、自営業及び無職（19.2%）と続いた。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は農・林・漁業（33.3%）が最も多く、次いで主婦・主夫（専業）（19.4%）、学生（18.8%）と続いた。「北九州市は工場が多くて環境が悪い」は自由業（10.0%）が最も多く、次いで主婦・主夫（パートなど）（9.0%）、主婦・主夫（専業）（8.3%）と続いた。

『賛同層』では、会社員及び学生で「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、それ以外の全ての職業層で「北九州市は緑が多い」が最も多かった。中でも、農・林・漁業（91.7%）が最も多く、次いで多い公務員・教員（66.6%）とのポイント差は25.1と、突出していた。「北九州市は交通が発達し便利だ」は学生（68.8%）が最も多く、次いで農・林・漁業（66.6%）、自由業（60.0%）と続いた。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は農・林・漁業（91.6%）が最も多く、次いで学生（56.3%）とのポイント差は35.3と、突出していた。

- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「そう思う」は、門司区、八幡西区及び戸畑区で「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、小倉南区、若松区及び八幡東区で「北九州市は緑が多い」が最も多く、小倉北区で「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」が最も多かった。「北九州市は交通が発達し便利だ」は門司区（21.5%）が最も多く、次いで戸畑区（19.8%）、八幡東区（18.3%）と続いた。「北九州市は緑が多い」は八幡東区（22.9%）が最も多く、次いで若松区（21.6%）、門司区（18.5%）と続いた。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は小倉北区（18.9%）が最も多く、最も少ない若松区（11.9%）とのポイント差は7.0

と、大きな差は見られなかった。

『賛同層』では、小倉北区及び戸畑区で「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、それ以外の5区で「北九州市は緑が多い」が最も多かった。中でも、門司区（68.1%）が最も多く、次いで小倉南区（62.2%）、八幡東区（61.4%）と続いた。「北九州市は交通が発達し便利だ」は戸畑区（69.3%）が最も多く、次いで小倉北区（65.4%）、門司区（63.0%）と続いた。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は小倉北区（61.8%）が最も多く、次いで八幡東区（51.4%）、小倉南区（49.7%）と続いた。

行政区を18地区に細分化して見ると、「そう思う」は、門司（大里）、門司（東部）、小倉（西部）、城野、折尾及び戸畑の6地区で「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、徳力、若松、二島、八幡東（東部）、八幡東（西部）及び香月の6地区で「北九州市は緑が多い」が最も多かった。小倉、小倉（東部）、曾根、黒崎及び上津役の5地区で「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」が最も多く、門司港地区で「北九州市は水や空気がきれいだ」が最も多かった。「北九州市は交通が発達し便利だ」は門司（大里）地区（28.6%）が最も多く、次いで小倉地区（26%）、城野地区（20.6%）と続いた。「北九州市は緑が多い」は二島地区（23.3%）が最も多く、次いで八幡東（西部）地区（23.1%）、八幡東（東部）地区（22.9%）と続いた。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は小倉地区（28.0%）が最も多く、次いで門司（大里）地区（24.7%）、小倉（東部）地区（18.0%）と続いた。「北九州市は水や空気がきれいだ」は門司（大里）地区（22.1%）が最も多く、次いで門司港地区（19.4%）、八幡東（東部）地区（15.7%）と続いた。

『賛同層』では、門司（大里）、小倉、小倉（東部）、小倉（西部）、八幡東（西部）、黒崎、折尾及び戸畑の8地区で「北九州市は交通が発達し便利だ」が最も多く、門司（東部）地区で「北九州市は水や空気がきれいだ」が最も多かった。それ以外の9地区で「北九州市は緑が多い」が最も多かった。中でも、門司（大里）地区（71.5%）が最も多く、次いで門司港地区（69.5%）、城野地区（63.2%）と続いた。「北九州市は交通が発達し便利だ」は小倉地区（82.0%）が最も多く、次いで門司（大里）地区（75.4%）、戸畑地区（69.3%）と続いた。「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」は小倉地区（80.0%）が最も多く、次いで小倉（東部）地区（61.8%）、門司（大里）地区（54.6%）と続いた。「北九州市は水や空気がきれいだ」は門司（東部）地区（63.6%）が最も多く、次いで門司港地区（58.3%）、八幡東（西部）地区（53.9%）と続いた。

(2) 北九州市の問題・課題への対策の必要性

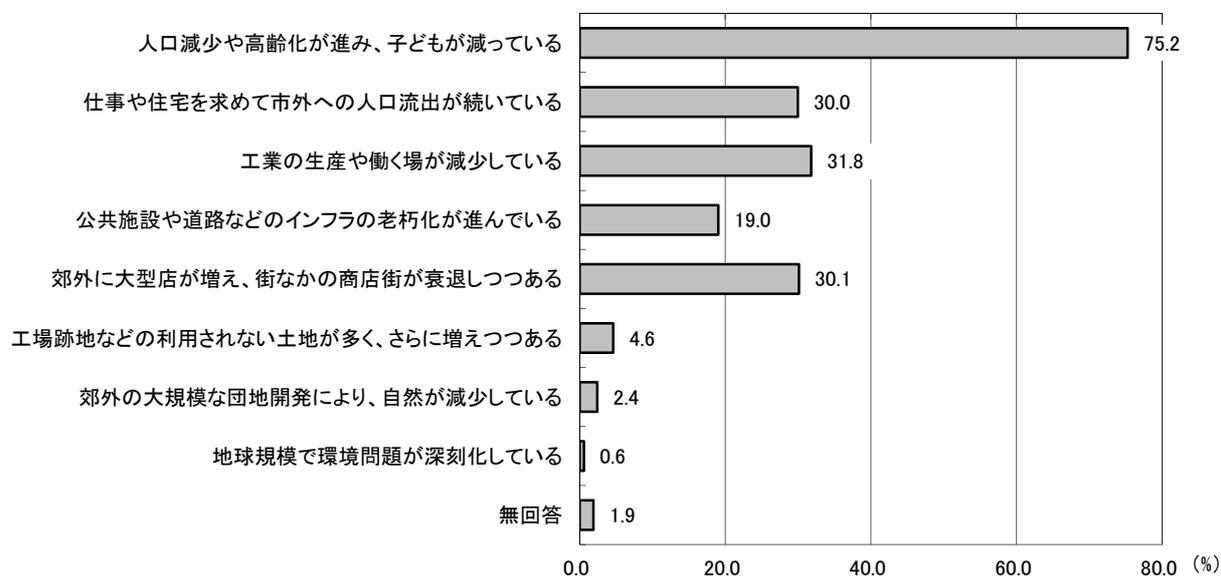
問3 北九州市の次のような問題や課題のなかで、特に対策が必要と思うことは何ですか。次の中から3つまで選んでください。

N : 1,365 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている	1,027	75.2
2 仕事や住宅を求めて市外への人口流出が続いている	409	30.0
3 工業の生産や働く場が減少している	434	31.8
4 公共施設や道路などのインフラの老朽化が進んでいる	260	19.0
5 郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある	411	30.1
6 工場跡地などの利用されない土地が多く、さらに増えつつある	63	4.6
7 郊外の大規模な団地開発により、自然が減少している	33	2.4
8 地球規模で環境問題が深刻化している	8	0.6
無回答	26	1.9

◇ 北九州市の問題や課題のなかで、特に対策が必要と思うことは、

- 1位 「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」(75.2%)
- 2位 「工業の生産や働く場が減少している」(31.8%)
- 3位 「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」(30.1%)



問3 北九州市の問題・課題への対策の必要性

		サンプル数	人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている	仕事や住宅を求めて市外への人口流出が続いている	工業の生産や働く場が減少している	公共施設や道路などのインフラの老朽化が進んでいる	しつこくある	郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退している	工場跡地などの利用されない土地が多く、さらに増えつつある	郊外の大規模な団地開発により、自然が減少している	地球規模で環境問題が深刻化している	無回答	
全体		1,365	75.2	30.0	31.8	19.0	30.1	4.6	2.4	0.6	1.9		
性別	男性	560	77.5	31.8	33.6	19.5	25.7	4.5	2.3	0.4	1.4		
	女性	782	73.7	28.9	30.7	18.7	33.4	4.9	2.4	0.8	2.0		
年齢別	20歳代	83	65.1	39.8	15.7	24.1	32.5	6.0	7.2	1.2	2.4		
	30歳代	164	66.5	27.4	26.8	23.8	36.0	3.7	5.5	0.6	2.4		
	40歳代	218	71.6	29.8	32.6	18.8	31.2	8.3	2.3	1.8	0.5		
	50歳代	200	77.0	33.5	37.0	18.5	24.5	2.0	2.0	0.0	2.0		
	60歳代	289	74.7	31.8	35.3	17.6	30.8	4.8	0.7	0.7	0.7		
	70歳以上	390	82.8	26.2	31.8	17.4	29.2	4.1	1.5	0.0	2.8		
居住年数別	1年未満	17	52.9	35.3	29.4	17.6	29.4	11.8	11.8	0.0	0.0		
	2年未満	20	60.0	20.0	25.0	30.0	30.0	15.0	5.0	0.0	5.0		
	3年未満	16	87.5	12.5	25.0	37.5	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0		
	5年未満	28	67.9	25.0	17.9	39.3	39.3	3.6	0.0	0.0	3.6		
	10年未満	64	59.4	29.7	34.4	25.0	32.8	9.4	4.7	1.6	0.0		
	20年未満	114	75.4	36.0	27.2	17.5	30.7	3.5	1.8	0.9	2.6		
	30年未満	177	72.3	35.0	27.1	18.1	29.9	7.3	3.4	0.0	1.7		
	30年以上	905	77.8	29.0	34.0	17.8	29.8	3.6	1.8	0.7	1.8		
職業別	自営業	104	72.1	32.7	30.8	20.2	29.8	5.8	1.0	1.0	2.9		
	自由業	20	80.0	20.0	60.0	15.0	20.0	5.0	0.0	0.0	0.0		
	会社員	323	71.8	31.6	31.3	21.4	29.4	5.9	3.1	0.0	0.9		
	公務員・教員	48	70.8	37.5	33.3	31.3	22.9	2.1	0.0	2.1	0.0		
	農・林・漁業	12	75.0	25.0	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0		
	主婦・主夫(パートなど)	167	75.4	34.1	25.1	19.2	31.7	5.4	4.2	0.0	0.6		
	主婦・主夫(専業)	252	78.6	25.8	32.1	15.9	34.9	2.0	3.2	0.8	2.4		
	学生	16	68.8	43.8	18.8	25.0	18.8	0.0	6.3	6.3	6.3		
	無職	333	79.3	26.4	34.5	16.8	28.8	5.7	1.5	0.6	2.4		
	その他	65	70.8	38.5	32.3	16.9	30.8	3.1	0.0	1.5	3.1		
居住区別	行政区分	門司区	135	83.7	30.4	30.4	26.7	20.7	3.0	2.2	0.0	0.7	
		小倉北区	217	76.0	33.2	32.3	22.1	24.4	5.1	2.3	0.9	0.9	
		小倉南区	302	73.2	30.1	34.1	18.2	27.2	5.0	2.6	0.7	3.0	
		若松区	134	75.4	30.6	21.6	16.4	35.8	5.2	2.2	1.5	4.5	
		八幡東区	109	81.7	33.9	25.7	11.9	38.5	1.8	0.0	0.0	2.8	
		八幡西区	377	69.5	27.3	33.7	18.0	36.1	5.3	3.4	0.5	1.3	
		戸畑区	91	83.5	26.4	39.6	19.8	24.2	4.4	1.1	0.0	0.0	
居住区別(18地区別)	門司区	門司港地区	36	80.6	38.9	30.6	27.8	19.4	0.0	2.8	0.0	0.0	
		門司(大里)地区	77	81.8	26.0	29.9	28.6	23.4	3.9	1.3	0.0	1.3	
		門司(東部)地区	22	95.5	31.8	31.8	18.2	13.6	4.5	4.5	0.0	0.0	
	小倉北区	小倉地区	50	70.0	34.0	36.0	28.0	16.0	8.0	6.0	0.0	0.0	
		小倉(東部)地区	89	76.4	38.2	30.3	20.2	27.0	3.4	0.0	0.0	1.1	
		小倉(西部)地区	78	79.5	26.9	32.1	20.5	26.9	5.1	2.6	2.6	1.3	
	小倉南区	城野地区	68	70.6	33.8	35.3	20.6	23.5	4.4	0.0	0.0	5.9	
		曾根地区	133	78.2	27.8	29.3	16.5	30.1	5.3	4.5	0.8	2.3	
		徳力地区	101	68.3	30.7	39.6	18.8	25.7	5.0	2.0	1.0	2.0	
	若松区	若松地区	61	78.7	32.8	18.0	14.8	37.7	4.9	1.6	1.6	4.9	
		二鳥地区	73	72.6	28.8	24.7	17.8	34.2	5.5	2.7	1.4	4.1	
	八幡東区	八幡東(東部)地区	70	77.1	37.1	24.3	14.3	38.6	1.4	0.0	0.0	2.9	
		八幡東(西部)地区	39	89.7	28.2	28.2	7.7	38.5	2.6	0.0	0.0	2.6	
	八幡西区	黒崎地区	105	74.3	26.7	34.3	18.1	34.3	4.8	1.0	1.0	1.0	
		折尾地区	120	69.2	27.5	30.8	18.3	40.0	7.5	4.2	0.0	0.8	
		上津役地区	86	72.1	22.1	33.7	23.3	33.7	2.3	4.7	1.2	1.2	
		香月地区	66	59.1	34.8	37.9	10.6	34.8	6.1	4.5	0.0	3.0	
	戸畑区	戸畑地区	91	83.5	26.4	39.6	19.8	24.2	4.4	1.1	0.0	0.0	

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

【全体的傾向】

北九州市の問題や課題のなかで、特に対策が必要と思うことについて尋ねた。

その結果、「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」(75.2%)が最も多く、7割を上回った。次いで「工業の生産や働く場が減少している」(31.8%)、「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」(30.1%)、「仕事や住宅を求めて市外への人口流出が続いている」(30.0%)と続き、これらは3割以上を占めた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに総合1位の「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」が最も多く、男性(77.5%)が女性(73.7%)を上回った。総合2位の「工業の生産や働く場が減少している」も男性(33.6%)が女性(30.7%)を上回った。総合3位の「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」は女性(33.4%)が男性(25.7%)を上回った。
- ◇ 年齢別でも、全ての年齢層で総合1位の「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」が最も多かった。中でも70歳以上(82.8%)が最も多く、次いで50歳代(77.0%)、60歳代(74.7%)、40歳代(71.6%)と続き、これらの年齢層で7割を上回った。総合2位の「工業の生産や働く場が減少している」は50歳代(37.0%)で最も多く、次いで60歳代(35.3%)、40歳代(32.6%)、70歳以上(31.8%)と続き、これらの年齢層で3割を上回った。総合3位の「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」は30歳代(36.0%)で最も多く、次いで20歳代(32.5%)、40歳代(31.2%)、60歳代(30.8%)と続き、これらの年齢層で3割を上回った。
- ◇ 居住年数別でも、全ての居住年数層で総合1位の「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」が最も多かった。中でも3年未満(87.5%)で最も多く、唯一8割を上回った。総合2位の「工業の生産や働く場が減少している」は10年未満(34.4%)で最も多く、次いで30年以上(34.0%)と続き、これらの居住年数層で3割を上回った。総合3位の「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」は5年未満(39.3%)で最も多く、次いで10年未満(32.8%)、20年未満(30.7%)と続いた。
- ◇ 職業別でも、全ての職業層で総合1位の「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」が最も多く、6割を上回った。中でも自由業(80.0%)で最も多く、唯一8割を上回った。総合2位の「工業の生産や働く場が減少している」も自由業(60.0%)で多く、唯一6割を上回った。総合3位の「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」は主婦・主夫(専業)(34.9%)が最も多く、次いで主婦・主夫(パートなど)(31.7%)、その他(30.8%)と続き、これらの職業層で3割以上を占めた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、全ての区で総合1位の「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」が最も多かった。門司区(83.7%)で最も多く、戸畑区(83.5%)、八幡東区(81.7%)と続き、これらの区で8割を上回った。総合2位の「工業の生産や働く場が減少している」は戸畑区(39.6%)で最も多く、最も少なかった若松区(21.6%)のみ3割を下回った。総合3位の「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」は八幡東区(38.5%)で最も多く、次いで八幡西区(36.1%)、若松区(35.8%)と続き、これらの区で3割を上回った。
行政区を18地区に細分化して見ると、全ての地区で総合1位の「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」が最も多かった。最も多かったのは門司(東部)地区(95.5%)で唯一

9割を上回った。次いで八幡東（西部）地区（89.7%）、戸畑地区（83.5%）、門司（大里）地区（81.8%）、門司港地区（80.6%）と続き、門司区は区内全体で比較的高い割合であった。最も少なかったのは香月地区（59.1%）で、唯一6割を下回った。総合2位の「工業の生産や働く場が減少している」は徳力及び戸畑の2地区（39.6%）で最も多く、次いで香月地区（37.9%）と続いた。総合3位の「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」は折尾地区（40.0%）で最も多く、唯一4割以上を占めた。次いで、八幡東（東部）地区（38.6%）、八幡東（西部）地区（38.5%）と続き、八幡東区は区内全体で比較的高い割合であった。

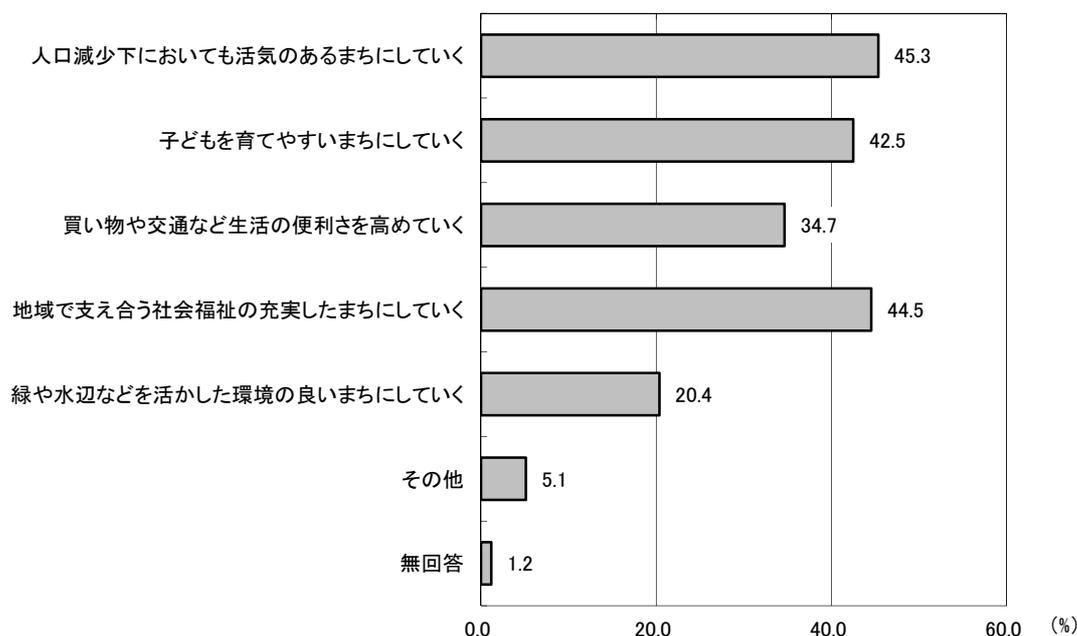
(3) 生活の場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うこと

問4 北九州市では、これからどんなまちづくりを進めていく必要があるか、おたずねします。生活の場として、もっと良いまちにしていくために、特に対策が必要と思うことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

N : 1,365 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 人口減少下においても活気のあるまちにしていく	619	45.3
2 子どもを育てやすいまちにしていく	580	42.5
3 買い物や交通など生活の便利さを高めていく	473	34.7
4 地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく	608	44.5
5 緑や水辺などを活かした環境の良いまちにしていく	278	20.4
6 その他	70	5.1
無回答	16	1.2

- ◇ 生活の場として、もっと良いまちにしていくために、特に対策が必要と思うことは、
- 1位 「人口減少下においても活気のあるまちにしていく」(45.3%)
 - 2位 「地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく」(44.5%)
 - 3位 「子どもを育てやすいまちにしていく」(42.5%)



問4 生活の場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うこと

		サンプル数	いく 人口減少下においても活気のあるまちにしていく	子どもを育てやすいまちにしていく	買い物や交通など生活の利便性を高めていく	地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく	緑や水辺などを活かした環境の良いまちにしていく	その他	無回答	
全体		1,365	45.3	42.5	34.7	44.5	20.4	5.1	12	
性別	男性	560	52.7	42.3	29.1	43.0	22.7	4.8	0.7	
	女性	782	40.4	42.2	38.7	46.0	18.8	5.2	1.3	
年齢別	20歳代	83	30.1	59.0	39.8	33.7	24.1	6.0	1.2	
	30歳代	164	34.1	68.3	29.9	28.0	23.2	9.8	1.2	
	40歳代	218	41.7	48.2	28.9	42.2	24.3	5.5	0.0	
	50歳代	200	51.5	35.5	39.5	42.0	21.5	4.5	0.5	
	60歳代	289	46.0	37.7	33.2	52.2	20.8	4.5	1.4	
	70歳以上	390	52.3	31.8	37.2	51.3	15.6	3.3	1.5	
居住年数別	1年未満	17	17.6	82.4	29.4	29.4	35.3	0.0	0.0	
	2年未満	20	55.0	40.0	35.0	35.0	30.0	0.0	0.0	
	3年未満	16	31.3	37.5	43.8	56.3	18.8	12.5	0.0	
	5年未満	28	35.7	46.4	42.9	28.6	42.9	3.6	0.0	
	10年未満	64	29.7	62.5	25.0	35.9	32.8	9.4	0.0	
	20年未満	114	45.6	42.1	32.5	44.7	22.8	4.4	0.0	
	30年未満	177	39.0	49.7	37.9	39.5	18.6	7.3	1.7	
	30年以上	905	48.7	39.0	34.5	47.1	18.6	4.5	1.2	
職業別	自営業	104	54.8	47.1	21.2	34.6	23.1	5.8	2.9	
	自由業	20	40.0	40.0	35.0	30.0	40.0	5.0	0.0	
	会社員	323	45.2	46.7	35.0	39.9	22.0	6.2	0.0	
	公務員・教員	48	45.8	47.9	29.2	31.3	29.2	10.4	0.0	
	農・林・漁業	12	33.3	8.3	50.0	75.0	16.7	8.3	0.0	
	主婦・主夫(パートなど)	167	46.1	47.9	34.1	40.7	22.2	6.6	0.0	
	主婦・主夫(専業)	252	37.7	45.2	39.3	48.8	17.9	2.8	2.0	
	学生	16	25.0	62.5	43.8	37.5	25.0	0.0	0.0	
	無職	333	49.8	31.8	35.7	53.8	15.3	4.5	1.5	
	その他	65	47.7	40.0	30.8	41.5	29.2	3.1	1.5	
居住区別	行政区分	門司区	135	41.5	39.3	34.8	49.6	21.5	5.2	0.7
		小倉北区	217	45.6	47.0	24.4	50.2	18.4	6.9	0.9
		小倉南区	302	37.4	45.0	38.4	44.7	21.5	5.6	1.3
		若松区	134	47.0	37.3	38.1	35.8	24.6	5.2	3.7
		八幡東区	109	57.8	37.6	38.5	45.0	11.9	3.7	0.9
		八幡西区	377	45.4	44.0	35.0	42.2	21.8	4.2	0.8
		戸畑区	91	59.3	35.2	35.2	45.1	17.6	4.4	0.0
居住区別(18地区別)	門司区	門司港地区	36	44.4	27.8	41.7	44.4	22.2	11.1	0.0
		門司(大里)地区	77	41.6	45.5	29.9	53.2	19.5	3.9	0.0
		門司(東部)地区	22	36.4	36.4	40.9	45.5	27.3	0.0	4.5
	小倉北区	小倉地区	50	40.0	42.0	20.0	52.0	26.0	8.0	0.0
		小倉(東部)地区	89	47.2	49.4	23.6	44.9	19.1	7.9	1.1
		小倉(西部)地区	78	47.4	47.4	28.2	55.1	12.8	5.1	1.3
	小倉南区	城野地区	68	36.8	47.1	33.8	48.5	20.6	5.9	0.0
		曾根地区	133	36.1	42.9	44.4	44.4	15.8	6.8	2.3
		徳力地区	101	39.6	46.5	33.7	42.6	29.7	4.0	1.0
	若松区	若松地区	61	47.5	37.7	32.8	32.8	26.2	6.6	4.9
		二島地区	73	46.6	37.0	42.5	38.4	23.3	4.1	2.7
	八幡東区	八幡東(東部)地区	70	58.6	35.7	41.4	44.3	11.4	4.3	0.0
		八幡東(西部)地区	39	56.4	41.0	33.3	46.2	12.8	2.6	2.6
	八幡西区	黒崎地区	105	47.6	50.5	28.6	43.8	20.0	1.0	1.0
		折尾地区	120	44.2	40.0	38.3	40.0	23.3	6.7	0.8
		上津役地区	86	44.2	41.9	32.6	47.7	20.9	4.7	1.2
		香月地区	66	45.5	43.9	42.4	36.4	22.7	4.5	0.0
	戸畑区	戸畑地区	91	59.3	35.2	35.2	45.1	17.6	4.4	0.0

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

【全体的傾向】

生活の場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うことについて尋ねた。

その結果、「人口減少下においても活気のあるまちにしていく」(45.3%)が最も多く、次いで「地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく」(44.5%)、「子どもを育てやすいまちにしていく」(42.5%)と続いた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、総合1位の「人口減少下においても活気のあるまちにしていく」が最も多く、男性(52.7%)が女性(40.4%)を大きく上回った。一方、総合2位の「地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく」は女性(46.0%)が男性(43.0%)を上回った。総合3位の「子どもを育てやすいまちにしていく」は男性(42.3%)と女性(42.2%)の差が見られなかった。なお、「買い物や交通など生活の便利さを高めていく」は、女性(38.7%)が男性(29.1%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、総合1位の「人口減少下においても活気のあるまちにしていく」は70歳以上(52.3%)で最も多く、次いで50歳代(51.5%)と続き、これらの年齢層で5割を上回った。総合2位の「地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく」は60歳代(52.2%)で最も多く、次いで70歳以上(51.3%)と続き、高年齢層で5割を上回った。一方、総合3位の「子どもを育てやすいまちにしていく」は30歳代(68.3%)で最も多く、次いで20歳代(59.0%)と続き、若年層で5割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、総合1位の「人口減少下においても活気のあるまちにしていく」は2年未満(55.0%)で最も多く、唯一5割を上回った。次いで30年以上(48.7%)、20年未満(45.6%)と続いた。総合2位の「地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく」は3年未満(56.3%)で最も多く、次いで30年以上(47.1%)、20年未満(44.7%)と続き、これらの居住年数層で4割を上回った。総合3位の「子どもを育てやすいまちにしていく」は1年未満(82.4%)で最も多く、唯一8割を上回った。次いで、10年未満(62.5%)、30年未満(49.7%)と続いた。
- ◇ 職業別では、総合1位の「人口減少下においても活気のあるまちにしていく」は自営業(54.8%)が最も多く、次いで無職(49.8%)、その他(47.7%)と続き、最も少ない学生(25.0%)以外の全ての職業層で3割を上回った。総合2位の「地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく」は農・林・漁業(75.0%)が最も多く、次いで無職(53.8%)、主婦・主夫(専業)(48.8%)と続いた。総合3位の「子どもを育てやすいまちにしていく」は学生(62.5%)が最も多く、次いで公務員・教員及び主婦・主夫(パートなど)(47.9%)、自営業(47.1%)と続いた。最も少ないのは農・林・漁業(8.3%)で、唯一1割を下回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、全ての区で総合1位の「人口減少下においても活気のあるまちにしていく」は戸畑区(59.3%)が最も多く、次いで八幡東区(57.8%)、若松区(47.0%)と続いた。最も少ないのは小倉南区(37.4%)で唯一4割を下回った。総合2位の「地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく」は小倉北区(50.2%)が最も多く、次いで門司区(49.6%)、戸畑区(45.1%)と続いた。最も少ないのは若松区(35.8%)で唯一4割を下回った。総合3位の「子どもを育てやすいまちにしていく」は小倉北区(47.0%)が最も多く、次いで小倉南区(45.0%)、八幡西区(44.0%)と続き、最も少ないのは戸畑区(35.2%)と全ての区で3割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「人口減少下においても活気のあるまちにしていく」は戸畑地区(59.3%)が最も多く、次いで八幡東(東部)地区(58.6%)、八幡東(西部)地区(56.4%)と続き、これらの区で5割を上回った。総合2位の「地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく」は小倉(西部)地区(55.1%)が最も多く、次いで門司(大里)地区(53.2%)、小倉地区(52.0%)と続き、これらの区で5割を上回った。なお、最も少ないのは若松地区(32.8%)で、18地区全てで3割を上回った。総合3位の「子どもを育てやすいまちにしていく」は黒崎地区(50.5%)が最も多く、次いで小倉(東部)地区(49.4%)、小倉(西部)地区(47.4%)と続いた。最も少ないのは門司港地区(27.8%)で、唯一3割を下回った。

(4) 働く場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うこと

問5 働く場として、もっと良いまちにしておくために、特に対策が必要と思うことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

N : 1,365 人

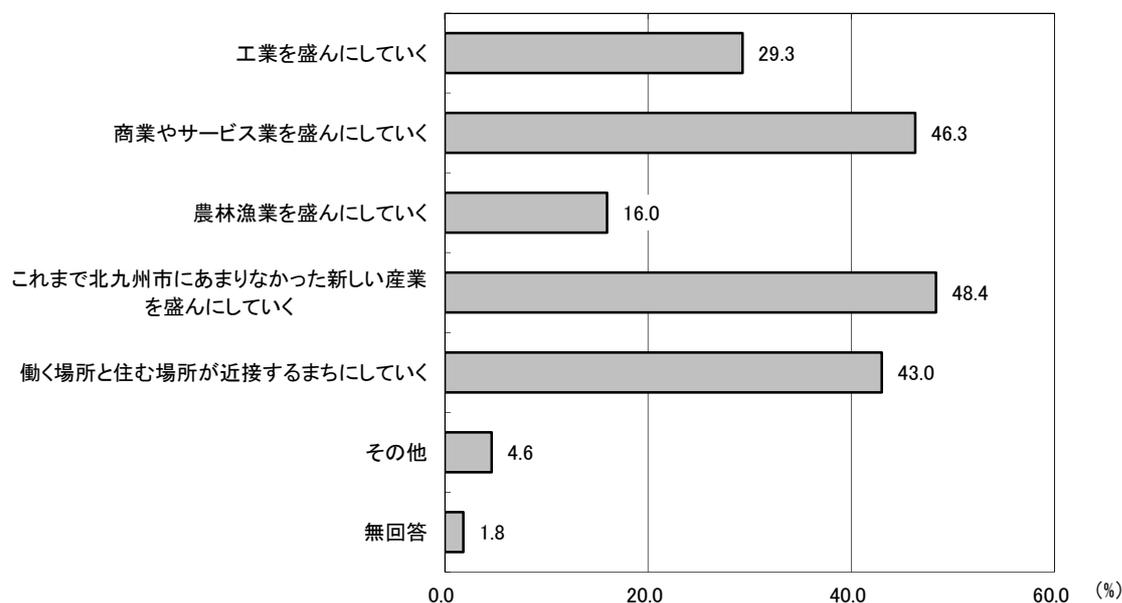
項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 工業を盛んにしていく	400	29.3
2 商業やサービス業を盛んにしていく	632	46.3
3 農林漁業を盛んにしていく	218	16.0
4 これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく	660	48.4
5 働く場所と住む場所が近接するまちにしていく	587	43.0
6 その他	63	4.6
無回答	25	1.8

◇ 働く場として、もっと良いまちにしておくために、特に対策が必要と思うことは、

1位 「これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく」
(48.4%)

2位 「商業やサービス業を盛んにしていく」(46.3%)

3位 「働く場所と住む場所が近接するまちにしていく」(43.0%)



問5 働く場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うこと

		サンプル数	工業を盛んにしていく	商業やサービス業を盛んにしていく	農林漁業を盛んにしていく	これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく	働く場所と住む場所が近接するまちにしたい	その他	無回答	
全体		1,365	29.3	46.3	16.0	48.4	43.0	4.6	1.8	
性別	男性	560	34.3	45.5	15.5	56.6	35.9	3.4	1.3	
	女性	782	25.2	46.9	16.5	43.0	48.2	5.5	2.0	
年齢別	20歳代	83	26.5	49.4	14.5	44.6	41.0	7.2	1.2	
	30歳代	164	25.0	56.7	16.5	39.6	38.4	6.7	1.8	
	40歳代	218	32.6	48.6	17.9	44.5	38.5	4.6	0.5	
	50歳代	200	22.5	46.0	17.5	44.5	52.5	6.0	0.5	
	60歳代	289	28.7	49.8	13.5	53.3	40.8	4.5	1.7	
	70歳以上	390	33.1	37.2	16.4	54.4	44.6	2.8	3.1	
居住年数別	1年未満	17	29.4	70.6	17.6	17.6	23.5	11.8	0.0	
	2年未満	20	30.0	50.0	5.0	50.0	50.0	10.0	0.0	
	3年未満	16	18.8	62.5	43.8	18.8	43.8	0.0	6.3	
	5年未満	28	32.1	60.7	14.3	32.1	42.9	7.1	0.0	
	10年未満	64	31.3	48.4	10.9	43.8	34.4	7.8	1.6	
	20年未満	114	30.7	46.5	14.9	52.6	39.5	4.4	0.0	
	30年未満	177	24.9	44.6	14.1	49.7	44.1	7.9	1.7	
	30年以上	905	29.7	45.1	16.8	49.6	44.1	3.6	2.0	
職業別	自営業	104	26.0	56.7	20.2	50.0	31.7	2.9	2.9	
	自由業	20	30.0	45.0	25.0	45.0	30.0	5.0	0.0	
	会社員	323	30.0	48.3	14.6	47.7	42.1	5.6	0.3	
	公務員・教員	48	25.0	43.8	12.5	52.1	37.5	16.7	0.0	
	農・林・漁業	12	41.7	25.0	50.0	33.3	33.3	0.0	0.0	
	主婦・主夫(パートなど)	167	25.1	50.9	13.8	42.5	48.5	6.6	1.2	
	主婦・主夫(専業)	252	29.0	46.4	18.7	45.2	48.0	2.8	2.4	
	学生	16	25.0	68.8	6.3	37.5	43.8	6.3	0.0	
	無職	333	30.9	40.2	14.7	55.3	42.9	3.0	3.0	
	その他	65	32.3	38.5	15.4	47.7	44.6	4.6	1.5	
居住区別	行政区分	門司区	135	29.6	53.3	14.8	45.2	45.9	3.7	0.7
		小倉北区	217	31.3	43.8	18.9	48.4	39.6	4.6	1.8
		小倉南区	302	29.5	44.7	19.9	47.0	40.1	5.6	1.7
		若松区	134	22.4	43.3	20.9	46.3	43.3	4.5	3.7
		八幡東区	109	27.5	56.0	8.3	46.8	44.0	3.7	3.7
		八幡西区	377	30.0	44.6	13.0	51.2	46.2	4.8	1.1
		戸畑区	91	33.0	47.3	12.1	50.5	41.8	3.3	2.2
居住区別(18地区別)	門司区	門司港地区	36	30.6	44.4	11.1	41.7	55.6	11.1	0.0
		門司(大里)地区	77	33.8	58.4	15.6	44.2	41.6	1.3	0.0
		門司(東部)地区	22	13.6	50.0	18.2	54.5	45.5	0.0	4.5
	小倉北区	小倉地区	50	40.0	38.0	14.0	48.0	38.0	6.0	0.0
		小倉(東部)地区	89	23.6	49.4	25.8	43.8	38.2	3.4	2.2
		小倉(西部)地区	78	34.6	41.0	14.1	53.8	42.3	5.1	2.6
	小倉南区	城野地区	68	25.0	44.1	29.4	38.2	41.2	4.4	1.5
		曾根地区	133	28.6	43.6	10.5	54.9	44.4	4.5	2.3
		徳力地区	101	33.7	46.5	25.7	42.6	33.7	7.9	1.0
	若松区	若松地区	61	21.3	47.5	21.3	49.2	39.3	4.9	4.9
		二島地区	73	23.3	39.7	20.5	43.8	46.6	4.1	2.7
	八幡東区	八幡東(東部)地区	70	25.7	57.1	4.3	48.6	45.7	2.9	4.3
		八幡東(西部)地区	39	30.8	53.8	15.4	43.6	41.0	5.1	2.6
	八幡西区	黒崎地区	105	29.5	41.9	7.6	59.0	48.6	4.8	1.0
		折尾地区	120	29.2	50.0	15.0	51.7	40.8	5.0	0.8
		上津役地区	86	32.6	43.0	16.3	50.0	44.2	3.5	2.3
	戸畑区	香月地区	66	28.8	40.9	13.6	39.4	54.5	6.1	0.0
		戸畑地区	91	33.0	47.3	12.1	50.5	41.8	3.3	2.2

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

働く場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うこと

【全体的傾向】

働く場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うことについて尋ねた。

その結果、「これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく」(48.4%)が最も多く、次いで「商業やサービス業を盛んにしていく」(46.3%)、「働く場所と住む場所が近接するまちにいく」(43.0%)と続き、これらは4割を上回った。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、総合1位の「これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく」は男性(56.6%)が女性(43.0%)を大きく上回った。一方、総合2位の「商業やサービス業を盛んにしていく」は女性(46.9%)が男性(45.5%)を上回った。総合3位の「働く場所と住む場所が近接するまちにいく」は女性(48.2%)が男性(35.9%)を大きく上回った。
- ◇ 年齢別は、総合1位の「これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく」は70歳以上(54.4%)が最も多く、次いで60歳代(53.3%)、20歳代(44.6%)と続いた。最も少ない30歳代(39.6%)でも約4割を占め、それ以外の全ての年齢層で4割を上回った。総合2位の「商業やサービス業を盛んにしていく」も30歳代(56.7%)が最も多く、次いで60歳代(49.8%)、20歳代(49.4%)と続いた。最も少ないのは70歳以上(37.2%)で、それ以外の全ての年齢層で4割を上回った。総合3位の「働く場所と住む場所が近接するまちにいく」は50歳代(52.5%)が最も多く、次いで70歳以上(44.6%)、20歳代(41.0%)と続いた。
- ◇ 居住年数別では、総合1位の「これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく」は20年未満(52.6%)が最も多く、次いで2年未満(50.0%)、30年未満(49.7%)と続いた。最も少ないのは1年未満(17.6%)で、次いで3年未満(18.8%)とこれらの居住年数層で2割を下回った。総合2位の「商業やサービス業を盛んにしていく」は1年未満(70.6%)が最も多く、次いで3年未満(62.5%)、5年未満(60.7%)、2年未満(50.0%)と続いた。これらの層では5割以上を占め、居住年数が短い層で高い傾向にあった。総合3位の「働く場所と住む場所が近接するまちにいく」は2年未満(50.0%)が最も多く、次いで30年未満及び30年以上(44.1%)、3年未満(43.8%)と続いた。「農林漁業を盛んにしていく」は、3年未満(43.8%)で最も多く、次いで多い1年未満(17.6%)を26.2ポイント上回り、突出していた。
- ◇ 職業別では、総合1位の「これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく」は無職(55.3%)が最も多く、次いで公務員・教員(52.1%)、自営業(50.0%)と続き。これらの職業層で5割以上を占めた。総合2位の「商業やサービス業を盛んにしていく」は学生(68.8%)が最も多く、次いで自営業(56.7%)、主婦・主夫(パートなど)(50.9%)と続いた。最も少ないのは農・林・漁業(25.0%)で、唯一3割を下回った。総合3位の「働く場所と住む場所が近接するまちにいく」は主婦・主夫(パートなど)(48.5%)が最も多く、次いで主婦・主夫(専業)(48.0%)、その他(44.6%)と続いた。最も少ないのは自由業(30.0%)で、全ての職業層で3割以上を占めた。「農林漁業を盛んにしていく」は農・林・漁業(50.0%)で最も多く、一方で「工業を盛んにしていく」も農・林・漁業(41.7%)で最も多かった。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく」は八幡西区(51.2%)が最も多く、次いで戸畑区(50.5%)、小倉北区(48.4%)

と続いた。最も少ないのは門司区（45.2%）で、最も多い八幡西区との差は6.0ポイントと、区による大きな差は見られなかった。総合2位の「商業やサービス業を盛んにしていく」は八幡東区（56.0%）が最も多く、次いで門司区（53.3%）、戸畑区（47.3%）と続いた。総合3位の「働く場所と住む場所が近接するまちにいく」は八幡西区（46.2%）が最も多く、次いで門司区（45.9%）、八幡東区（44.0%）と続いた。最も少ないのは小倉北区（39.6%）で、最も多い八幡西区との差は6.6ポイントと、区による大きな差は見られなかった。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく」は黒崎地区（59.0%）が最も多く、次いで曾根地区（54.9%）、門司（東部）地区（54.5%）と続いた。城野地区（38.2%）と香月地区（39.4%）以外の16地区で4割を上回った。総合2位の「商業やサービス業を盛んにしていく」は門司（大里）地区（58.4%）が最も多く、次いで八幡東（東部）地区（57.1%）、八幡東（西部）地区（53.8%）、門司（東部）及び折尾地区（50.0%）と続いた。これらの地区で5割を上回り、門司区及び八幡東区は区内全体で比較的高い傾向にあった。総合3位の「働く場所と住む場所が近接するまちにいく」は門司港地区（55.6%）が最も多く、次いで香月地区（54.5%）、黒崎地区（48.6%）と続いた。なお、「工業を盛んにしていく」は小倉地区（40.0%）が最も多く、次いで小倉（西部）地区（34.6%）、門司（大里）地区（33.8%）と続き、小倉区の3地区のうち2地区が上位であった。

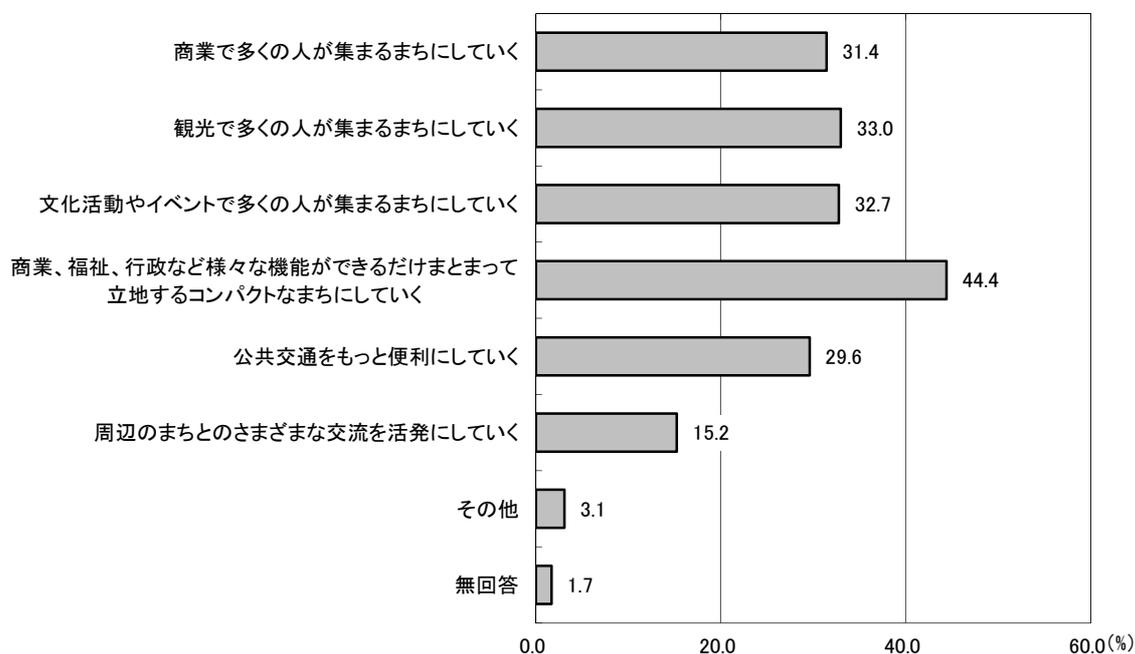
(5) 都市らしいにぎわいやまちの魅力を高めるために、特に対策が必要と思うこと

問6 都市らしいにぎわいやまちの魅力を高めるために、特に対策が必要と思うことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

N : 1,365 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 商業で多くの人が集まるまちにしてい	429	31.4
2 観光で多くの人が集まるまちにしてい	450	33.0
3 文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしてい	447	32.7
4 商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけまとまって立地するコンパクトなまちにしてい	606	44.4
5 公共交通をもっと便利にしてい	404	29.6
6 周辺のまちとのさまざまな交流を活発にしてい	208	15.2
7 その他	42	3.1
無回答	23	1.7

- ◇ 都市らしいにぎわいやまちの魅力を高めるために、特に対策が必要と思うことは、
- 1位 「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけまとまって立地するコンパクトなまちにしてい」(44.4%)
 - 2位 「観光で多くの人が集まるまちにしてい」(33.0%)
 - 3位 「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしてい」(32.7%)



【全体的傾向】

都市らしいにぎわいやまちの魅力を高めるために、特に対策が必要と思うことについて尋ねた。その結果、「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけまとまって立地するコンパクトなまちにしていく」(44.4%)が最も多く、次いで「観光で多くの人が集まるまちにしていく」(33.0%)、「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしていく」(32.7%)、「商業で多くの人が集まるまちにしていく」(31.4%)と続き、これらは3割を上回った。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに総合1位の「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけまとまって立地するコンパクトなまちにしていく」が最も多く、男性(45.0%)と女性(44.2%)で差は見られなかった。総合2位の「観光で多くの人が集まるまちにしていく」は男性(36.8%)が女性(29.9%)を上回った。総合3位の「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしていく」は男性(32.9%)と女性(33.1%)で差は見られなかった。総合4位の「商業で多くの人が集まるまちにしていく」は女性(32.5%)が男性(30.0%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、総合1位の「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけまとまって立地するコンパクトなまちにしていく」は60歳代(52.6%)が最も多く、次いで70歳以上(52.3%)と続き、高年層で5割を上回った。一方、総合2位の「観光で多くの人が集まるまちにしていく」20歳代(42.2%)が最も多く、次いで30歳代(40.9%)と続き、若年層で4割を上回った。総合3位の「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしていく」は40歳代(44.0%)が最も多く、次いで20歳代(38.6%)、30歳代(38.4%)と、若年層を中心に多い傾向にあった。総合4位の「商業で多くの人が集まるまちにしていく」は40歳代(38.5%)が最も多く、次いで60歳代(32.5%)、30歳代(32.3%)と続いた。
- ◇ 居住年数別では、総合1位の「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけまとまって立地するコンパクトなまちにしていく」は2年未満(55.0%)が最も多く、次いで30年以上(48.0%)、30年未満(39.0%)と続き、居住歴の長い層で比較的多い傾向にあった。一方、総合2位の「観光で多くの人が集まるまちにしていく」は1年未満(58.8%)が最も多く、次いで3年未満(43.8%)、5年未満(42.9%)と続き、居住歴の短い層で多い傾向にあった。総合3位の「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしていく」は10年未満(46.9%)が最も多く、次いで3年未満(43.8%)、5年未満(42.9%)と続いた。総合4位の「商業で多くの人が集まるまちにしていく」は1年未満(52.9%)が最も多く、唯一5割を上回った。
- ◇ 職業別では、総合1位の「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけまとまって立地するコンパクトなまちにしていく」は農・林・漁業(58.3%)が最も多く、次いで無職(49.8%)、その他(49.2%)と続いた。最も少ないのは学生(37.5%)で、全ての職業層で3割を上回った。総合2位の「観光で多くの人が集まるまちにしていく」は公務員・教員(39.6%)が最も多く、次いで会社員(37.5%)、自営業(33.7%)と続いた。総合3位の「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしていく」は学生(43.8%)が最も多く、次いで自由業(40.0%)、公務員・教員(39.6%)と続いた。最も少ない農・林・漁業で25.0%と、全ての職業層で2割を上回った。総合4位の「商業で多くの人が集まるまちにしていく」は自営業(51.9%)が最も多く、次いで公務員・教員(39.6%)、その他(35.4%)と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけま

とまって立地するコンパクトなまちにしていく」は門司区（56.3%）が最も多く、次いで戸畑区（50.5%）、八幡東区（46.8%）と続いた。最も少ない若松区（39.6%）で約4割、それ以外の6区で4割を上回った。総合2位の「観光で多くの人が集まるまちにしていく」は門司区（42.2%）が最も多く、次いで戸畑区（40.7%）、八幡東区（34.9%）と続いた。総合3位の「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしていく」は小倉北区（41.9%）が最も多く、次いで戸畑区（37.4%）、小倉南区（33.1%）と続いた。総合4位の「商業で多くの人が集まるまちにしていく」は八幡西区（33.2%）が最も多く、次いで小倉北区（32.7%）、小倉南区（31.8%）と続いた。最も少ないのは戸畑区（27.5%）で、最も多い八幡西区との差は5.7ポイントと、区による大きな差は見られなかった。なお、「公共交通をもっと便利にしていく」は若松区（42.5%）が最も多く、唯一4割を上回った。また、「周辺のまちとのさまざまな交流を活発にしていく」は八幡東区（20.2%）が最も多く、唯一2割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけとまって立地するコンパクトなまちにしていく」は門司（大里）地区（59.7%）が最も多く、次いで門司（東部）地区（59.1%）、戸畑地区（50.5%）と続き、これらの地区で5割を上回った。最も少ない城野地区（27.9%）のみ3割を下回った総合2位の「観光で多くの人が集まるまちにしていく」は門司港地区（52.8%）が最も多く、次いで小倉地区（42.0%）、戸畑地区（40.7%）と続き、これらの地区で4割を上回った。総合3位の「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしていく」は小倉（西部）地区（50.0%）が最も多く、次いで小倉地区（42.0%）、黒崎地区（41.9%）と続き、これらの地区で4割を上回った。総合4位の「商業で多くの人が集まるまちにしていく」は小倉（東部）地区（39.3%）が最も多く、次いで城野地区（36.8%）、黒崎地区（34.3%）と続いた。最も少ないのは門司（東部）地区（18.2%）で、唯一2割を下回った。

(6) これまでのまちづくりの取り組み

問7 これまでのまちづくりの取り組みについて、あなたは満足していますか。
次の1から15の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んでください。

上段：回答数（人） 下段：割合（％）

項目	N	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答
1 まちのにぎわいづくり	1,365	20	286	633	278	102	46
	100.0	1.5	21.0	46.4	20.4	7.5	3.4
2 幹線道路の整備	1,365	108	539	489	146	37	46
	100.0	7.9	39.5	35.8	10.7	2.7	3.4
3 人が集まる街なかの交通施設の整備 (道路、歩道、駐車場、駐輪場など)	1,365	52	395	468	318	88	44
	100.0	3.8	28.9	34.3	23.3	6.4	3.2
4 ふだん利用する自宅周辺の道路の 整備	1,365	113	489	373	242	89	59
	100.0	8.3	35.8	27.3	17.7	6.5	4.3
5 大規模な公園の整備(勝山公園、 グリーンパーク、長野緑地など)	1,365	247	594	387	74	20	43
	100.0	18.1	43.5	28.4	5.4	1.5	3.2
6 身近な公園の整備	1,365	93	432	479	235	80	46
	100.0	6.8	31.6	35.1	17.2	5.9	3.4
7 水に親しみやすい環境の整備(河川、 海岸など)	1,365	64	388	593	213	52	55
	100.0	4.7	28.4	43.4	15.6	3.8	4.0
8 都市景観の整備	1,365	37	364	655	185	55	69
	100.0	2.7	26.7	48.0	13.6	4.0	5.1
9 公共交通の利用しやすさ(バス、電車、 鉄道など)	1,365	152	464	349	232	115	53
	100.0	11.1	34.0	25.6	17.0	8.4	3.9
10 高齢者や子育て世代にも利用しやすい 公共施設の整備(市民センター、児童館、 保育所など)	1,365	68	368	587	236	64	42
	100.0	5.0	27.0	43.0	17.3	4.7	3.1
11 災害に対する安全対策(火災、水害、 土砂災害など)	1,365	40	285	791	154	54	41
	100.0	2.9	20.9	57.9	11.3	4.0	3.0
12 大気・騒音・水質などの環境保全対策	1,365	53	343	640	207	70	52
	100.0	3.9	25.1	46.9	15.2	5.1	3.8
13 自然の保護(山の緑、生物環境など)	1,365	63	432	653	134	30	53
	100.0	4.6	31.6	47.8	9.8	2.2	3.9
14 安全・安心に対する取り組み(暴力団 対策・交通安全など)	1,365	108	423	439	246	110	39
	100.0	7.9	31.0	32.2	18.0	8.1	2.9
15 市民のまちづくりへの関心、参加意識	1,365	21	174	791	248	79	52
	100.0	1.5	12.7	57.9	18.2	5.8	3.8

- ◇ これまでのまちづくりの取り組みについて、「満足」が多い項目は、
- 1位 「大規模な公園の整備(勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など)」(18.1%)
 - 2位 「公共交通の利用しやすさ(バス、電車、鉄道など)」(11.1%)
 - 3位 「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」(8.3%)

問7① これまでのまちづくりの取り組みの「満足」

		サンプル数	まちなぎわいづくり	幹線道路の整備	歩道、駐車場、駐輪場など	人が集まる街なかの交通施設の整備（道路、歩道、駐車場、駐輪場など）	ふだん利用する自宅周辺の道路の整備	パーク、長野緑地など	大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）	身近な公園の整備	水に親しみやすい環境の整備（河川、海岸など）	都市景観の整備	公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）	公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）	高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館、保育所など）	災害に対する安全対策（火災、水害、土砂災害など）	大気、騒音、水質などの環境保全対策	自然の保護（山の緑、生物環境など）	交通安全など	市民のまちづくりへの関心、参加意識
全体		1,365	1.5	7.9	3.8	8.3	18.1	6.8	4.7	2.7	11.1	5.0	2.9	3.9	4.6	7.9	1.5			
性別	男性	560	1.8	8.6	4.6	7.1	15.5	5.2	5.9	2.7	10.5	4.5	2.3	5.0	5.9	9.1	1.4			
	女性	782	1.3	7.4	3.3	9.1	19.6	7.9	4.0	2.6	11.5	5.5	3.2	3.1	3.8	7.0	1.5			
年齢別	20歳代	83	2.4	8.4	7.2	15.7	19.3	7.2	4.8	6.0	12.0	2.4	4.8	2.4	3.6	9.6	2.4			
	30歳代	164	0.6	7.3	4.3	7.9	20.1	7.3	5.5	3.0	12.2	4.3	3.0	3.7	3.0	5.5	2.4			
	40歳代	218	0.9	8.3	4.6	6.4	22.0	8.3	6.9	2.3	10.6	5.5	2.3	2.8	4.1	8.3	0.5			
	50歳代	200	0.0	9.0	3.0	7.0	18.5	4.5	4.0	1.5	11.5	2.0	2.0	3.5	5.0	9.0	0.5			
	60歳代	289	1.4	7.6	4.2	8.0	13.1	7.3	4.8	3.1	10.0	4.5	2.8	3.8	4.2	7.6	1.4			
	70歳以上	390	2.8	7.4	2.8	8.7	17.4	6.4	3.6	2.3	11.5	7.7	3.1	5.1	6.2	8.2	2.3			
居住年数別	1年未満	17	0.0	11.8	17.6	17.6	11.8	5.9	5.9	5.9	23.5	11.8	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9			
	2年未満	20	0.0	0.0	0.0	10.0	5.0	5.0	0.0	5.0	10.0	0.0	0.0	5.0	5.0	20.0	15.0			
	3年未満	16	6.3	12.5	6.3	0.0	18.8	6.3	6.3	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3			
	5年未満	28	0.0	7.1	3.6	3.6	10.7	7.1	0.0	0.0	10.7	7.1	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0			
	10年未満	64	0.0	6.3	1.6	4.7	12.5	4.7	1.6	1.6	4.7	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	0.0			
	20年未満	114	1.8	7.9	1.8	6.1	16.7	9.6	7.9	1.8	10.5	7.9	2.6	0.9	2.6	10.5	1.8			
	30年未満	177	1.1	6.8	5.6	12.4	16.4	5.1	3.4	1.7	9.0	2.3	2.3	3.4	5.1	9.0	0.6			
30年以上	905	1.7	8.3	3.8	8.1	19.2	7.0	5.1	3.0	11.8	5.5	3.2	4.8	5.3	8.1	1.4				
職業別	自営業	104	2.9	8.7	3.8	10.6	19.2	6.7	4.8	3.8	9.6	7.7	2.9	6.7	5.8	7.7	0.0			
	自由業	20	0.0	5.0	0.0	0.0	10.0	0.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	0.0			
	会社員	323	1.2	8.4	4.0	7.1	17.6	5.3	5.3	3.1	11.5	3.1	1.5	2.5	2.8	9.9	1.5			
	公務員・教員	48	0.0	22.9	8.3	18.8	31.3	14.6	12.5	4.2	18.8	6.3	10.4	12.5	14.6	10.4	2.1			
	農・林・漁業	12	0.0	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0			
	主婦・主夫（パートなど）	167	0.0	7.2	3.0	7.8	21.0	7.2	3.6	1.8	10.8	4.2	1.2	1.2	3.0	6.6	1.2			
	主婦・主夫（専業）	252	1.6	7.1	4.4	8.7	19.0	8.7	2.8	2.0	13.5	6.7	3.6	3.2	2.4	6.0	0.8			
	学生	16	6.3	0.0	6.3	12.5	18.8	0.0	12.5	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0			
	無職	333	1.8	6.3	3.6	7.5	13.5	6.0	5.4	2.4	8.7	4.8	3.6	5.1	6.6	9.0	2.7			
	その他	65	3.1	9.2	3.1	9.2	18.5	9.2	3.1	4.6	16.9	6.2	1.5	3.1	9.2	6.2	3.1			
居住区別	行政区分	門司区	135	1.5	8.1	6.7	9.6	20.0	10.4	5.2	1.5	18.5	5.2	4.4	7.4	6.7	10.4	3.0		
		小倉北区	217	1.8	9.2	4.6	9.7	20.7	6.9	5.5	3.2	15.7	3.2	3.2	1.4	4.1	6.5	0.0		
		小倉南区	302	1.7	3.6	3.0	6.6	18.2	3.6	4.0	2.0	12.3	5.0	1.7	3.0	4.6	7.9	0.7		
		若松区	134	0.7	9.0	5.2	10.4	24.6	3.0	6.0	3.7	6.0	3.7	1.5	6.7	6.0	9.7	2.2		
		八幡東区	109	1.8	8.3	1.8	11.0	16.5	11.9	7.3	2.8	11.0	7.3	5.5	6.4	5.5	8.3	3.7		
		八幡西区	377	1.3	9.0	2.9	7.7	14.6	8.0	3.7	2.9	6.1	4.5	2.9	3.2	3.4	7.7	1.9		
		戸畑区	91	1.1	12.1	4.4	4.4	15.4	6.6	3.3	3.3	14.3	9.9	3.3	3.3	4.4	5.5	1.1		
居住区別（18地区別）	門司区	門司港地区	36	0.0	13.9	13.9	16.7	19.4	8.3	8.3	0.0	19.4	2.8	2.8	11.1	5.6	13.9	0.0		
		門司（大里）地区	77	2.6	7.8	5.2	9.1	24.7	11.7	5.2	2.6	20.8	6.5	6.5	7.8	7.8	10.4	5.2		
		門司（東部）地区	22	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	9.1	0.0	0.0	9.1	4.5	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0		
	小倉北区	小倉地区	50	6.0	10.0	4.0	16.0	26.0	16.0	8.0	4.0	18.0	8.0	4.0	0.0	2.0	6.0	0.0		
		小倉（東部）地区	89	0.0	9.0	3.4	9.0	19.1	4.5	4.5	3.4	19.1	1.1	4.5	1.1	4.5	10.1	0.0		
		小倉（西部）地区	78	1.3	9.0	6.4	6.4	19.2	3.8	5.1	2.6	10.3	2.6	1.3	2.6	5.1	2.6	0.0		
	小倉南区	城野地区	68	0.0	2.9	1.5	4.4	10.3	1.5	4.4	2.9	17.6	1.5	2.9	1.5	1.5	5.9	0.0		
		曾根地区	133	3.0	3.0	3.8	9.0	22.6	5.3	4.5	2.3	9.8	8.3	1.5	3.8	6.8	9.0	0.8		
		徳力地区	101	1.0	5.0	3.0	5.0	17.8	3.0	3.0	1.0	11.9	3.0	1.0	3.0	4.0	7.9	1.0		
	若松区	若松地区	61	0.0	4.9	1.6	3.3	21.3	3.3	4.9	1.6	4.9	3.3	0.0	6.6	4.9	8.2	1.6		
		二島地区	73	1.4	12.3	8.2	16.4	27.4	2.7	6.8	5.5	6.8	4.1	2.7	6.8	6.8	11.0	2.7		
	八幡東区	八幡東（東部）地区	70	0.0	10.0	0.0	12.9	15.7	11.4	8.6	2.9	8.6	5.7	2.9	7.1	5.7	8.6	2.9		
		八幡東（西部）地区	39	5.1	5.1	5.1	7.7	17.9	12.8	5.1	2.6	15.4	10.3	10.3	5.1	5.1	7.7	5.1		
	八幡西区	黒崎地区	105	0.0	5.7	1.0	3.8	13.3	9.5	4.8	1.9	6.7	5.7	1.9	1.9	2.9	7.6	1.0		
		折尾地区	120	3.3	11.7	3.3	10.8	18.3	4.2	2.5	2.5	6.7	4.2	0.8	2.5	2.5	5.0	0.8		
		上津役地区	86	0.0	10.5	3.5	5.8	15.1	9.3	1.2	2.3	4.7	1.2	4.7	4.7	9.3	2.3			
		香月地区	66	1.5	7.6	4.5	10.6	9.1	10.6	7.6	6.1	6.1	7.6	6.1	4.5	10.6	4.5			
	戸畑区	戸畑地区	91	1.1	12.1	4.4	4.4	15.4	6.6	3.3	3.3	14.3	9.9	3.3	3.3	4.4	5.5	1.1		

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの

問7② これまでのまちづくりの取り組みの満足層（「満足」＋「やや満足」）

		サンプル数	まちなぎわいづくり	幹線道路の整備	歩道、駐車場、駐輪場など	人が集まる街なかの交通施設の整備（道路、	ふだん利用する自宅周辺の道路の整備	パーク、長野緑地など	大規模な公園の整備（勝山公園、グリーン	身近な公園の整備	水に親しみやすい環境の整備（河川、海岸など）	都市景観の整備	公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）	高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館、保育所など）	災害に対する安全対策（火災、水害、土砂災害など）	大気、騒音、水質などの環境保全対策	自然の保護（山の緑、生物環境など）	交通安全など	安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）	市民のまちづくりへの関心、参加意識
全体		1,365	22.5	47.4	32.7	44.1	61.6	38.4	33.1	29.4	45.1	32.0	23.8	29.0	36.2	38.9	14.2			
性別	男性	560	18.4	47.5	32.8	41.0	58.9	33.6	33.8	26.6	43.0	30.4	25.3	32.7	38.4	43.9	12.7			
	女性	782	25.3	47.4	32.5	46.4	63.8	41.8	32.9	31.4	46.7	33.0	22.4	26.2	35.1	35.6	15.4			
年齢別	20歳代	83	37.3	54.2	40.9	50.6	66.3	40.9	26.5	32.5	46.9	28.9	22.9	22.9	30.1	30.1	15.7			
	30歳代	164	23.2	53.6	34.8	46.3	58.5	34.1	29.9	26.2	42.7	25.6	20.1	22.0	33.5	30.5	10.9			
	40歳代	218	27.5	53.3	31.2	43.6	66.5	36.7	36.7	28.4	44.5	33.9	21.1	27.1	32.1	38.1	12.9			
	50歳代	200	22.0	42.2	32.5	45.0	65.5	39.0	38.5	29.5	48.0	27.5	23.5	26.5	38.5	43.0	16.5			
	60歳代	289	17.3	42.0	33.3	40.9	58.8	36.7	31.8	28.0	41.8	33.2	25.3	33.9	37.8	44.3	12.8			
	70歳以上	390	20.2	44.3	30.5	44.1	59.7	41.3	32.3	31.5	46.9	35.1	25.4	31.8	39.8	39.5	16.4			
居住年数別	1年未満	17	41.2	58.9	52.9	58.8	70.6	29.4	17.7	17.7	70.6	29.4	23.5	11.8	35.3	35.3	11.8			
	2年未満	20	25.0	45.0	40.0	45.0	40.0	30.0	40.0	30.0	45.0	20.0	25.0	20.0	35.0	45.0	30.0			
	3年未満	16	25.1	43.8	43.8	56.3	56.3	37.6	18.8	12.6	62.5	50.1	12.5	12.5	43.8	12.5	18.8			
	5年未満	28	17.9	39.2	17.9	39.3	50.0	28.5	25.0	17.9	35.7	35.7	17.9	14.3	17.9	32.1	10.7			
	10年未満	64	28.1	43.8	31.3	36.0	53.1	32.8	25.0	23.5	39.1	25.0	20.3	21.9	28.2	26.6	10.9			
	20年未満	114	26.4	43.0	23.7	41.2	60.6	34.2	35.1	28.1	44.7	35.1	25.4	25.5	35.1	40.3	15.0			
	30年未満	177	26.5	51.4	38.4	54.8	67.8	41.3	31.6	30.5	46.9	32.2	18.7	24.9	32.8	38.4	14.7			
	30年以上	905	20.6	47.7	32.5	42.7	62.2	39.4	34.6	30.6	44.8	31.6	25.1	32.1	38.6	40.7	14.2			
職業別	自営業	104	16.4	44.3	31.7	43.3	55.7	36.5	26.9	17.3	40.4	31.7	26.0	37.5	41.4	42.3	11.5			
	自由業	20	30.0	50.0	40.0	35.0	65.0	25.0	35.0	25.0	30.0	30.0	25.0	30.0	50.0	50.0	10.0			
	会社員	323	21.3	54.2	33.1	40.2	61.9	30.7	33.5	26.9	47.1	27.9	20.7	24.2	31.3	42.7	9.2			
	公務員・教員	48	33.3	62.5	45.8	64.6	70.9	52.1	54.2	39.6	60.5	37.6	37.5	45.8	62.5	50.0	18.8			
	農・林・漁業	12	0.0	66.6	41.7	33.3	58.4	16.7	50.0	50.0	33.3	33.3	33.3	50.0	50.0	41.6	8.3			
	主婦・主夫（パートなど）	167	26.3	44.9	32.9	47.3	65.9	37.7	35.9	29.9	47.3	34.7	22.2	24.6	39.5	35.3	15.0			
	主婦・主夫（専業）	252	24.6	50.4	35.0	51.2	68.6	47.2	33.8	36.9	46.4	39.6	25.8	28.2	36.1	37.3	17.9			
	学生	16	43.8	56.3	50.1	50.0	81.3	56.3	37.5	56.3	31.3	37.6	12.5	18.8	31.3	6.3	25.0			
	無職	333	19.2	40.2	28.8	41.4	55.5	38.7	30.3	26.7	43.2	26.7	22.8	32.1	36.0	37.5	14.7			
	その他	65	26.2	35.4	24.6	33.8	52.3	38.4	29.3	29.2	41.5	32.4	26.1	24.6	33.8	35.4	24.6			
居住区別	行政区分	門司区	135	21.5	45.1	34.8	44.4	54.1	40.8	31.1	37.1	52.6	36.3	22.2	34.8	43.0	48.2	19.3		
		小倉北区	217	29.4	49.8	40.1	45.6	71.4	37.8	34.5	28.1	57.6	32.2	28.5	30.4	40.0	39.7	13.8		
		小倉南区	302	21.9	47.0	32.5	40.4	62.6	33.7	32.5	26.8	42.4	32.8	21.6	28.5	40.0	34.7	12.0		
		若松区	134	16.4	45.6	34.3	47.0	71.6	37.3	39.6	38.0	29.9	26.8	21.6	35.1	35.9	49.3	17.9		
		八幡東区	109	22.0	48.7	33.9	44.9	57.8	50.4	35.7	37.7	51.4	33.9	23.8	33.9	38.5	33.1	18.4		
		八幡西区	377	21.5	45.6	26.8	45.1	54.7	37.4	30.5	25.4	39.3	29.4	24.4	26.0	29.1	36.6	12.8		
		戸畑区	91	22.0	55.0	34.1	42.9	64.9	44.0	33.0	23.1	52.8	37.4	23.1	16.5	31.9	38.5	12.1		
		門司区	門司港地区	36	22.2	63.9	41.7	55.6	50.0	38.9	38.9	50.0	55.5	27.8	19.5	41.7	44.5	52.8	19.4	
門司（大里）地区	77	23.4	42.9	36.4	46.8	58.5	46.8	33.8	39.0	59.8	45.5	29.9	37.7	48.1	48.1	20.8				
門司（東部）地区	22	13.6	22.7	18.2	18.2	45.4	22.7	9.1	9.1	22.7	18.1	0.0	13.6	22.7	40.9	13.6				
小倉北区	小倉地区	50	40.0	54.0	40.0	58.0	78.0	34.0	32.0	28.0	62.0	34.0	28.0	18.0	32.0	48.0	12.0			
	小倉（東部）地区	89	27.0	52.8	45.0	46.1	74.2	43.8	33.7	27.0	59.5	32.6	27.0	37.1	48.3	35.9	13.5			
	小倉（西部）地区	78	25.7	43.6	34.6	37.2	64.1	33.3	37.2	29.5	52.6	30.8	30.8	30.8	35.9	38.5	15.4			
小倉南区	城野地区	68	23.5	42.6	30.9	41.2	51.5	32.4	27.9	22.0	47.0	30.9	27.9	25.0	30.9	38.3	14.7			
	曾根地区	133	22.5	47.4	30.1	41.3	67.0	36.9	30.1	27.9	33.1	34.6	20.3	31.6	44.4	35.3	13.6			
若松区	徳力地区	101	19.8	49.6	36.7	38.7	64.3	30.7	38.6	28.7	51.5	31.7	18.8	26.8	40.6	31.7	7.9			
	若松地区	61	14.8	39.3	31.1	37.7	68.8	39.4	37.7	36.0	31.1	23.0	18.0	29.6	36.0	45.9	19.6			
八幡東区	二島地区	73	17.8	50.7	37.0	54.8	74.0	35.6	41.0	39.7	28.7	30.1	24.6	39.7	35.6	52.1	16.4			
	八幡東（東部）地区	70	25.7	48.6	28.6	41.5	52.8	44.3	38.6	38.6	42.9	34.3	24.3	34.2	41.4	27.2	18.6			
八幡西区	八幡東（西部）地区	39	15.4	48.7	43.6	51.3	66.6	61.5	30.7	35.9	66.7	33.4	23.1	33.3	33.3	43.6	17.9			
	黒崎地区	105	23.8	50.5	22.0	45.7	57.1	40.0	28.6	21.9	55.3	39.0	22.9	26.7	26.7	44.7	13.4			
	折尾地区	120	20.8	49.2	25.8	48.3	61.6	33.4	30.0	27.5	36.7	28.4	23.3	25.0	26.7	35.0	12.5			
	上津役地区	86	23.3	45.4	30.2	36.0	50.0	34.9	24.5	23.2	30.3	16.3	28.0	26.8	30.3	30.2	12.8			
戸畑区	香月地区	66	16.7	31.8	31.8	50.0	43.9	43.9	42.4	30.3	30.3	33.4	24.3	25.7	36.3	34.8	12.1			
	戸畑地区	91	22.0	55.0	34.1	42.9	64.9	44.0	33.0	23.1	52.8	37.4	23.1	16.5	31.9	38.5	12.1			

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの

これまでのまちづくりの取り組み

【全体的傾向】

これまでのまちづくりの取り組みについて尋ねた。

その結果、「満足」は、「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」（18.1%）が最も多く、次いで「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」（11.1%）、「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」（8.3%）と続いた。また、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足層』も、「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」（61.6%）が最も多く、6割を上回った。次いで「幹線道路の整備」（47.4%）、「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」（45.1%）と続いた。

【属性別にみた傾向】

◇ 性別では、「満足」は男女ともに「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多く、女性（19.6%）が男性（15.5%）を上回った。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は、女性（11.5%）が男性（10.5%）をわずかに上回った。「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」も、女性（9.1%）が男性（7.1%）をわずかに上回った。一方、「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」では男性（9.1%）が女性（7.0%）をわずかに上回った。

『満足層』でも、男女ともに「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多く、女性（63.8%）が男性（58.9%）を上回った。「幹線道路の整備」は男性（47.5%）と女性（47.4%）で差が見られなかった。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は女性（46.7%）が男性（43.0%）を上回った。（45.1%）と続いた。一方、「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」は男性（43.9%）が女性（35.6%）を上回った。

◇ 年齢別では、「満足」は全ての年齢層で「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。40歳代（22.0%）が最も多く、最も少ない60歳代（13.1%）とのポイント差は8.9と、年齢層による大きな差は見られなかった。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は30歳代（12.2%）が最も多く、最も少ない60歳代（10.0%）とのポイント差は2.2と、年齢層による大きな差は見られなかった。「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」は20歳代（15.7%）が最も多く、最も少ない40歳代（6.4%）とのポイント差は9.3と、年齢層による大きな差は見られなかった。

『満足層』でも、全ての年齢層で「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。40歳代（66.5%）が最も多く、最も少ない30歳代（58.5%）とのポイント差は9.7と、年齢層による大きな差は見られなかった。「幹線道路の整備」は20歳代（54.2%）が最も多く、次いで30歳代（53.6%）、40歳代（53.3%）と続き、若年層で多い傾向にあった。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は50歳代（48.0%）が最も多く、最も少ない60歳代（41.8%）とのポイント差は6.2と、年齢層による大きな差は見られなかった。「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」は60歳代（44.3%）が最も多く、次いで50歳代（43.0%）、70歳以上（39.5%）と続き、高年層を中心に多い傾向にあった。

◇ 居住年数別では、「満足」は1年未満では「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」が最も多く、2年未満では「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」が最

も多かった。それ以外の全ての居住年数層で「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。中でも30年以上（19.2%）が最も多く、次いで3年未満（18.8%）、20年未満（16.7%）と続いた。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は1年未満（23.5%）が最も多く、次いで3年未満（12.5%）、30年以上（11.8%）と続いた。「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」は1年未満（17.6%）が最も多く、次いで30年未満（12.4%）、2年未満（10.0%）と続いた。

『満足層』では、2年未満では「幹線道路の整備」が最も多く、3年未満では「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」が最も多かった。それ以外の全ての居住年数層で「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。1年未満（70.6%）が最も多く、次いで30年未満（67.8%）、30年以上（62.2%）と続いた。「幹線道路の整備」は1年未満（58.9%）が最も多く、次いで30年未満（51.4%）、30年以上（47.7%）と続き、居住年数が長い層を中心に多い傾向にあった。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は1年未満（70.6%）が最も多く、次いで3年未満（62.5%）、30年未満（46.9%）と続き、居住年数が短い層を中心に多い傾向にあった。

- ◇ 職業別では、「満足」は全ての職業層で「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。中でも公務員・教員（31.3%）が最も多く、次いで主婦・主夫（パートなど）（21.0%）、自営業（19.2%）と続いた。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は公務員・教員（18.8%）が最も多く、次いでその他（16.9%）、主婦・主夫（専業）（13.5%）と続いた。「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」は公務員・教員（18.8%）が最も多く、次いで学生（12.5%）、自営業（10.6%）と続き、これらの職業層で1割を上回った。

『満足層』では、農・林・漁業では「幹線道路の整備」が最も多く、それ以外の全ての職業層で「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。中でも、学生（81.3%）が最も多く、次いで公務員・教員（70.9%）、主婦・主夫（専業）（68.6%）と続いた。「幹線道路の整備」は農・林・漁業（66.6%）が最も多く、次いで公務員・教員（62.5%）、学生（56.3%）と続いた。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は公務員・教員（60.5%）が最も多く、次いで主婦・主夫（パートなど）（47.3%）、会社員（47.1%）と続いた。

- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「満足」は全ての区で「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。中でも、若松区（24.6%）が最も多く、次いで小倉北区（20.7%）、門司区（20.0%）と続き、これらの区で2割以上を占めた。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は門司区（18.5%）が最も多く、次いで小倉北区（15.7%）、戸畑区（14.3%）と続いた。「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」は八幡東区（11.0%）が最も多く、最も少ない戸畑区（4.4%）とのポイント差は6.6と、大きな差は見られなかった。

『満足層』でも、全ての区で「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。中でも、若松区（71.6%）が最も多く、次いで小倉北区（71.4%）、戸畑区（64.9%）と続いた。「幹線道路の整備」は戸畑区（55.0%）が最も多く、最も少ない門司区（45.1%）とのポイント差は9.9と、大きな差は見られなかった。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は小倉北区（57.6%）が最も多く、次いで戸畑区（52.8%）、門司区（52.6%）と続いた。

行政区を18地区に細分化して見ると、「満足」は門司（東部）地区で「身近な公園の整備」が最も多く、城野地区で「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」が最も多く、香

月地区で「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」が最も多かった。それ以外の15地区では「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。中でも、二島地区（27.4%）が最も多く、次いで小倉地区（26.0%）、門司（大里）地区（24.7%）と続いた。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は門司（大里）地区（20.8%）が最も多く、次いで門司港地区（19.4%）、小倉（東部）地区（19.1%）と続いた。「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」は門司港地区（16.7%）が最も多く、次いで二島地区（16.4%）、小倉地区（16.0%）と続いた。

『満足層』では、門司港地区で「幹線道路の整備」が最も多く、門司（大里）及び八幡東（西部）の2地区で「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」が最も多く、香月地区では「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」が最も多かった。それ以外の14地区では「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」が最も多かった。中でも小倉地区（78.0%）が最も多く、次いで小倉（東部）地区（74.2%）、二島地区（74.0%）と続き、これらの地区で7割を上回った。「幹線道路の整備」は門司港地区（63.9%）が最も多く、次いで戸畑地区（55.0%）、小倉地区（54.0%）と続いた。「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」は八幡東（西部）地区（66.7%）が最も多く、次いで小倉地区（62.0%）、門司（大里）地区（59.8%）と続いた。

(7) 今後、特に重点をおいて取り組む必要があると思うこと

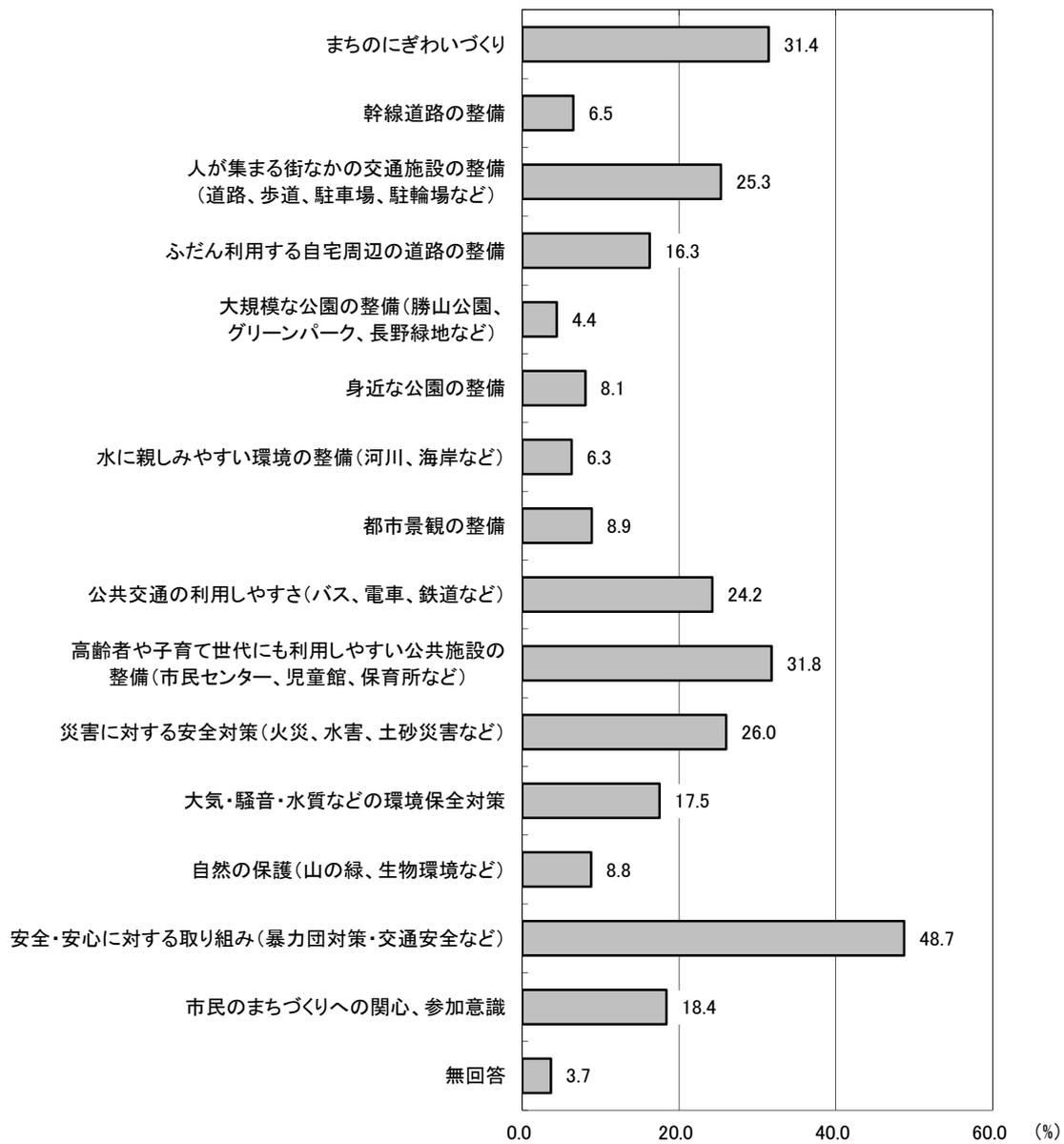
問8 問7の1～15の項目の中で、今後、特に重点をおいて取り組む必要があるとあなたが思うことはどれですか。
3つまで選んで、その番号(1～15)を記入して下さい。

N : 1,365人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 まちのにぎわいづくり	429	31.4
2 幹線道路の整備	89	6.5
3 人が集まる街なかの交通施設の整備(道路、歩道、駐車場、駐輪場など)	346	25.3
4 ふだん利用する自宅周辺の道路の整備	222	16.3
5 大規模な公園の整備(勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など)	60	4.4
6 身近な公園の整備	110	8.1
7 水に親しみやすい環境の整備(河川、海岸など)	86	6.3
8 都市景観の整備	121	8.9
9 公共交通の利用しやすさ(バス、電車、鉄道など)	331	24.2
10 高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備(市民センター、児童館、保育所など)	434	31.8
11 災害に対する安全対策(火災、水害、土砂災害など)	355	26.0
12 大気、騒音、水質などの環境保全対策	239	17.5
13 自然の保護(山の緑、生物環境など)	120	8.8
14 安全・安心に対する取り組み(暴力団対策・交通安全など)	665	48.7
15 市民のまちづくりへの関心、参加意識	251	18.4
無回答	50	3.7

◇ これまでのまちづくりの取り組みで、今後、特に重点をおいて取り組む必要があると思うことは、

- 1位 「安全・安心に対する取り組み(暴力団対策・交通安全など)」(48.7%)
- 2位 「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備(市民センター、児童館、保育所など)」(31.8%)
- 3位 「まちのにぎわいづくり」(31.4%)



問8 今後、特に重点をおいて取り組む必要があると思うこと

		サンプル数	まちのにぎわいづくり	幹線道路の整備	歩道・駐車場・駐輪場など	人が集まる街なかの交通施設の整備（道路、	ふだん利用する自宅周辺の道路の整備	大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）	身近な公園の整備	水に親しみやすい環境の整備（河川、海岸など）	都市景観の整備	公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）	高年齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館など）	災害に対する安全対策（火災、水害、土砂災害など）	大気・騒音・水質などの環境保全対策	自然の保護（山の緑、生物環境など）	交通安全など	市民のまちづくりへの関心、参加意識	無回答
全体		1,365	31.4	6.5	25.3	16.3	4.4	8.1	6.3	8.9	24.2	31.8	26.0	17.5	8.8	48.7	18.4	3.7	
性別	男性	560	36.4	8.0	26.3	15.7	5.7	9.3	6.4	11.4	22.3	30.4	23.2	16.1	7.7	48.6	18.0	3.0	
	女性	782	28.1	5.5	24.8	16.9	3.6	7.4	6.0	7.0	25.6	33.5	28.1	18.7	9.8	49.2	18.7	3.5	
年齢別	20歳代	83	27.7	10.8	21.7	15.7	7.2	4.8	6.0	8.4	31.3	26.5	21.7	16.9	10.8	57.8	22.9	0.0	
	30歳代	164	28.7	4.9	23.8	17.1	8.5	11.6	9.8	6.7	25.0	40.2	18.3	17.7	6.7	48.2	18.3	3.0	
	40歳代	218	39.9	5.5	22.0	12.8	3.7	10.6	6.0	5.5	22.9	30.7	22.0	18.3	11.0	50.9	20.6	1.8	
	50歳代	200	31.5	7.0	24.5	13.5	2.0	8.5	4.0	13.0	25.5	35.5	24.0	20.0	9.0	49.5	19.5	3.0	
	60歳代	289	34.6	6.6	27.0	14.9	1.7	8.3	6.6	9.7	23.5	33.6	32.9	15.9	8.3	50.2	18.0	1.0	
	70歳以上	390	26.9	6.7	27.7	21.3	5.9	5.9	5.9	9.2	23.1	27.7	28.7	17.4	8.7	44.6	16.2	6.7	
居住年数別	1年未満	17	52.9	17.6	23.5	11.8	0.0	11.8	5.9	11.8	11.8	17.6	17.6	17.6	17.6	47.1	11.8	0.0	
	2年未満	20	20.0	0.0	40.0	15.0	0.0	5.0	10.0	5.0	35.0	40.0	20.0	20.0	5.0	45.0	10.0	10.0	
	3年未満	16	18.8	6.3	31.3	6.3	18.8	12.5	12.5	12.5	6.3	37.5	25.0	12.5	12.5	75.0	12.5	0.0	
	5年未満	28	21.4	7.1	25.0	28.6	10.7	17.9	14.3	17.9	21.4	21.4	3.6	32.1	7.1	50.0	14.3	0.0	
	10年未満	64	17.2	9.4	12.5	18.8	3.1	10.9	9.4	9.4	23.4	45.3	23.4	18.8	7.8	57.8	21.9	1.6	
	20年未満	114	31.6	6.1	35.1	19.3	2.6	12.3	5.3	3.5	25.4	30.7	21.1	21.1	13.2	45.6	17.5	2.6	
	30年未満	177	33.3	7.3	22.6	13.0	4.0	4.5	5.6	11.9	26.6	26.6	27.7	16.9	9.0	51.4	24.9	2.3	
30年以上	905	32.7	6.1	25.2	16.6	4.5	7.8	5.9	8.7	24.2	32.9	27.5	16.9	8.4	47.7	17.5	3.8		
職業別	自営業	104	44.2	5.8	30.8	14.4	4.8	8.7	4.8	16.3	19.2	28.8	23.1	12.5	6.7	36.5	24.0	3.8	
	自由業	20	30.0	20.0	20.0	15.0	5.0	0.0	5.0	5.0	40.0	35.0	25.0	15.0	5.0	50.0	20.0	0.0	
	会社員	323	38.1	6.8	26.3	14.2	5.6	10.5	8.0	9.3	22.9	35.0	22.6	15.5	7.4	49.5	18.9	1.5	
	公務員・教員	48	41.7	4.2	22.9	8.3	2.1	8.3	2.1	8.3	29.2	27.1	27.1	12.5	10.4	45.8	29.2	2.1	
	農・林・漁業	12	16.7	0.0	16.7	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	50.0	41.7	50.0	8.3	16.7	50.0	0.0	0.0	
	主婦・主夫（パートなど）	167	26.9	6.0	26.9	18.6	3.6	8.4	4.2	6.6	25.1	36.5	26.9	21.0	10.2	53.3	18.6	1.2	
	主婦・主夫（専業）	252	26.2	4.4	23.0	17.5	3.2	8.3	7.5	6.0	28.6	29.4	31.3	21.4	11.1	52.0	17.1	2.4	
	学生	16	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0	6.3	6.3	37.5	18.8	25.0	18.8	6.3	81.3	25.0	0.0	
	無職	333	27.6	7.8	27.3	17.7	5.1	7.5	6.3	9.6	21.3	30.0	23.1	17.4	9.3	46.5	14.7	7.2	
	その他	65	29.2	6.2	13.8	24.6	1.5	3.1	1.5	12.3	20.0	40.0	35.4	21.5	6.2	47.7	23.1	3.1	
居住区別	行政区分	門司区	135	31.1	5.9	23.7	14.1	5.9	6.7	11.1	9.6	23.7	31.9	34.1	13.3	10.4	44.4	17.0	4.4
		小倉北区	217	36.4	4.1	21.7	16.6	3.2	9.7	7.4	8.8	12.4	30.4	27.2	20.7	9.2	51.6	25.8	2.8
		小倉南区	302	26.2	8.9	26.8	21.2	6.0	6.3	5.3	7.6	25.8	31.5	22.5	15.6	10.3	49.0	16.2	4.3
		若松区	134	30.6	10.4	25.4	11.2	3.7	7.5	5.2	6.7	35.1	26.1	21.6	24.6	9.0	44.0	15.7	6.0
		八幡東区	109	35.8	3.7	27.5	19.3	3.7	11.0	7.3	5.5	17.4	29.4	28.4	16.5	10.1	51.4	17.4	2.8
		八幡西区	377	28.6	5.3	26.0	15.1	3.4	7.4	5.8	9.8	29.4	36.3	26.0	16.4	7.4	49.6	17.0	3.4
		戸畑区	91	45.1	7.7	26.4	11.0	5.5	12.1	2.2	15.4	18.7	28.6	26.4	17.6	4.4	47.3	20.9	1.1
		門司港地区	36	30.6	0.0	13.9	13.9	8.3	16.7	13.9	11.1	25.0	38.9	30.6	11.1	13.9	25.0	22.2	8.3
居住区別（18地区別）	門司区	門司（大里）地区	77	36.4	10.4	23.4	11.7	6.5	3.9	9.1	7.8	18.2	33.8	36.4	13.0	9.1	53.2	16.9	2.6
		門司（東部）地区	22	13.6	0.0	40.9	22.7	0.0	0.0	13.6	13.6	40.9	13.6	31.8	18.2	9.1	45.5	9.1	4.5
		小倉北区	小倉地区	50	34.0	4.0	26.0	12.0	4.0	10.0	10.0	6.0	14.0	22.0	26.0	32.0	12.0	60.0	18.0
	小倉北区	小倉（東部）地区	89	36.0	3.4	24.7	13.5	3.4	5.6	6.7	9.0	12.4	30.3	28.1	15.7	7.9	52.8	27.0	4.5
		小倉（西部）地区	78	38.5	5.1	15.4	23.1	2.6	14.1	6.4	10.3	11.5	35.9	26.9	19.2	9.0	44.9	29.5	1.3
	小倉南区	城野地区	68	27.9	7.4	20.6	22.1	5.9	5.9	8.8	26.5	32.4	19.1	19.1	7.4	47.1	10.3	7.4	
		曾根地区	133	25.6	9.8	36.1	18.8	6.8	6.8	5.3	9.0	28.6	27.1	20.3	12.8	9.0	48.9	18.0	3.8
	若松区	徳力地区	101	25.7	8.9	18.8	23.8	5.0	5.9	5.0	5.0	21.8	36.6	27.7	16.8	13.9	50.5	17.8	3.0
		若松地区	61	31.1	8.2	27.9	11.5	1.6	3.3	3.3	1.6	29.5	29.5	16.4	27.9	9.8	45.9	16.4	11.5
	八幡東区	二島地区	73	30.1	12.3	23.3	11.0	5.5	11.0	6.8	11.0	39.7	23.3	26.0	21.9	8.2	42.5	15.1	1.4
		八幡東（東部）地区	70	30.0	4.3	30.0	17.1	4.3	10.0	7.1	7.1	21.4	30.0	27.1	15.7	7.1	51.4	15.7	4.3
	八幡西区	八幡東（西部）地区	39	46.2	2.6	23.1	23.1	2.6	12.8	7.7	2.6	10.3	28.2	30.8	17.9	15.4	51.3	20.5	0.0
		黒崎地区	105	32.4	4.8	25.7	14.3	2.9	9.5	4.8	13.3	16.2	40.0	33.3	15.2	6.7	49.5	18.1	1.9
		折尾地区	120	25.8	3.3	31.7	17.5	5.8	6.7	8.3	9.2	35.0	28.3	23.3	18.3	5.8	50.0	17.5	3.3
		上津役地区	86	26.7	9.3	20.9	17.4	3.5	8.1	4.7	7.0	34.9	43.0	22.1	15.1	8.1	45.3	15.1	4.7
	戸畑区	香月地区	66	30.3	4.5	22.7	9.1	0.0	4.5	4.5	9.1	33.3	36.4	24.2	16.7	10.6	54.5	16.7	4.5
		戸畑地区	91	45.1	7.7	26.4	11.0	5.5	12.1	2.2	15.4	18.7	28.6	26.4	17.6	4.4	47.3	20.9	1.1

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

今後、特に重点をおいて取り組む必要があると思うこと

【全体的傾向】

これまでのまちづくりの取り組みで、今後、特に重点をおいて取り組む必要があると思うことについて尋ねた。

その結果、「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」（48.7%）が最も多く、次いで「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館など）」（31.8%）、「まちのにぎわいづくり」（31.4%）と続き、これらは3割を上回った。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、総合1位の「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」は男性（48.6%）と女性（49.2%）で差は見られなかった。総合2位の「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館など）」は女性（33.5%）が男性（30.4%）を上回った。総合3位の「まちのにぎわいづくり」は男性（36.4%）が女性（28.1%）を上回った。
- ◇ 年齢別では、総合1位の「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」は20歳代（57.8%）が最も多く、次いで40歳代（50.9%）、60歳代（50.2%）と続き、これらの層で5割を上回った。最も少ないのは70歳以上（44.6%）で、全ての年齢層で4割を上回った。総合2位の「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館など）」は30歳代（40.2%）が最も多く、次いで50歳代（35.5%）、60歳代（33.6%）と続いた。総合3位の「まちのにぎわいづくり」は40歳代（39.9%）が最も多く、次いで60歳代（34.6%）、50歳代（31.5%）と続き、これらの年齢層で3割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、総合1位の「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」は3年未満（75.0%）が最も多く、次いで10年未満（57.8%）、30年未満（51.4%）と続いた。総合2位の「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館など）」も10年未満（45.3%）が最も多く、次いで2年未満（40.0%）、3年未満（37.5%）と続いた。総合3位の「まちのにぎわいづくり」は1年未満（52.9%）が最も多く、次いで30年未満（33.3%）、30年以上（32.7%）と続き、居住歴が長い層で比較的割合が多かった。
- ◇ 職業別では、総合1位の「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」は学生（81.3%）が最も多く、次いで主婦・主夫（パートなど）（53.3%）、主婦・主夫（専業）（52.0%）と続いた。総合2位の「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館など）」は農・林・漁業（41.7%）が最も多く、次いでその他（40.0%）、主婦・主夫（パートなど）（36.5%）と続いた。総合3位の「まちのにぎわいづくり」は自営業（44.2%）が最も多く、次いで公務員・教員（41.7%）、会社員（38.1%）と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」は小倉北区（51.6%）が最も多く、次いで八幡東区（51.4%）、八幡西区（49.6%）と続いた。最も少ないのは若松区（44.0%）で、最も多い小倉北区との差は7.6ポイントと、区による大きな差は見られなかった。総合2位の「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館など）」は八幡西区（36.3%）が最も多く、次いで門司区（31.9%）、小倉南区（30.4%）と続き、これらの区で3割を上回った。総合3位の「まちのにぎわいづくり」は戸畑区（45.1%）が最も多く、次いで小倉北区（36.4%）、八幡東区（35.8%）と続いた。なお、「災害に対する安全対策（火災、水害、土砂災害など）」は門司区（34.1%）

が最も多く、唯一3割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」は小倉地区（60.0%）が最も多く、次いで香月地区（54.5%）、門司（大里）地区（53.2%）と続いた。最も少ないのは門司港地区（25.0%）で、唯一3割を下回った。総合2位の「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館など）」は上津役地区（43.0%）が最も多く、次いで黒崎地区（40.0%）、門司港地区（38.9%）と続き、八幡西区内の4地区のうち2地区が上位であった。総合3位の「まちのにぎわいづくり」は八幡東（西部）地区（46.2%）が最も多く、次いで戸畑地区（45.1%）、小倉（西部）地区（38.5%）と続いた。最も少ないのは門司（東部）地区（13.6%）で、唯一2割を下回った。

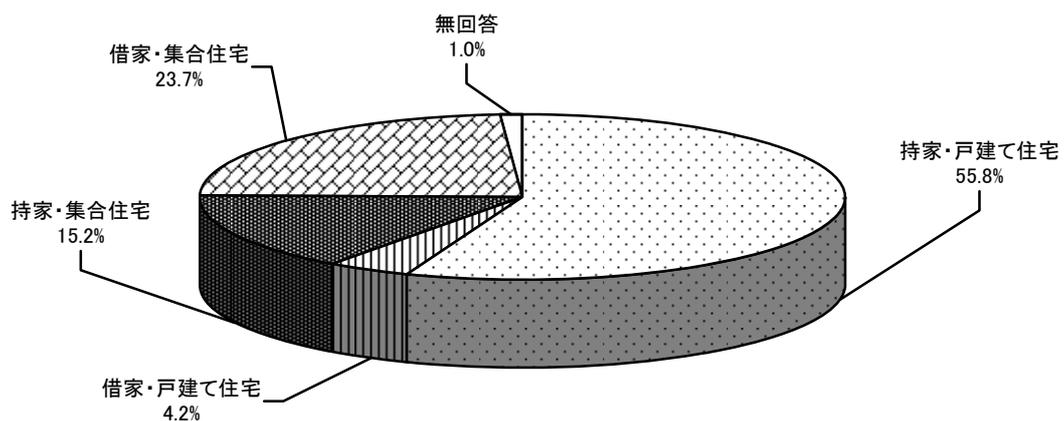
(8) 現在住んでいる住宅

問9 あなたが、現在住んでいる住宅は次のどれにあたりますか。次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,365 人

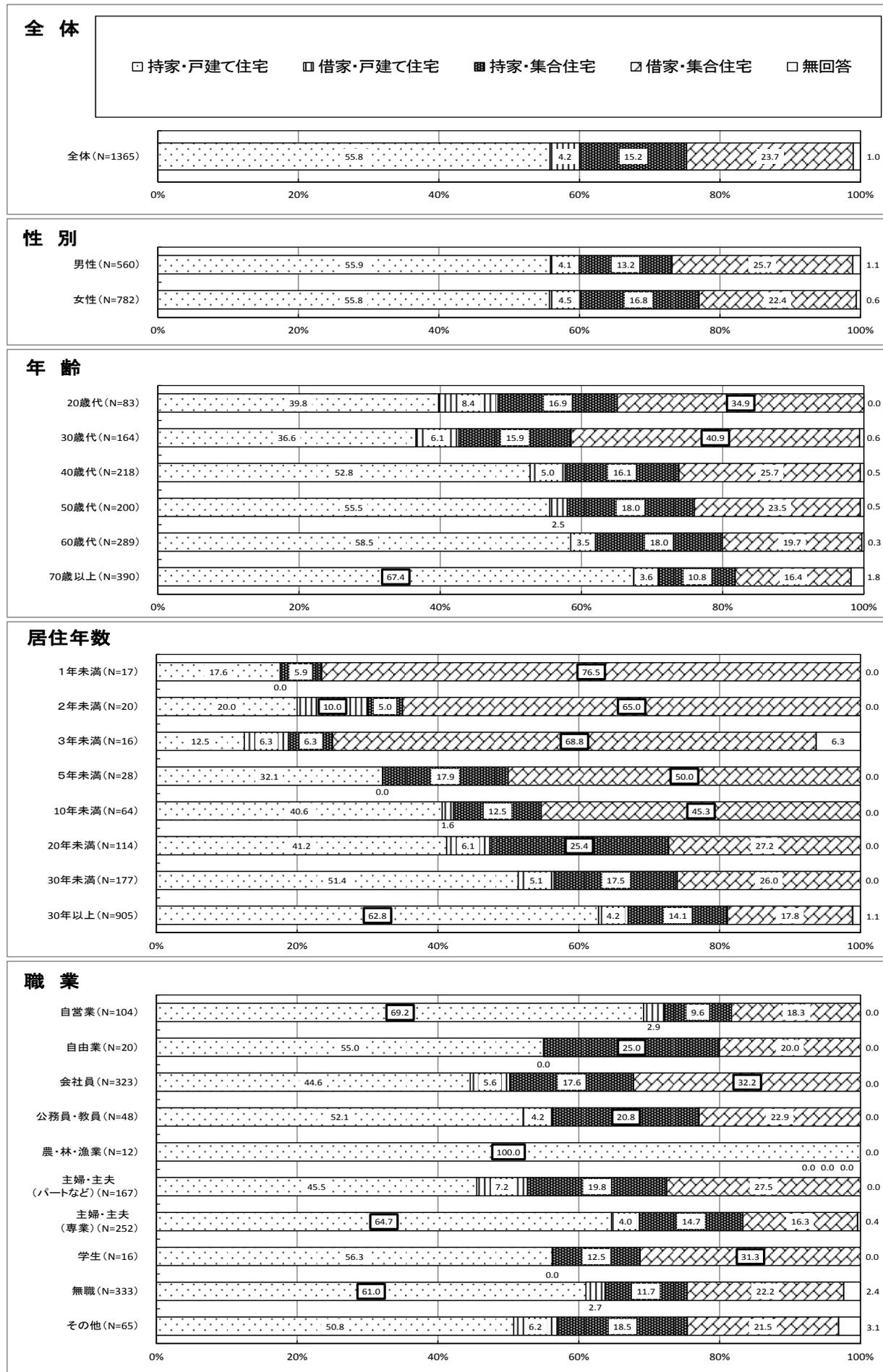
項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 持家・戸建て住宅	762	55.8
2 借家・戸建て住宅	58	4.2
3 持家・集合住宅	208	15.2
4 借家・集合住宅	323	23.7
無回答	14	1.0

- ◇ 現在住んでいる住宅は、
- 1位 「持家・戸建て住宅」(55.8%)
 - 2位 「借家・集合住宅」(23.7%)
 - 3位 「持家・集合住宅」(15.2%)



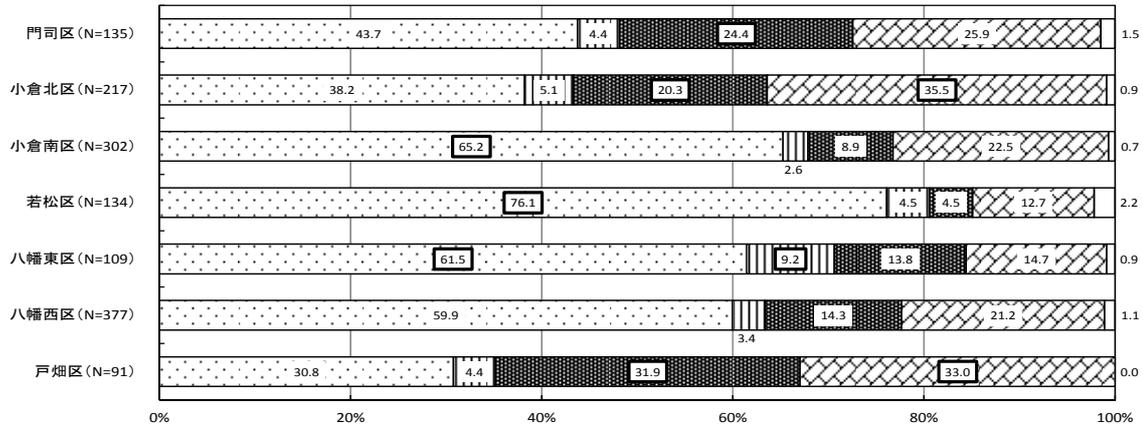
□ 持家・戸建て住宅 □ 借家・戸建て住宅 ■ 持家・集合住宅 ▨ 借家・集合住宅 □ 無回答

問9 現在住んでいる住宅

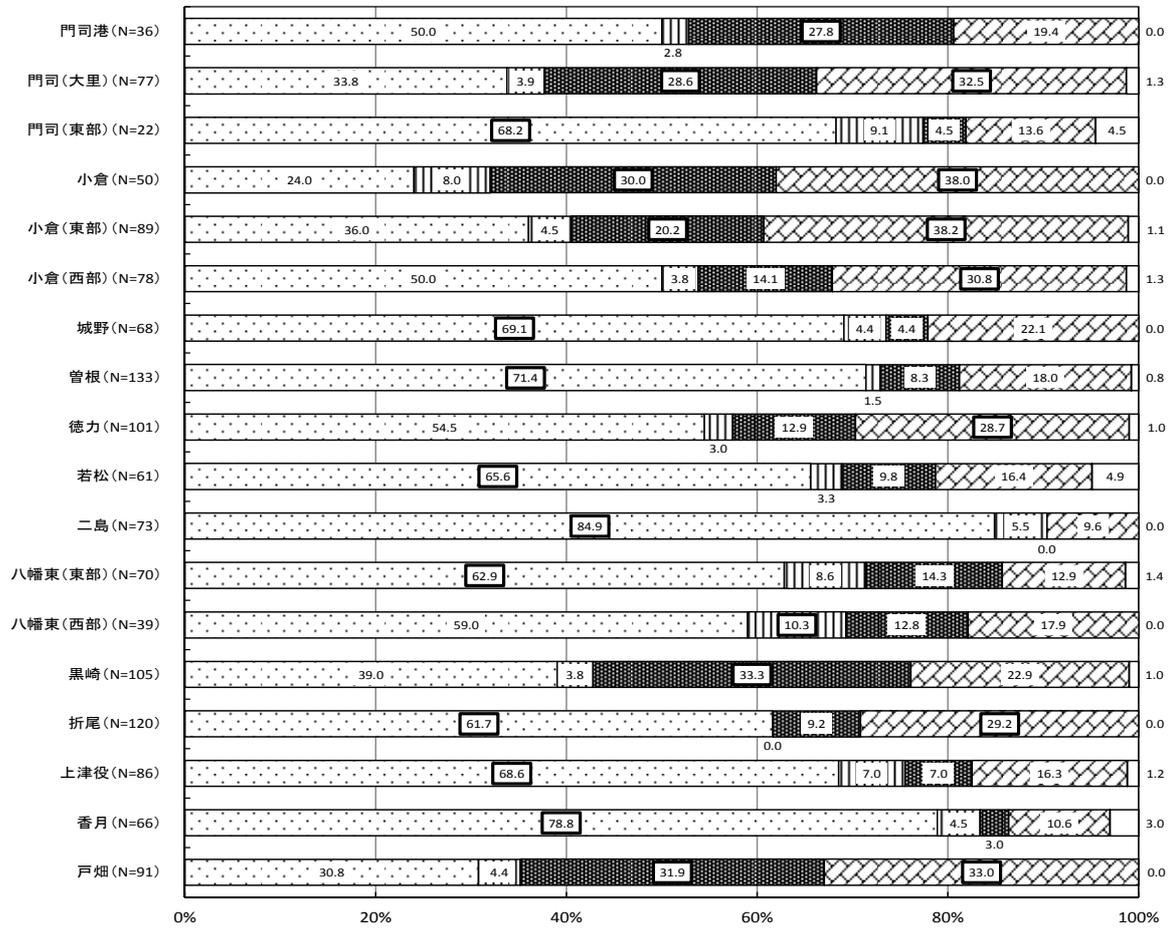


居住区

□ 持家・戸建て住宅 □ 借家・戸建て住宅 ■ 持家・集合住宅 ▨ 借家・集合住宅 □ 無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

現在住んでいる住宅

【全体的傾向】

現在住んでいる住宅について尋ねた。

その結果、「持家・戸建て住宅」(55.8%)が最も多く、6割弱を占めた。次いで「借家・集合住宅」(23.7%)、「持家・集合住宅」(15.2%)、「借家・戸建て住宅」(4.2%)の順であった。なお、「持家・戸建て住宅」と「借家・戸建て住宅」を合わせた『戸建て層』は60.0%で6割、「持家・集合住宅」と「借家・集合住宅」を合わせた『集合住宅層』は38.9%で4割弱を占めた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに「持家・戸建て住宅」が最も多く、男性(55.9%)と女性(55.8%)で差は見られなかった。『戸建て層』は男性(60.0%)と女性(60.3%)で差は見られず、『集合住宅層』でも男性(38.9%)と女性(39.2%)で差は見られなかった。
- ◇ 年齢別は、30歳代のみ「借家・集合住宅」(40.9%)が最も多かった。それ以外の全ての年齢層で「持家・戸建て住宅」が最も多く、70歳以上(67.4%)が最も多く、次いで60歳代(58.5%)、50歳代(55.5%)、40歳代(52.8%)、20歳代(39.8%)、30歳代(36.6%)の順になっており、40歳以上の各年齢層では「持家・戸建て住宅」に住んでいる人が5割を上回り、年齢層が高くなるにつれ増加した。20歳代及び30歳代は4割を下回った。一方、「借家・集合住宅」は30歳代(40.9%)が最も多く、唯一4割を上回り、次いで20歳代(34.9%)、40歳代(25.7%)と続き、若年層で多い傾向であった。『戸建て層』は70歳以上(71.0%)で最も多く、『集合住宅層』は30歳代(56.8%)で最も多かった。
- ◇ 居住年数別では、「持家・戸建て住宅」は20年未満から30年以上の各層で最も多く、30年以上(62.8%)が最も多く、次いで30年未満(51.4%)、20年未満(41.2%)と続いた。一方、「借家・集合住宅」は1年未満から10年未満の各層で最も多かった。1年未満(76.5%)が最も多く、次いで3年未満(68.8%)、2年未満(65.0%)と続いた。「持家・集合住宅」は20年未満(25.4%)が最も多く、唯一2割を上回った。『戸建て層』は30年以上(67.0%)で最も多く、次いで30年未満(56.5%)と、これらの層で5割を上回った。『集合住宅層』は1年未満(82.4%)で最も多く、次いで3年未満(75.1%)、2年未満(70.0%)と続き、これらの層で7割以上を占めた。
- ◇ 職業別では、全ての職業層で「持家・戸建て住宅」が最も多かった。中でも農・林・漁業(100.0%)が最も多く、次いで自営業(69.2%)、主婦・主夫(専業)(64.7%)無職(61.0%)と続き、これらの職業層で6割を上回った。「借家・集合住宅」は会社員(32.2%)が最も多く、次いで学生(31.3%)、主婦・主夫(パートなど)(27.5%)と続いた。「持家・集合住宅」は自由業(25.0%)が最も多く、次いで公務員・教員(20.8%)と続き、これらの職業層で2割を上回った。『戸建て層』は農・林・漁業(100.0%)が最も多く、次いで自営業(72.1%)と続いた。『集合住宅層』は会社員(49.8%)、主婦・主夫(パートなど)(47.3%)、自由業(45.0%)と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、戸畑区のみ「借家・集合住宅」が33.0%で最も多かった。それ以外の6区では「持家・戸建て住宅」が最も多かった。中でも若松区(76.1%)が最も多く、次いで小倉南区(65.2%)、八幡東区(61.5%)と続き、これらの区で6割を上回った。「持家・集合住宅」は戸畑区(31.9%)が最も多く、次いで門司区(24.4%)、小倉北区(20.3%)と続き、これらの区で2割を上回った。『戸建て層』は若松区(80.6%)で最も多く、次いで八幡東区(70.7%)と続き、これらの区で7割を上回った。『集合住宅層』は戸畑区(64.9%)で最も

多く、次いで小倉北区（55.8%）、門司区（50.3%）と続き、これらの区で5割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると「持家・戸建て住宅」は二島地区（84.9%）が最も多く、次いで香月地区（78.8%）、曾根地区（71.4%）と続いた。「借家・集合住宅」は小倉（東部）地区（38.2%）が最も多く、次いで小倉地区（38.0%）、戸畑地区（33.0%）と続いた。「持家・集合住宅」は黒崎地区（33.3%）が最も多く、次いで戸畑地区（31.9%）、小倉地区（30.0%）と続き、これらの地区で3割以上を占めた。「借家・戸建て住宅」は八幡東（西部）地区（10.3%）が最も多く、唯一1割を上回った。『戸建て層』は二島地区（90.4%）で最も多く、次いで香月地区（83.3%）と続き、これらの地区で8割を上回った。『集合住宅層』は小倉地区（68.0%）で最も多く、次いで戸畑地区（64.9%）、門司（大里）地区（61.1%）と続き、これらの地区で6割を上回った。

(9) 現在、同居している世帯の構成

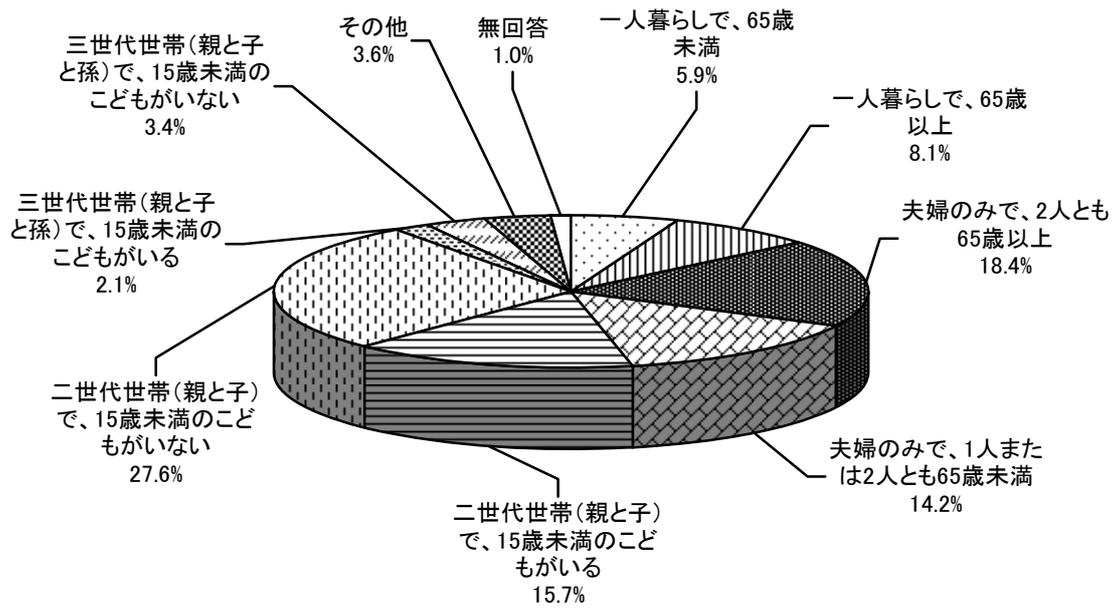
問10 あなたが、現在、同居されている世帯の構成は次のどれにあたりますか。次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,365人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 一人暮らしで、65歳未満	80	5.9
2 一人暮らしで、65歳以上	111	8.1
3 夫婦のみで、2人とも65歳以上	251	18.4
4 夫婦のみで、1人または2人とも65歳未満	194	14.2
5 二世帯世帯(親と子)で、15歳未満のこどもがいる	214	15.7
6 二世帯世帯(親と子)で、15歳未満のこどもがいない	377	27.6
7 三世帯世帯(親と子と孫)で、15歳未満のこどもがいる	29	2.1
8 三世帯世帯(親と子と孫)で、15歳未満のこどもがいない	47	3.4
9 その他	49	3.6
無回答	13	1.0

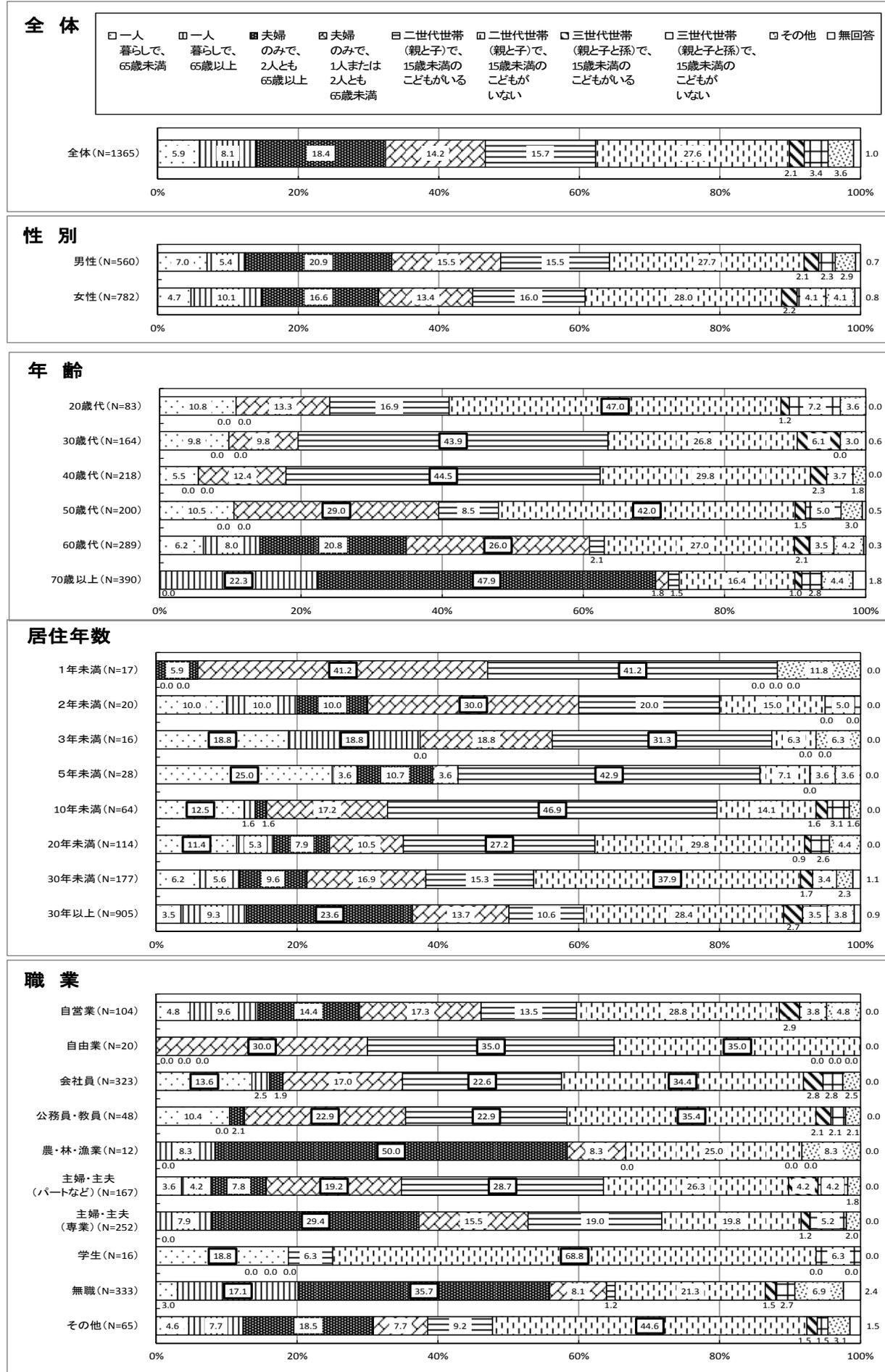
◇ 同居している世帯の構成は、

- 1位 「二世帯世帯(親と子)で、15歳未満のこどもがいない」(27.6%)
- 2位 「夫婦のみで、2人とも65歳以上」(18.4%)
- 3位 「二世帯世帯(親と子)で、15歳未満のこどもがいる」(15.7%)



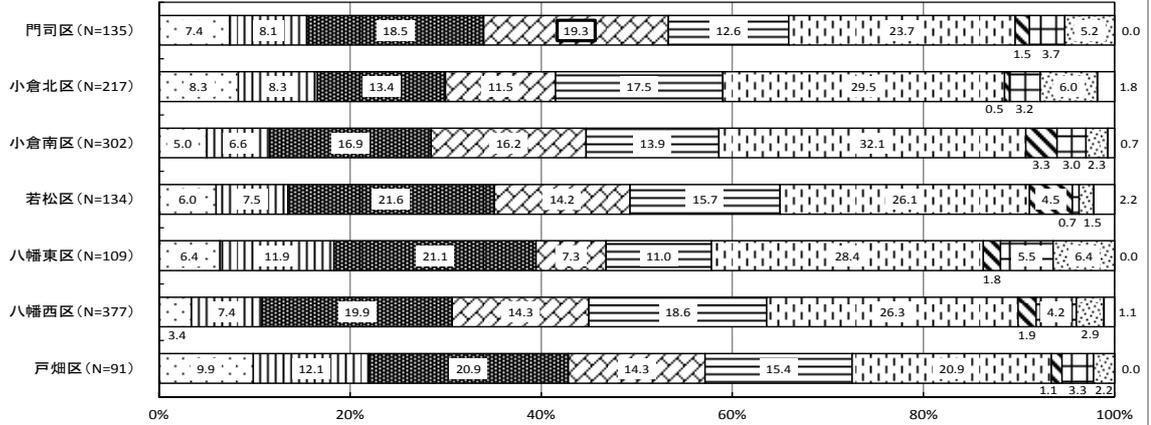
- 一人暮らしで、65歳未満
- ▣ 一人暮らしで、65歳以上
- 夫婦のみで、2人とも65歳以上
- ▤ 夫婦のみで、1人または2人とも65歳未満
- ▥ 二世世代世帯(親と子)で、15歳未満のこどもがいる
- 二世世代世帯(親と子)で、15歳未満のこどもがいない
- ▨ 三世世代世帯(親と子と孫)で、15歳未満のこどもがいる
- ▩ 三世世代世帯(親と子と孫)で、15歳未満のこどもがいない
- ⊠ その他
- 無回答

問10 現在、同居している世帯の構成

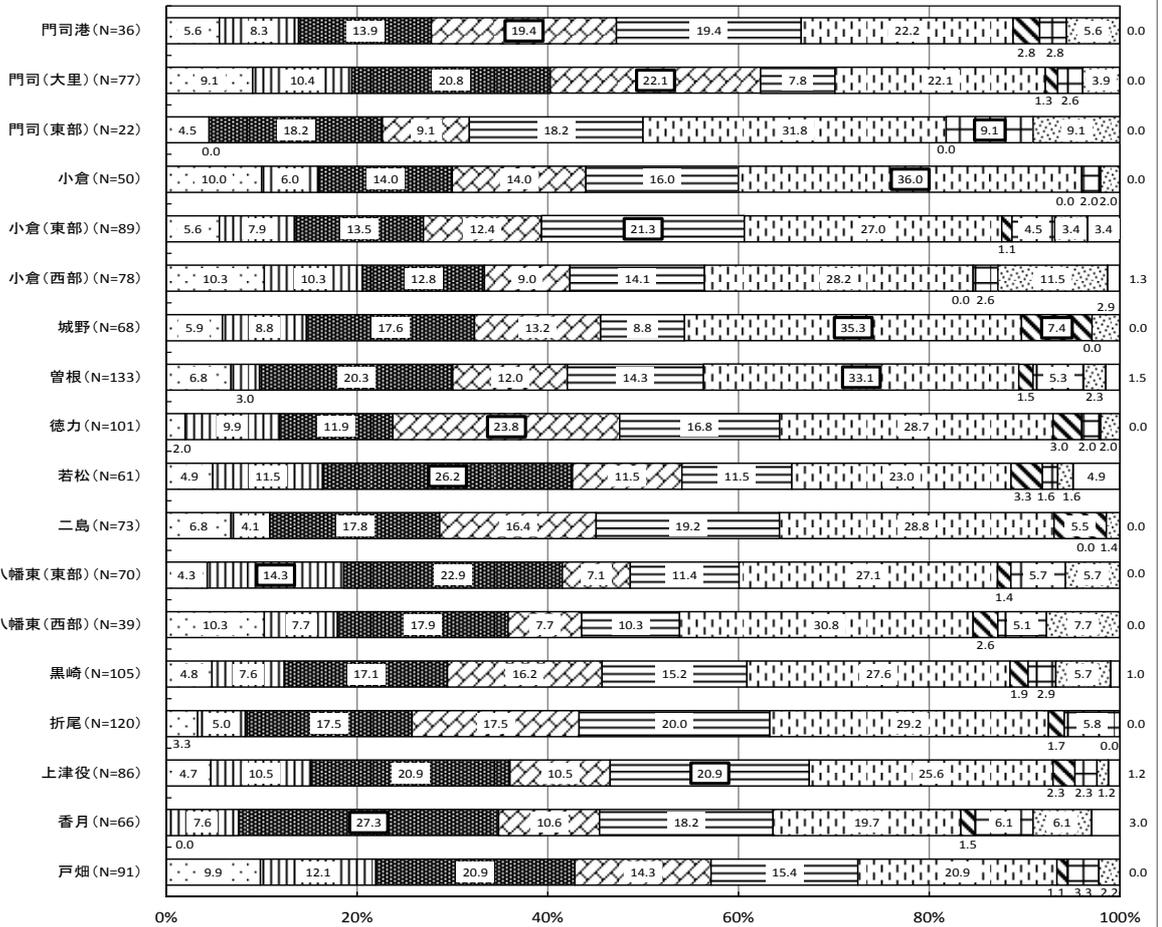


居住区

□一人暮らし 65歳未満
 □一人暮らし 65歳以上
 ■夫婦のみで、2人とも65歳以上
 ■夫婦のみで、1人または2人とも65歳未満
 □二世世代世帯（親と子）で、15歳未満の子どもがいる
 □二世世代世帯（親と子）で、15歳未満の子どもがいない
 ■三世世代世帯（親と子と孫）で、15歳未満の子どもがいる
 □三世世代世帯（親と子と孫）で、15歳未満の子どもがいない
 □その他 □無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

現在、同居している世帯の構成

【全体的傾向】

同居している世帯の構成について尋ねた。

その結果、「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいない」（27.6%）が最も多く、次いで「夫婦のみで、2人とも65歳以上」（18.4%）、「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」（15.7%）と続いた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに総合1位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいない」が最も多く、男性（27.7%）と女性（28.0%）で差は見られなかった。総合2位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」は男性（20.9%）が女性（16.6%）を上回った。総合3位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」は男性（15.5%）と女性（16.0%）で差は見られなかった。
- ◇ 年齢別では、20歳代、50歳代及び60歳代では総合1位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいない」が最も多く、30歳代及び40歳代は「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」が最も多かった。70歳以上は総合2位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」が最も多かった。総合1位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいない」は20歳代（47.0%）が最も多く、次いで50歳代（42.0%）、40歳代（29.8%）と続いた。総合2位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」は70歳以上（47.9%）で4割を上回り、60歳代（20.8%）で約2割であった。総合3位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」は40歳代（44.5%）が最も多く、次いで30歳代（43.9%）、20歳代（16.9%）と続いた。
- ◇ 居住年数別では、1年未満及び2年未満は「夫婦のみで、1人または2人とも65歳未満」が最も多く、3年未満、5年未満及び10年未満で総合1位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」が最も多く、20年未満、30年未満、及び30年以上で総合3位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいない」が最も多かった。総合1位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」は30年未満（37.9%）が最も多く、次いで20年未満（29.8%）、30年以上（28.4%）と続き、居住年数の長い層で多い傾向にあった。総合2位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」は30年以上（23.6%）が最も多く、次いで5年未満（10.7%）、2年未満（10.0%）と続いた。総合3位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」は10年未満（46.9%）が最も多く、次いで5年未満（42.9%）、1年未満（41.2%）と続き、これらの居住年数層で4割を上回った。
- ◇ 職業別では、農・林・漁業、主婦・主夫（専業）及び無職では総合2位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」が最も多く、自由業及び主婦・主夫（パートなど）で総合3位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」が最も多く、それ以外の職業層では全て総合1位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいない」が最も多かった。中でも、学生（68.8%）が最も多く、次いでその他（44.6%）、公務員・教員（35.4%）と続いた。総合2位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」は農・林・漁業（50.0%）が最も多く、次いで無職（35.7%）、主婦・主夫（専業）（29.4%）と続いた。総合3位の「二世帯世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」は自由業（35.0%）が最も多く、次いで主婦・主夫（パートなど）（28.7%）、公務員・教員（22.9%）と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、戸畑区のみ総合2位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」が最

も多かった。それ以外の6区で総合1位の「二世世代世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいない」最も多かった。中でも、小倉南区（32.1%）が最も多く、次いで小倉北区（29.5%）、八幡東区（28.4%）と続いた。総合2位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」は、最も多い若松区（21.6%）と最も少ない小倉北区（13.4%）とのポイント差は8.3と、大きな差は見られなかった。総合3位の「二世世代世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」は、最も多い八幡西区（18.6%）と最も少ない八幡東区（11.0%）とのポイント差は7.6と、大きな差は見られなかった。

行政区を18地区に細分化して見ると、若松、香月及び戸畑の3地区で総合3位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」が最も多く、門司（大里）地区で「夫婦のみで、1人または2人とも65歳未満」が最も多かった。それ以外の14地区全てで総合1位の「二世世代世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいない」が最も多かった。中でも、小倉地区（36.0%）が最も多く、次いで城野地区（35.3%）、曾根地区（33.1%）と続いた。総合2位の「夫婦のみで、2人とも65歳以上」は、香月地区（27.3%）が最も多く、次いで若松地区（26.2%）、八幡東（東部）地区（22.9%）と続いた。総合3位の「二世世代世帯（親と子）で、15歳未満のこどもがいる」は、小倉（東部）地区（21.3%）が最も多く、次いで上津役地区（20.9%）、折尾地区（20.0%）と続き、これらの区で2割以上を占めた。「夫婦のみで、1人または2人とも65歳未満」は、徳力地区（23.8%）が最も多く、次いで門司（大里）地区（22.1%）、門司港地区（19.4%）と続いた。

(10) 現在の場所での居住年数

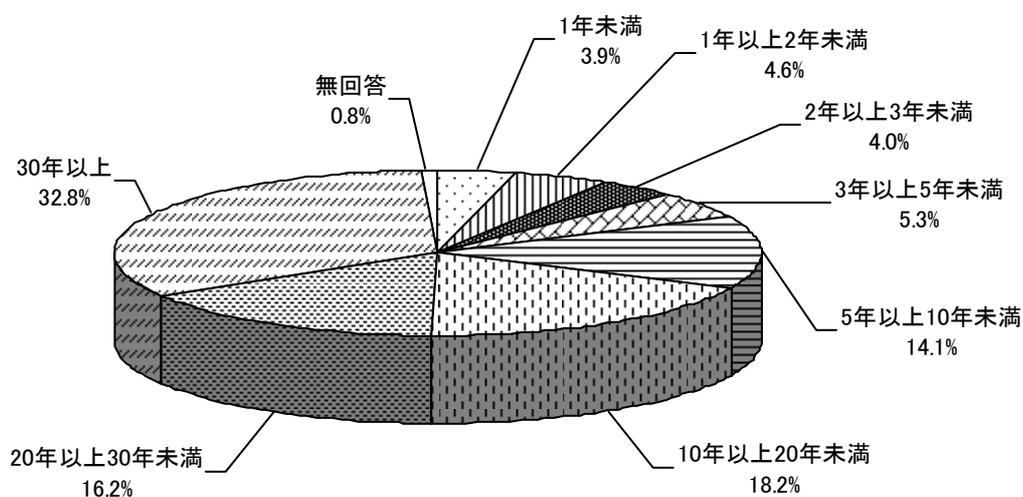
問 11 あなたは、現在の場所に住んで何年になりますか。次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,365 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 1年未満	53	3.9
2 1年以上2年未満	63	4.6
3 2年以上3年未満	55	4.0
4 3年以上5年未満	73	5.3
5 5年以上10年未満	192	14.1
6 10年以上20年未満	249	18.2
7 20年以上30年未満	221	16.2
8 30年以上	448	32.8
無回答	11	0.8

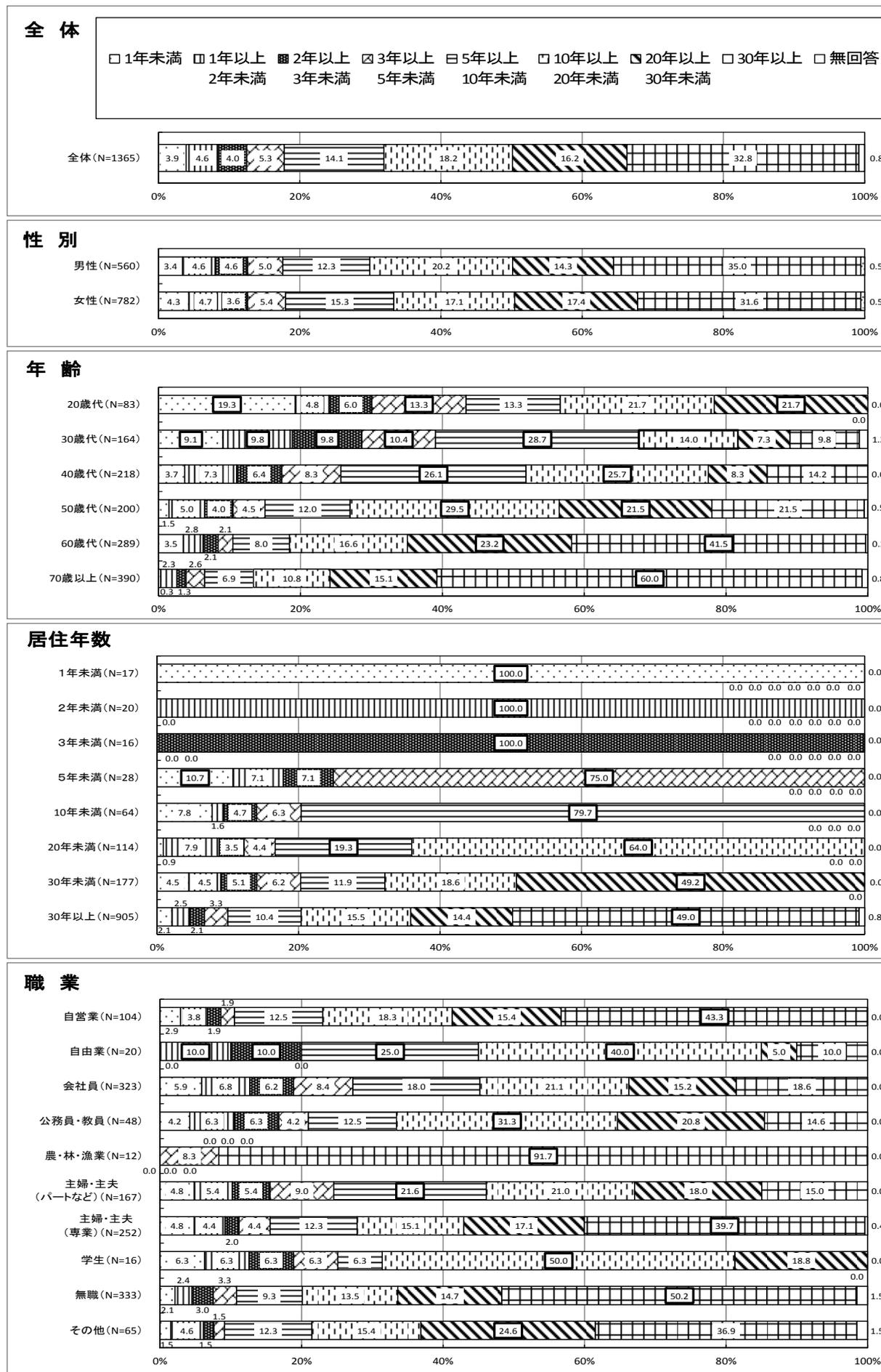
◇ 現在の場所に住んで何年になるかは、

- 1位 「30年以上」(32.8%)
- 2位 「10年以上20年未満」(18.2%)
- 3位 「20年以上30年未満」(16.2%)



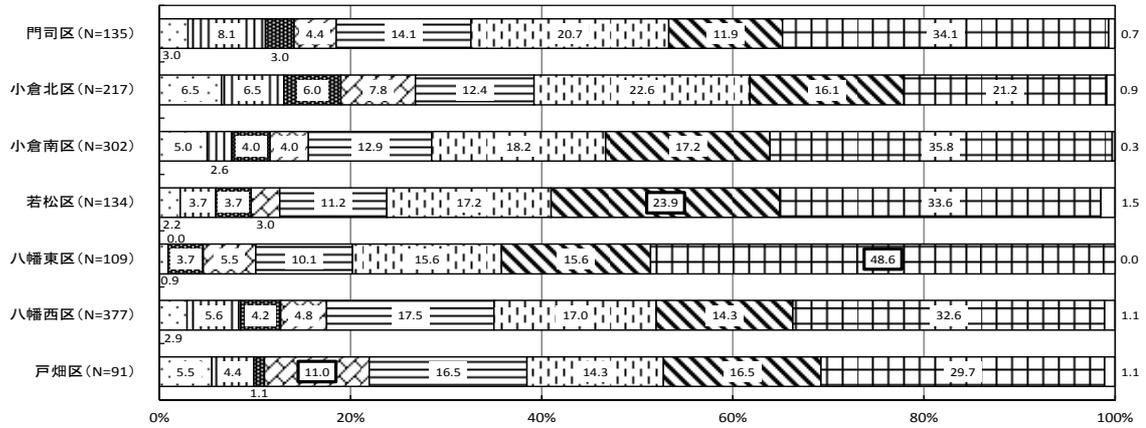
□ 1年未満	□ 1年以上2年未満	■ 2年以上3年未満
□ 3年以上5年未満	□ 5年以上10年未満	□ 10年以上20年未満
■ 20年以上30年未満	□ 30年以上	□ 無回答

問 12 現在の場所での居住年数

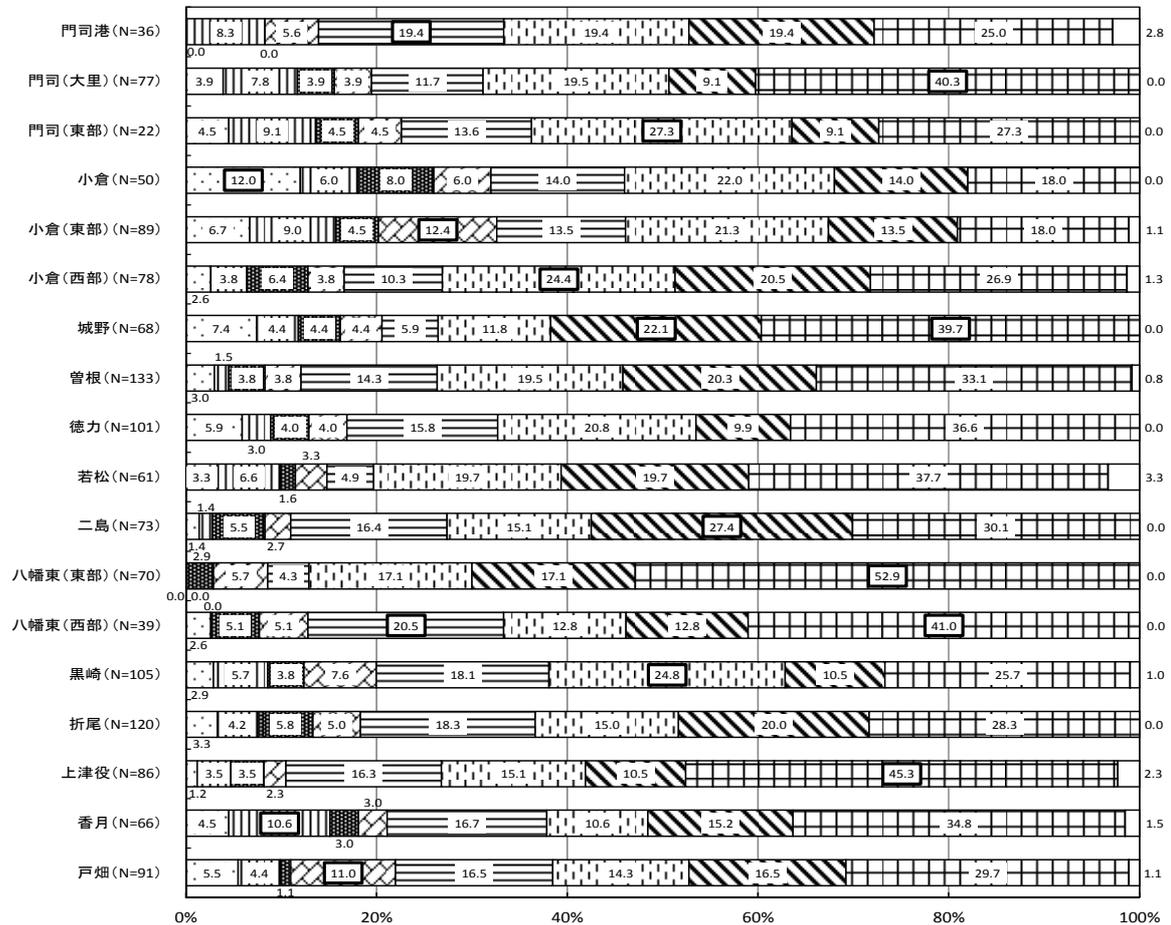


居住区

□1年未満 □1年以上 2年未満 □2年以上 3年未満 □3年以上 5年未満 □5年以上 10年未満 □10年以上 20年未満 □20年以上 30年未満 □無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

現在の場所での居住年数

【全体的傾向】

現在の場所に住んで何年になるかについて尋ねた。

その結果、「30年以上」(32.8%)が最も多く、3割強を占めた。次いで「10年以上20年未満」(18.2%)、「20年以上30年未満」(16.2%)と続き、これらを合わせた『10年以上』は67.2%と7割弱を占めた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに「30年以上」が最も多く、男性(35.0%)が女性(31.6%)を上回った。『10年以上』も男性(69.5%)が女性(66.1%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、20歳代及び50歳代では「10年以上20年未満」が最も多く、30歳代及び40歳代では「5年以上10年未満」が最も多く、60歳代及び70歳以上では「30年以上」が最も多かった。「30年以上」は70歳以上(60.0%)が最も多く、次いで60歳代(41.5%)、50歳代(21.5%)と続いた『10年以上』も70歳以上(85.9%)が最も多く、次いで60歳代(81.3%)、50歳代(72.5%)と続き、これらの年齢層で7割を上回った。最も少ないのは30歳代(31.1%)で、全ての年齢層で3割を上回った。なお、「1年未満」は20歳代(19.3%)が最も多く、次いで30歳代(9.1%)、40歳代(3.7%)と続いた。
- ◇ 居住年数別では、1年未満では「1年未満」(100.0%)との回答のみ、2年未満では「1年以上2年未満」(100.0%)との回答のみ、3年未満では「2年以上3年未満」(100.0%)との回答のみで、3年未満までの居住年数層では、初めて本市で住んだ場所に全員が現在も住んでいた。5年未満では「3年以上5年未満」(75.0%)が最も多く、10年未満では「5年以上10年未満」(79.7%)が最も多かった。20年未満では「10年以上20年未満」(64.0%)が最も多く、これらの居住年数層では、本市の居住年数に最も近いレンジを回答している人が6割を上回った。一方、30年未満では「20年以上30年未満」(49.2%)が最も多く、30年以上では「30年以上」(49.0%)が最も多かったが、それぞれ5割を下回っており、現在住んでいる場所の居住年数が本市での居住年数より短い、つまり市内で1回以上転居していると推測される人が5割を上回っている。なお、『10年以上』は30年以上(78.9%)で最も多く、次いで30年未満(67.8%)、20年未満(64.0%)の順であった。
- ◇ 職業別では、自営業、農・林・漁業、主婦・主夫(専業)、無職、及びその他では「30年以上」が最も多かった。中でも、農・林・漁業(91.7%)は最も多く、次に多い無職(50.2%)を41.5ポイント上回っており、突出している。一方、自由業、会社員、公務員・教員、学生は「10年以上20年未満」が最も多かった。中でも、学生(50%)が最も多く、次いで自由業(40.0%)、公務員・教員(31.3%)と続いた。主婦・主夫(パートなど)は「5年以上10年未満」(21.6%)が最も多く、僅差で「10年以上20年未満」(21.0%)が続いていた。なお、『10年以上』は、農・林・漁業(91.7%)で最も多く、最も少ない主婦・主夫(パートなど)でも54.0%と、全ての職業層で5割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、小倉北区のみ「10年以上20年未満」が最も多く、それ以外の6区では「30年以上」が最も多かった。中でも、八幡東区(48.6%)が最も多く、次いで小倉南区(35.8%)、門司区(34.1%)と続いた。(21.2%)、「10年以上20年未満」は小倉北区(22.6%)が最も多く、次いで門司区(20.7%)、小倉南区(18.2%)と続いた。ただ、最も少ない戸畑区(14.3%)と最も多い小倉北区とは8.3ポイント差で区による大きな違いは見られなかった。

『10年以上』は八幡東区（79.8%）で最も多く、次いで若松区（74.7%）、小倉南区（71.2%）と続き、これらの区で7割を上回った。最も少ないのは小倉北区（59.9%）で約6割であった。

行政区を18地区に細分化して見ると、小倉及び小倉（東部）の2地区は「10年以上20年未満」が最も多く、門司（東部）地区は「10年以上20年未満」及び「30年以上」が同率（27.3%）で最も多かった。それ以外の15地区で「30年以上」が最も多かった。中でも、八幡東（東部）地区（52.9%）が最も多く、次いで上津役地区（45.3%）、八幡東（西部）地区（41.0%）と続いた。「10年以上20年未満」は門司（東部）地区（27.3%）が最も多く、次いで黒崎地区（24.8%）、小倉（西部）地区（24.4%）と続いた。『10年以上』は八幡東（東部）地区（87.1%）で最も多く、唯一8割を上回った。最も少ないのは小倉（東部）地区（52.8%）で、全ての地区で5割を上回った。

(11) 現在住んでいる場所

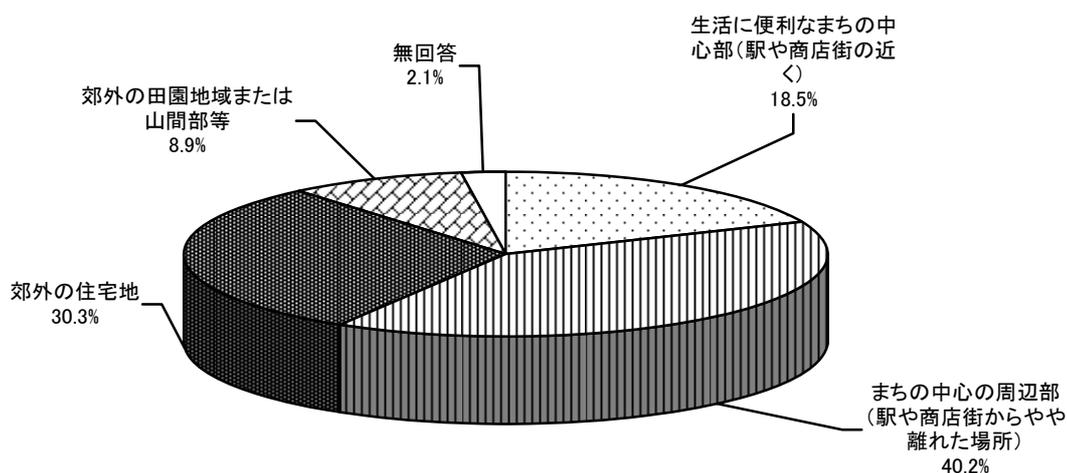
問12 あなたが、現在住んでいる場所は次のどれにあたりますか。次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,365 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 生活に便利なまちの中心部 (駅や商店街の近く)	252	18.5
2 まちの中心の周辺部 (駅や商店街からやや離れた場所)	549	40.2
3 郊外の住宅地	414	30.3
4 郊外の田園地域または山間部等	122	8.9
無回答	28	2.1

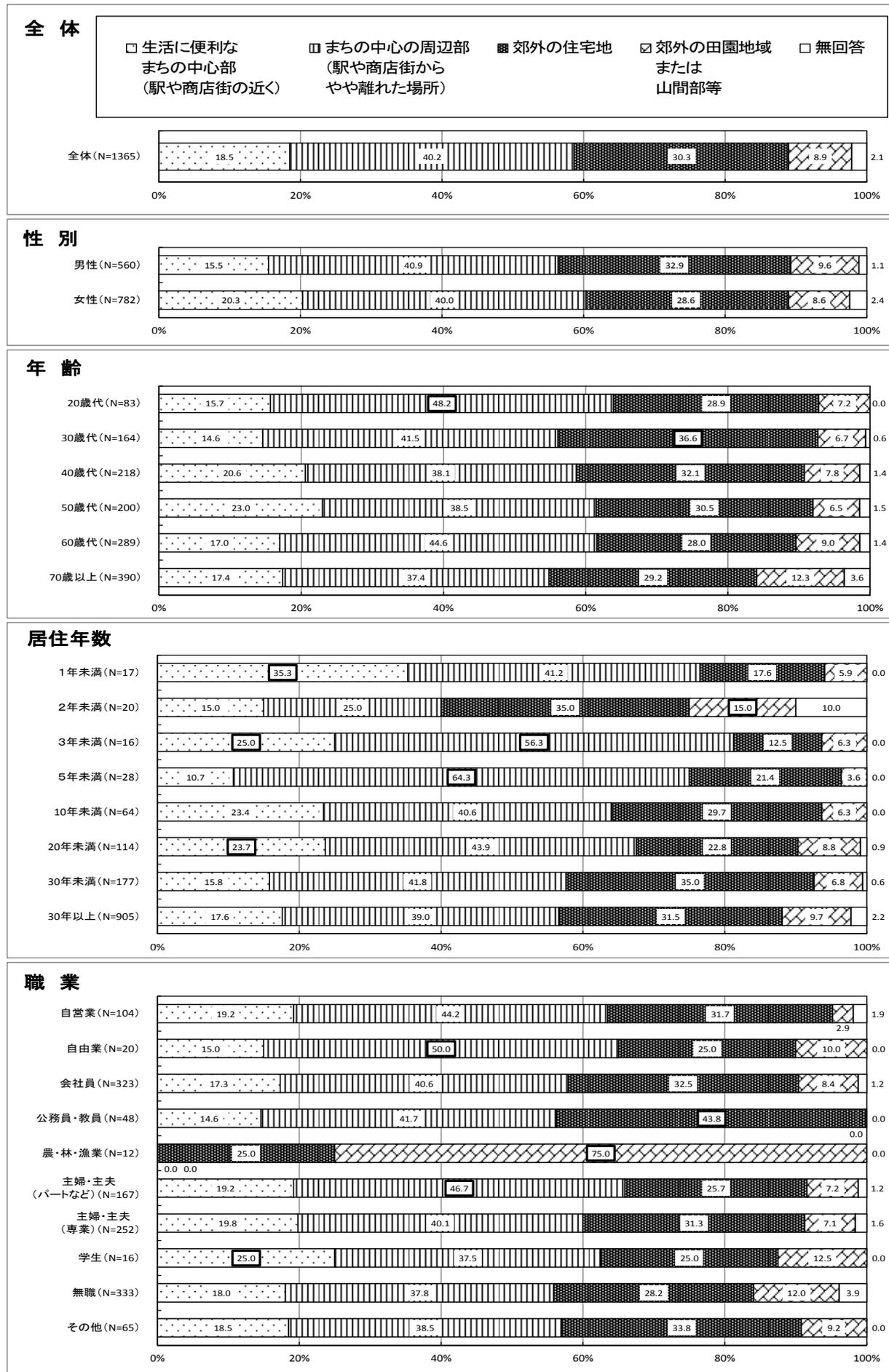
◇ 現在住んでいる場所は、

- 1位 「まちの中心の周辺部 (駅や商店街からやや離れた場所)」 (40.2%)
- 2位 「郊外の住宅地」 (30.3%)
- 3位 「生活に便利なまちの中心部 (駅や商店街の近く)」 (18.5%)



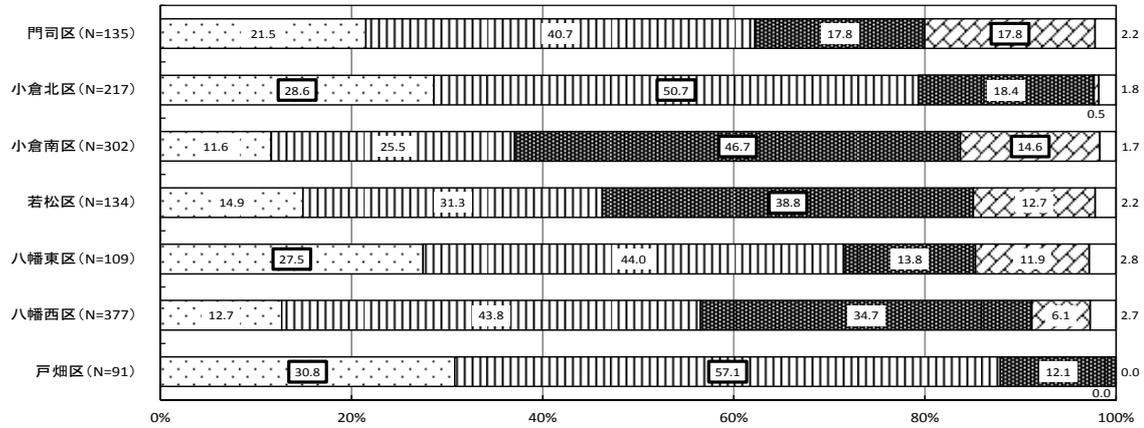
- 生活に便利なまちの中心部 (駅や商店街の近く)
- まちの中心の周辺部 (駅や商店街からやや離れた場所)
- 郊外の住宅地
- ▨ 郊外の田園地域または山間部等
- 無回答

問 12 現在住んでいる場所

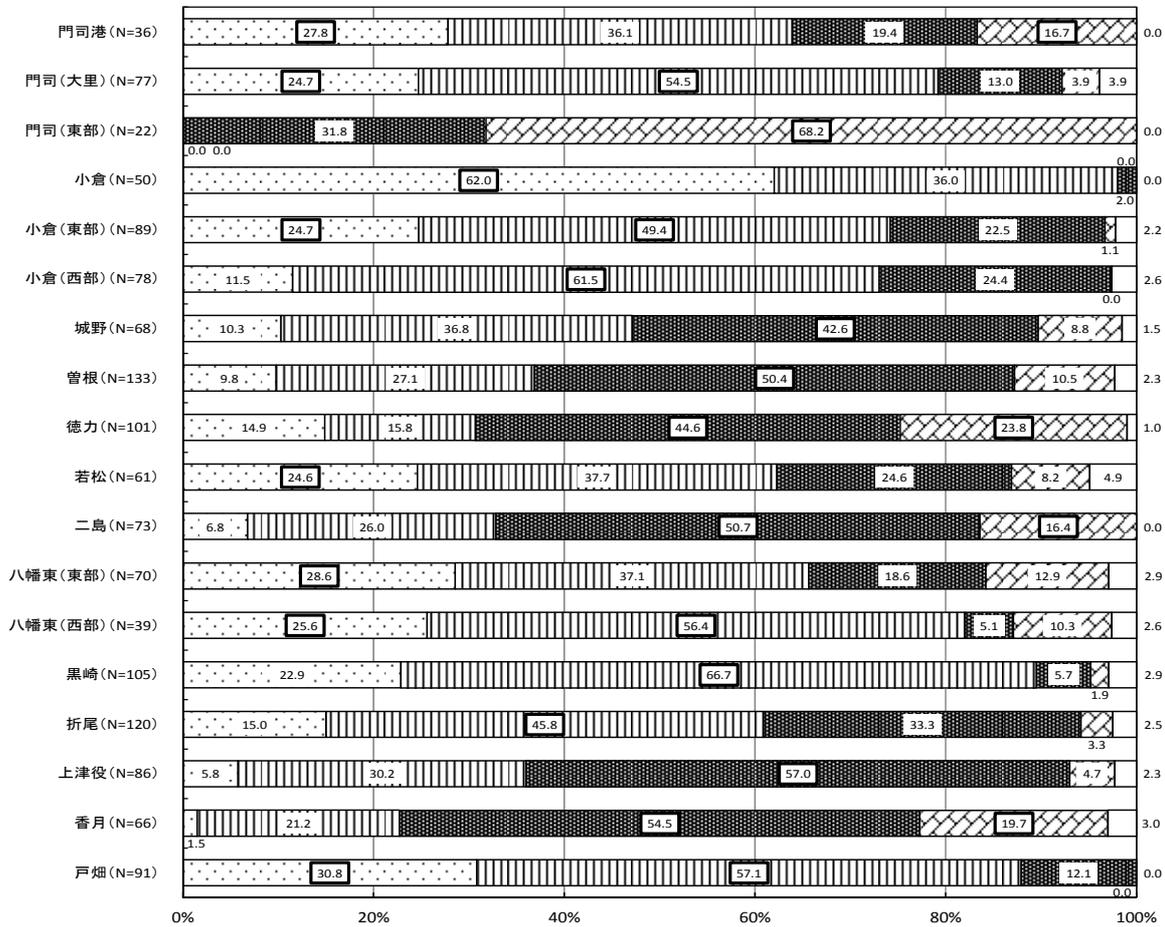


居住区

生活に便利な
まちな中心部
(駅や商店街の近く)
 まちの中心の周辺部
(駅や商店街から
やや離れた場所)
 郊外の住宅地
 郊外の田園地域
または
山間部等
 無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

現在住んでいる場所

【全体的傾向】

現在住んでいる場所について尋ねた。

その結果、「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」（40.2%）が最も多く、約4割を占めた。次いで「郊外の住宅地」（30.3%）、「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」（18.5%）、「郊外の田園地域または山間部等」（8.9%）の順であった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに総合1位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」が最も多く、男性（40.9%）と女性（40.0%）で差は見られなかった。総合2位の「郊外の住宅地」は男女ともに2番目に多く、男性（32.9%）が女性（28.6%）を上回った。総合3位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」は女性（20.3%）が男性（15.5%）を上回った。
- ◇ 年齢別でも、全ての年齢層で総合1位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」が最も多かった。中でも20歳代（48.2%）が最も多く、次いで60歳代（44.6%）、30歳代（41.5%）と続き、若年層を中心に多い傾向にあった。総合2位の「郊外の住宅地」は30歳代（36.6%）が最も多く、次いで40歳代（32.1%）、50歳代（30.5%）と続いた。最も少ないのは60歳代（28.0%）で最も多い30歳代とのポイント差は8.6と、年齢層による大きな差は見られなかった。総合3位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」は50歳代（23.0%）が最も多く、次いで40歳代（20.6%）、70歳以上（17.4%）と続いた。総合4位の「郊外の田園地域または山間部等」は70歳以上（12.3%）が最も多く、唯一1割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、2年未満のみ総合2位の「郊外の住宅地」（35.0%）が最も多かった。それ以外の居住年数層では総合1位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」が最も多かった。中でも、5年未満（64.3%）が最も多く、次いで3年未満（56.3%）、20年未満（43.9%）と続いた。総合2位の「郊外の住宅地」は2年未満及び30年未満（35.0%）が最も多く、次いで30年以上（31.5%）と続き、居住歴の長い層を中心に多い傾向にあった。総合3位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」は、1年未満（35.3%）が最も多く、次いで3年未満（25.0%）、20年未満（23.7%）と続いた。総合4位の「郊外の田園地域または山間部等」は2年未満（15.0%）が最も多く、唯一1割を上回った。
- ◇ 職業別では、公務員・教員では総合2位の「郊外の住宅地」（43.8%）が最も多く、農・林・漁業では、総合4位の「郊外の田園地域または山間部等」（75.0%）が最も多かった。これら以外の職業層では、総合1位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」が最も多かった。中でも、自由業（50.0%）が最も多く、次いで主婦・主夫（パートなど）（46.7%）、自営業（44.2%）と続いた。総合2位の「郊外の住宅地」は、公務員・教員（43.8%）が最も多く、次いでその他（33.8%）、会社員（32.5%）と続いた。総合3位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」は、学生（25.0%）が最も多く、唯一2割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、小倉南区及び若松区では、総合2位の「郊外の住宅地」が最も多かった。それ以外の5区では総合1位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」が最も多かった。中でも戸畑区（57.1%）が最も多く、次いで小倉北区（50.7%）と続き、この2区で5割を上回った。総合2位の「郊外の住宅地」は小倉南区（46.7%）が最も多く、次いで若松区（38.8%）、八幡西区（34.7%）と続いた。総合3位の「生活に便利なまちの

中心部（駅や商店街の近く）」は戸畑区（30.8%）が最も多く、次いで小倉北区（28.6%）、八幡東区（27.5%）と続いた。総合4位の「郊外の田園地域または山間部等」は門司区（17.8%）が最も多く、次いで小倉南区（14.6%）、若松区（12.7%）、八幡東区（11.9%）と続き、これらの区で1割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」は黒崎地区（66.7%）が最も多く、次いで小倉（西部）地区（61.5%）、戸畑地区（57.1%）と続いた。総合2位の「郊外の住宅地」は上津役地区（57.0%）が最も多く、次いで香月地区（54.5%）、二島地区（50.7%）と続いた。総合3位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」は小倉地区（62.0%）が最も多く、次いで多い戸畑地区（30.8%）とのポイント差は31.2と突出していた。総合4位の「郊外の田園地域または山間部等」は門司（東部）地区（68.2%）が最も多く、次いで多い徳力地区（23.8%）とのポイント差は44.4と突出していた。

(12) 住みたいと望む場所

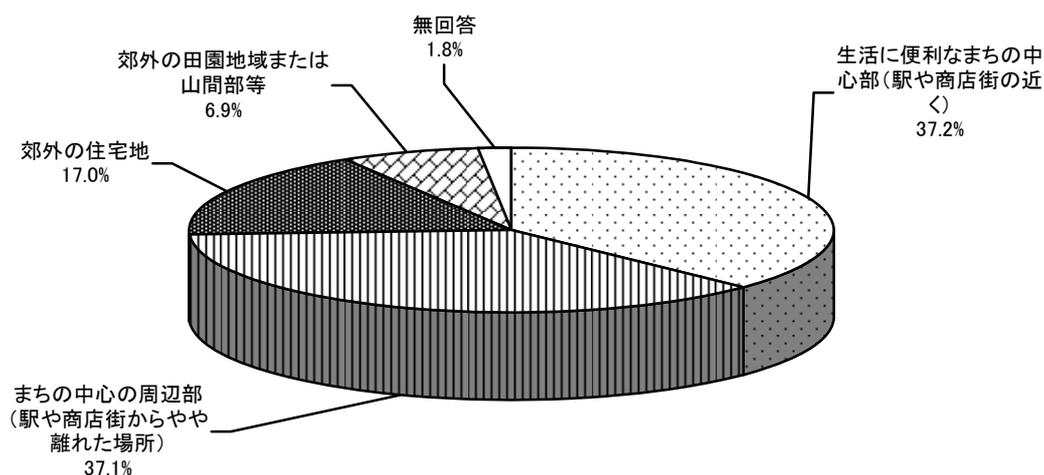
問 13 あなたが、住みたいと望む場所はどんなところですか。今、住んでいる場所も含めて、次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,365 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 生活に便利なまちの中心部 (駅や商店街の近く)	508	37.2
2 まちの中心の周辺部 (駅や商店街からやや離れた場所)	507	37.1
3 郊外の住宅地	232	17.0
4 郊外の田園地域または山間部等	94	6.9
無回答	24	1.8

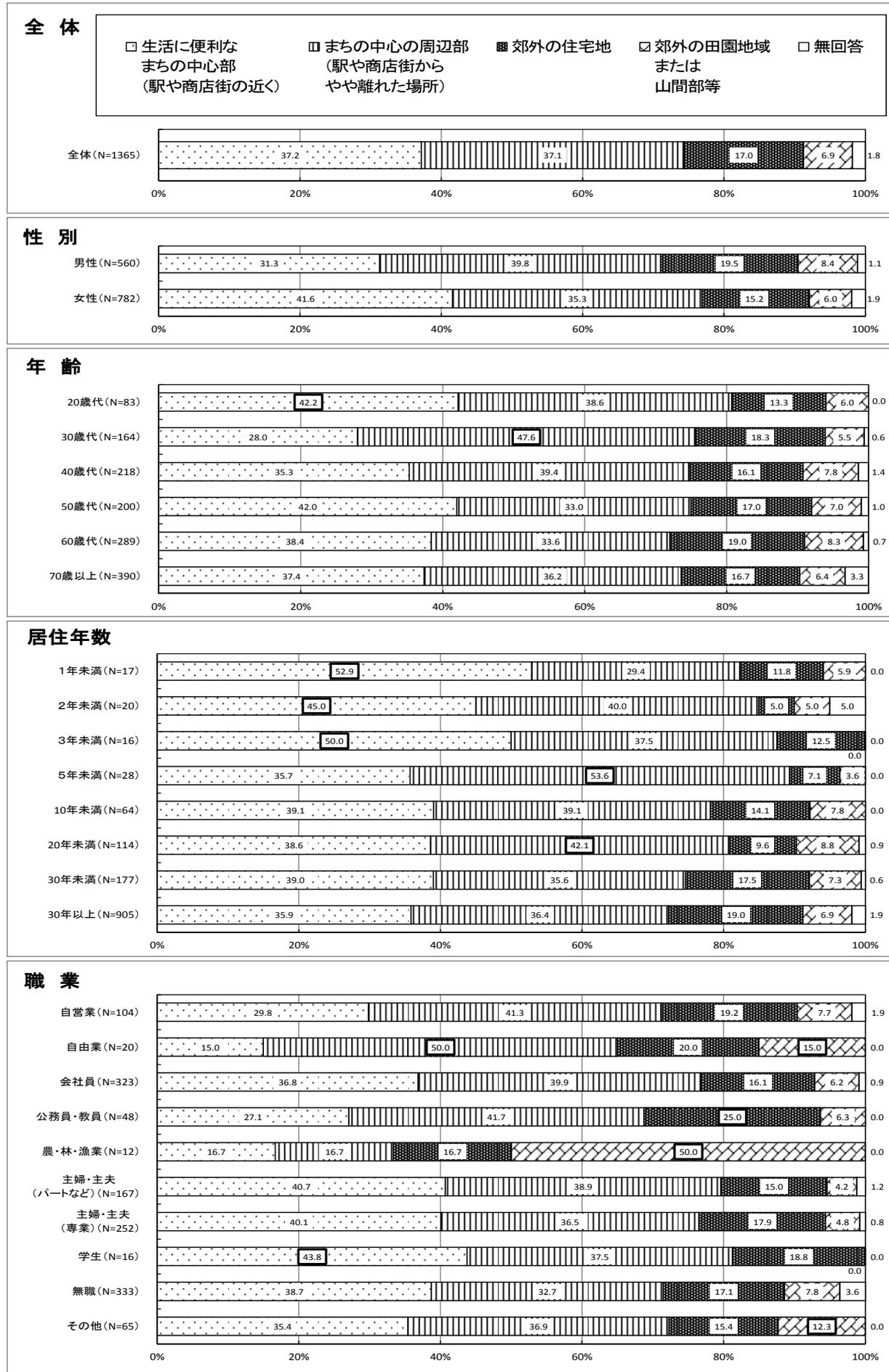
◇ 住みたいと望む場所は、

- 1位 「生活に便利なまちの中心部 (駅や商店街の近く)」 (37.2%)
- 2位 「まちの中心の周辺部 (駅や商店街からやや離れた場所)」 (37.1%)
- 2位 「郊外の住宅地」 (17.0%)



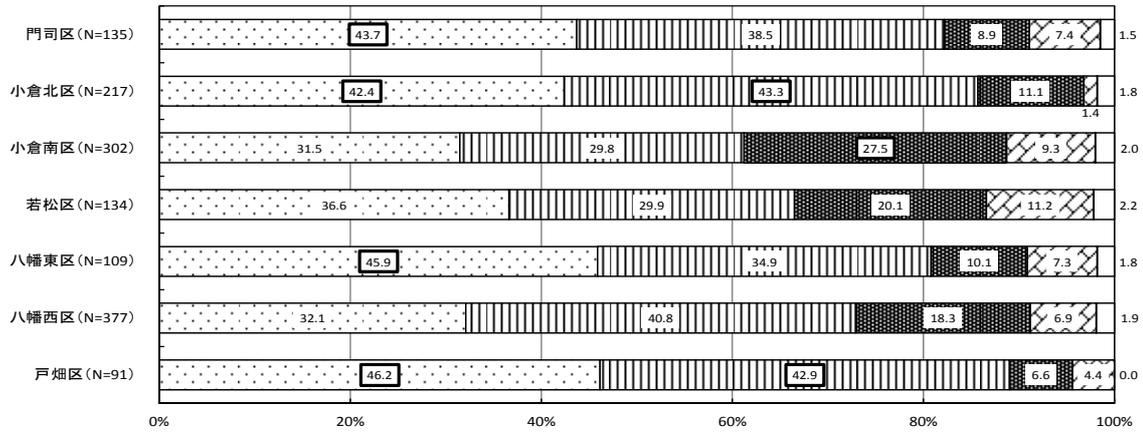
- 生活に便利なまちの中心部 (駅や商店街の近く)
- ▣ まちの中心の周辺部 (駅や商店街からやや離れた場所)
- 郊外の住宅地
- ▤ 郊外の田園地域または山間部等
- 無回答

問 13 住みたいと望む場所

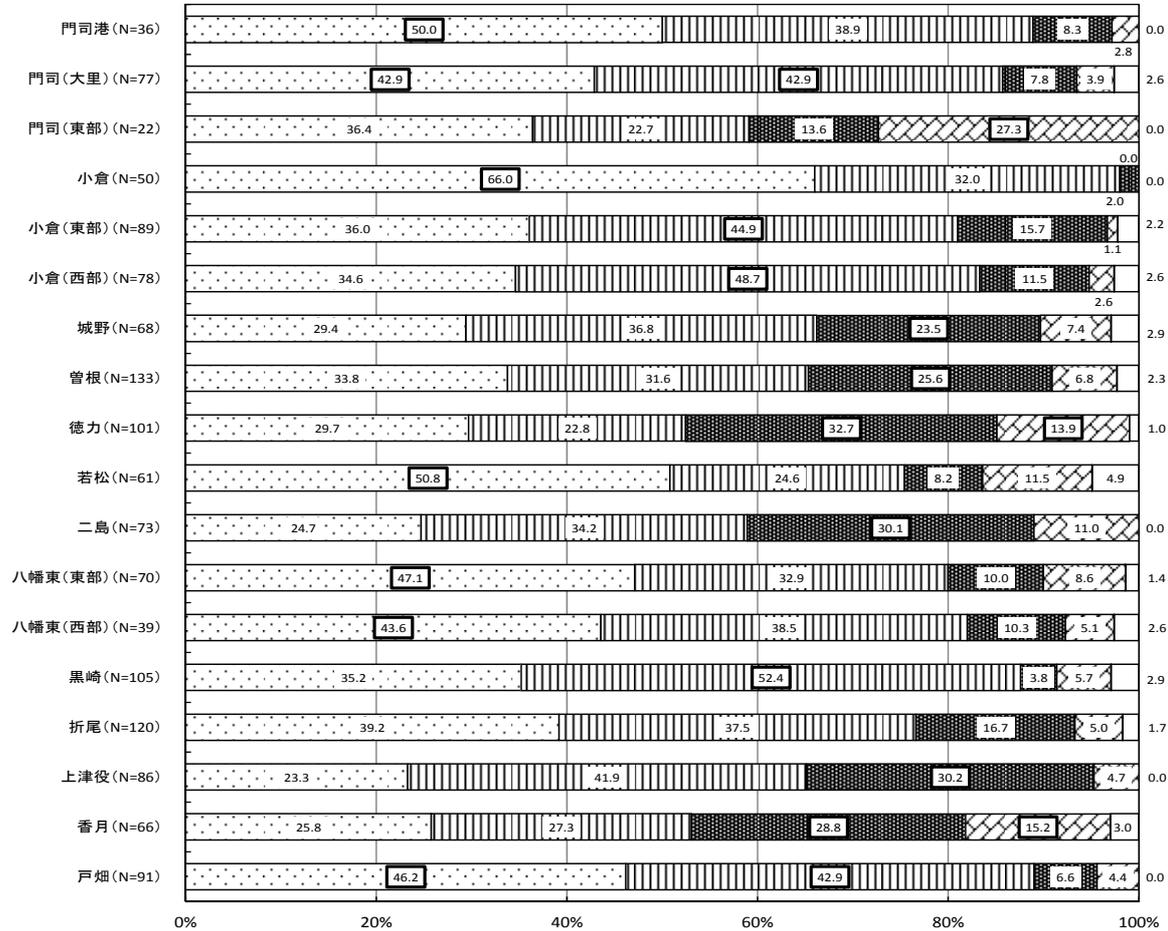


居住区

生活に便利な
 まちの中心部
 (駅や商店街の近く)
 まちの中心の周辺部
 (駅や商店街から
 やや離れた場所)
 郊外の住宅地
 郊外の田園地域
 または
 山間部等
 無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

住みたいと望む場所

【全体的傾向】

住みたいと望む場所について尋ねた。

その結果、「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」（37.2%）が最も多く、僅差で「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」（37.1%）が続き、以降「郊外の住宅地」（17.0%）、「郊外の田園地域または山間部等」（6.9%）の順であった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、総合1位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」は女性（41.6%）が男性（31.3%）を大きく上回った。一方、総合2位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」は男性（39.8%）が女性（35.3%）を上回った。総合3位の「郊外の住宅地」も男性（19.5%）が女性（15.2%）を上回った。
- ◇ 年齢別では、30歳代及び40歳代では「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」が最も多かった。それ以外の全ての年齢層で総合1位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」が最も多かった。中でも20歳代（42.2%）が最も多く、次いで50歳代（42.0%）、60歳代（38.4%）と続いた。総合2位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」は30歳代（47.6%）が最も多く、次いで40歳代（39.4%）、20歳代（38.6%）と続き、若年層を中心に多い傾向にあった。総合3位の「郊外の住宅地」は60歳代（19.0%）が最も多く、次いで30歳代（18.3%）、50歳代（17.0%）と続いた。最も少ないのは20歳代（13.3%）で、最も多い60歳代との差は5.8ポイントと年齢層による大きな差は見られなかった。
- ◇ 居住年数別では、5年未満及び20年未満では、「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」が最も多かった。それ以外の居住年数層では総合1位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」が最も多かった。中でも、1年未満（52.9%）が最も多く、次いで3年未満（50%）、2年未満（45.0%）と続き、居住歴の短い層で多い傾向にあった。総合2位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」は5年未満（53.6%）が最も多く、次いで20年未満（42.1%）、2年未満（40.0%）と続いた。総合3位の「郊外の住宅地」は30年以上（19.0%）が最も多く、次いで30年未満（17.5%）、10年未満（14.1%）と続いた。
- ◇ 職業別では、総合1位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」は、学生（43.8%）が最も多く、次いで主婦・主夫（パートなど）（40.7%）、主婦・主夫（専業）（40.1%）と続き、これらの職業層で4割を上回った。総合2位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」は、自由業（50.0%）が最も多く、次いで公務員・教員（41.7%）、自営業（41.3%）と続き、これらの職業層で4割を上回った。総合3位の「郊外の住宅地」は、公務員・教員（25.0%）が最も多く、次いで自由業（20.0%）と続き、これらの職業層で2割を上回った。総合4位の「郊外の田園地域または山間部等」は農・林・漁業（50.0%）が最も多く、次いで多い自由業（15.0%）とのポイント差は35.0と突出していた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」戸畑区（46.2%）が最も多く、次いで八幡東区（45.9%）、門司区（43.7%）と続き、これらの区で4割を上回った。総合2位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」は小倉北区（43.3%）が最も多く、次いで戸畑区（42.9%）、八幡西区（40.8%）と続き、これらの区で4割を上回った。総合3位の「郊外の住宅地」は小倉南区（27.5%）が最も多く、次いで若松区（20.1%）、八幡西区（18.3%）と続いた。総合4位の「郊外の田園地域または山間部

等」は若松区（11.2%）が最も多く、唯一1割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」は小倉地区（66.0%）が最も多く、次いで若松地区（50.8%）、門司港地区（50.0%）と続き、これらの地区で5割以上を占めた。総合2位の「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」は黒崎地区（52.4%）が最も多く、次いで小倉（西部）地区（48.7%）、小倉（東部）地区（44.9%）と続いた。総合3位の「郊外の住宅地」は徳力地区（32.7%）が最も多く、次いで上津役地区（30.2%）、二島地区（30.1%）と続き、これらの地区で3割を上回った。総合4位の「郊外の田園地域または山間部等」は門司（東部）地区（27.3%）が最も多く、唯一2割を上回った。

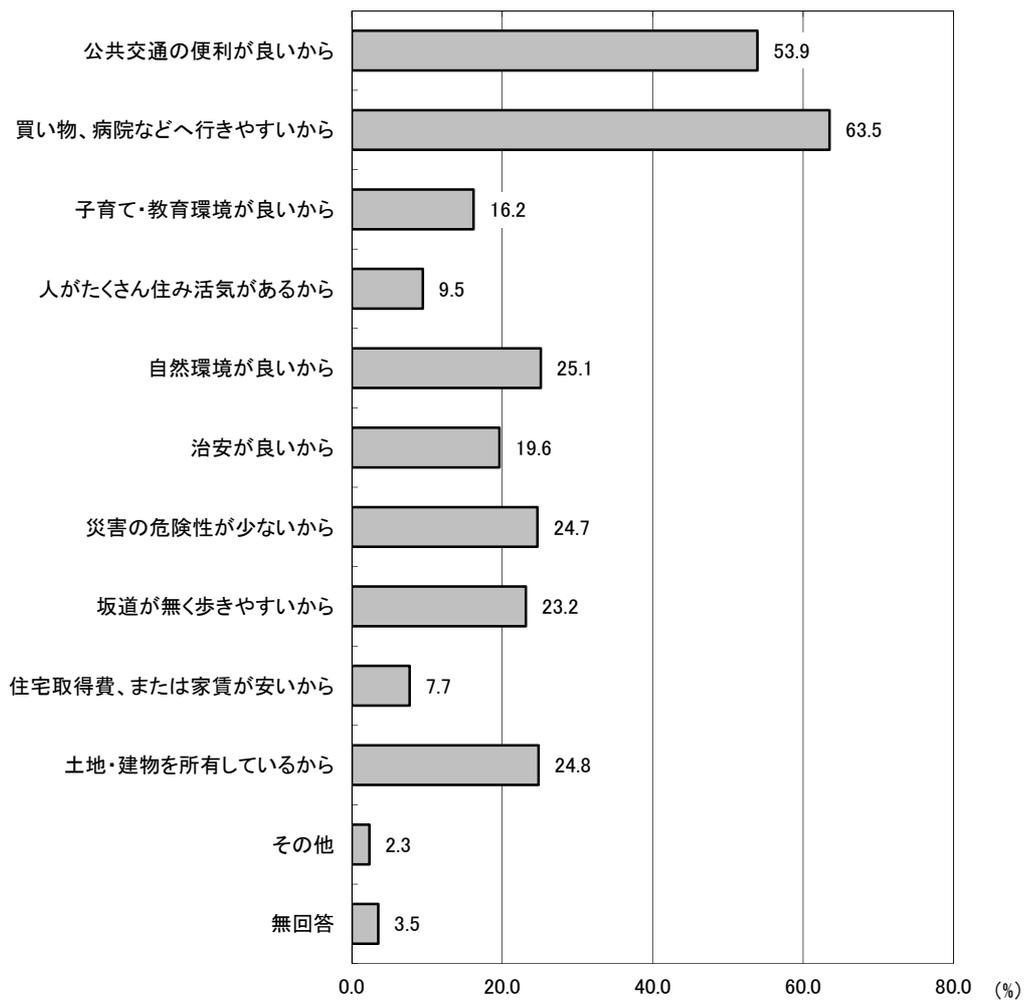
(12) -1 住みたいと望む場所を選んだ理由

副問 13-1 問 13 の答えを選んだ理由は何ですか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

N : 1,365 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 公共交通の便利が良いから	736	53.9
2 買い物、病院などへ行きやすいから	867	63.5
3 子育て・教育環境が良いから	221	16.2
4 人がたくさん住み活気があるから	129	9.5
5 自然環境が良いから	343	25.1
6 治安が良いから	268	19.6
7 災害の危険性が少ないから	337	24.7
8 坂道が無く歩きやすいから	316	23.2
9 住宅取得費、または家賃が安いから	105	7.7
10 土地・建物を所有しているから	339	24.8
11 その他	32	2.3
無回答	48	3.5

- ◇ 住みたいと望む場所を選んだ理由は、
- 1位 「買い物、病院などへ行きやすいから」(63.5%)
 - 2位 「公共交通の便利が良いから」(53.9%)
 - 3位 「自然環境が良いから」(25.1%)



副問 13-1 住みたいと望む場所を選んだ理由

		サンプル数	公共交通の便利が良いから	買い物、病院などへ行きやすいから	子育て・教育環境が良いから	人がたくさん住み活気があるから	自然環境が良いから	治安が良いから	災害の危険性が少ないから	坂道が無く歩きやすいから	住宅取得費、または家賃が安いから	土地・建物を所有しているから	その他	無回答	
全体		1,365	53.9	63.5	16.2	9.5	25.1	19.6	24.7	23.2	7.7	24.8	2.3	3.5	
性別	男性	560	49.8	59.3	16.4	9.8	26.6	21.8	27.0	19.1	8.9	27.7	2.0	2.3	
	女性	782	57.5	66.8	16.1	9.0	23.9	18.4	22.9	25.7	6.6	23.1	2.7	4.1	
年齢別	20歳代	83	51.8	59.0	19.3	19.3	19.3	15.7	10.8	4.8	13.3	9.6	1.2	2.4	
	30歳代	164	61.0	61.0	35.4	14.0	20.7	25.6	18.3	13.4	14.0	9.8	3.0	1.2	
	40歳代	218	64.2	66.1	26.6	8.7	21.6	18.8	13.8	18.8	7.8	17.9	2.8	2.3	
	50歳代	200	54.5	70.5	11.0	9.0	27.5	16.5	22.0	27.0	7.0	22.5	3.0	2.5	
	60歳代	289	52.2	65.1	10.0	6.6	30.8	19.0	26.0	26.6	8.3	32.5	2.4	3.8	
	70歳以上	390	47.7	59.7	9.0	7.7	24.6	21.0	36.4	27.9	3.6	34.4	1.8	5.1	
居住年数別	1年未満	17	64.7	52.9	23.5	0.0	17.6	29.4	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	
	2年未満	20	45.0	70.0	20.0	15.0	10.0	20.0	25.0	15.0	20.0	0.0	0.0	5.0	
	3年未満	16	68.8	81.3	25.0	18.8	0.0	37.5	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	
	5年未満	28	60.7	67.9	28.6	10.7	21.4	25.0	14.3	21.4	14.3	14.3	0.0	3.6	
	10年未満	64	62.5	64.1	31.3	12.5	28.1	25.0	20.3	10.9	10.9	12.5	6.3	1.6	
	20年未満	114	57.0	71.1	21.1	9.6	23.7	16.7	23.7	18.4	11.4	16.7	0.9	1.8	
	30年未満	177	54.2	56.5	16.9	11.3	24.3	18.1	13.0	12.4	12.4	14.1	2.3	2.8	
	30年以上	905	53.0	63.9	13.7	8.5	26.2	19.4	28.1	26.9	5.1	30.7	2.4	3.8	
職業別	自営業	104	50.0	55.8	15.4	8.7	24.0	16.3	27.9	21.2	3.8	37.5	1.9	2.9	
	自由業	20	50.0	50.0	25.0	20.0	25.0	25.0	25.0	5.0	5.0	20.0	0.0	0.0	
	会社員	323	58.5	66.3	19.8	11.1	22.0	19.2	15.2	18.0	12.7	18.0	3.1	1.5	
	公務員・教員	48	60.4	60.4	27.1	16.7	35.4	29.2	22.9	12.5	6.3	22.9	4.2	0.0	
	農・林・漁業	12	16.7	25.0	8.3	0.0	50.0	50.0	33.3	8.3	0.0	66.7	0.0	0.0	
	主婦・主夫(パートなど)	167	61.7	73.1	24.0	6.6	25.1	18.6	21.6	28.7	7.2	17.4	3.0	4.2	
	主婦・主夫(専業)	252	54.4	68.7	16.3	9.9	25.8	17.1	28.6	28.2	4.4	27.0	1.6	3.6	
	学生	16	43.8	43.8	6.3	12.5	25.0	31.3	18.8	0.0	18.8	12.5	0.0	0.0	
	無職	333	48.9	60.4	8.7	7.2	25.5	19.8	32.1	24.0	5.4	30.3	1.8	5.7	
	その他	65	52.3	55.4	12.3	9.2	24.6	24.6	18.5	26.2	13.8	23.1	3.1	3.1	
居住区別	行政区分	門司区	135	59.3	68.9	15.6	9.6	24.4	17.0	22.2	24.4	7.4	19.3	3.0	3.7
		小倉北区	217	69.1	74.7	18.4	9.2	18.0	21.2	32.3	28.1	9.2	21.7	0.9	2.8
		小倉南区	302	48.7	57.0	12.3	7.9	29.5	18.9	19.5	22.8	6.3	29.8	3.6	4.0
		若松区	134	44.8	60.4	15.7	11.9	26.9	21.6	20.9	22.4	2.2	24.6	3.0	3.7
		八幡東区	109	55.0	67.0	11.9	7.3	24.8	22.9	27.5	26.6	7.3	30.3	2.8	3.7
		八幡西区	377	47.2	58.6	19.4	10.3	27.3	17.8	24.7	17.8	8.8	24.1	1.9	3.7
		戸畑区	91	67.0	71.4	17.6	9.9	17.6	23.1	29.7	29.7	13.2	20.9	1.1	2.2
		門司港地区	36	55.6	75.0	25.0	11.1	25.0	13.9	8.3	22.2	0.0	19.4	2.8	2.8
門司区	門司(大里)地区	77	64.9	70.1	14.3	10.4	23.4	18.2	29.9	26.0	10.4	18.2	2.6	5.2	
	門司(東部)地区	22	45.5	54.5	4.5	4.5	27.3	18.2	18.2	22.7	9.1	22.7	4.5	0.0	
	小倉地区	50	84.0	82.0	24.0	10.0	8.0	30.0	26.0	28.0	6.0	14.0	2.0	2.0	
小倉北区	小倉(東部)地区	89	61.8	68.5	21.3	11.2	24.7	15.7	30.3	24.7	5.6	18.0	0.0	3.4	
	小倉(西部)地区	78	67.9	76.9	11.5	6.4	16.7	21.8	38.5	32.1	15.4	30.8	1.3	2.6	
	城野地区	68	51.5	57.4	14.7	7.4	22.1	17.6	25.0	20.6	7.4	27.9	2.9	2.9	
小倉南区	曾根地区	133	48.1	60.2	8.3	8.3	30.1	15.8	18.8	23.3	7.5	31.6	2.3	5.3	
	徳力地区	101	47.5	52.5	15.8	7.9	33.7	23.8	16.8	23.8	4.0	28.7	5.9	3.0	
若松区	若松地区	61	49.2	65.6	9.8	9.8	16.4	16.4	19.7	32.8	0.0	29.5	6.6	4.9	
	二島地区	73	41.1	56.2	20.5	13.7	35.6	26.0	21.9	13.7	4.1	20.5	0.0	2.7	
八幡東区	八幡東(東部)地区	70	51.4	65.7	11.4	10.0	18.6	20.0	31.4	31.4	7.1	27.1	2.9	4.3	
	八幡東(西部)地区	39	61.5	69.2	12.8	2.6	35.9	28.2	20.5	17.9	7.7	35.9	2.6	2.6	
八幡西区	黒崎地区	105	62.9	66.7	18.1	9.5	19.0	19.0	23.8	26.7	8.6	22.9	0.0	6.7	
	折尾地区	120	51.7	65.0	23.3	13.3	26.7	18.3	25.8	17.5	5.0	24.2	2.5	1.7	
	上津役地区	86	33.7	50.0	20.9	9.3	30.2	19.8	26.7	12.8	11.6	24.4	3.5	1.2	
	香月地区	66	31.8	45.5	12.1	7.6	37.9	12.1	21.2	10.6	12.1	25.8	1.5	6.1	
戸畑区	戸畑地区	91	67.0	71.4	17.6	9.9	17.6	23.1	29.7	29.7	13.2	20.9	1.1	2.2	

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

住みたいと望む場所を選んだ理由

【全体的傾向】

問13で回答した、住みたいと望む場所を選んだ理由について尋ねた。

その結果、「買い物、病院などへ行きやすいから」(63.5%)が最も多く、6割強を占めた。次いで「公共交通の便利が良いから」(53.9%)、「自然環境が良いから」(25.1%)と続いた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに総合1位の「買い物、病院などへ行きやすいから」が最も多く、女性(66.8%)が男性(59.3%)を上回った。総合2位の「公共交通の便利が良いから」も男女ともに2番目に多く、女性(57.5%)が男性(49.8%)を上回った。「土地・建物を所有しているから」は、男性(27.7%)が女性(23.1%)を上回り、「坂道が無く歩きやすいから」は、女性(25.7%)が男性(19.1%)を上回った
- ◇ 年齢別では、30歳代では総合1位の「買い物、病院などへ行きやすいから」と総合2位の「公共交通の便利が良いから」が同率(61.0%)で最も多く、それ以外の全ての年齢層で総合1位の「買い物、病院などへ行きやすいから」が最も多かった。50歳代(70.5%)で最も多く、最も少ない20歳代でも59.0%と、全ての年齢層で5割を上回った。総合2位の「公共交通の便利が良いから」は40歳代(64.2%)で最も多く、最も少ない70歳以上(47.7%)以外の全ての年齢層で5割を上回った。総合3位の「自然環境が良いから」は60歳代(30.8%)で最も多く、最も少ない20歳代(19.3%)以外の全ての年齢層で2割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、総合1位の「買い物、病院などへ行きやすいから」は3年未満(81.3%)で最も多く、次いで20年未満(71.1%)、2年未満(70.0%)と続き、これらの居住年数層で7割以上を占めた。総合2位の「公共交通の便利が良いから」は3年未満(68.8%)で最も多く、最も少ない2年未満(45.0%)のみ5割を下回った。総合3位の「自然環境が良いから」は10年未満(28.1%)で最も多く、5年未満から30年以上の全居住年数層で2割を上回った。
- ◇ 職業別では、総合1位の「買い物、病院などへ行きやすいから」は主婦・主夫(パートなど)(73.1%)で最も多く、唯一7割を上回った。総合2位の「公共交通の便利が良いから」は主婦・主夫(パートなど)(61.7%)が最も多く、次いで公務員・教員(60.4%)が続き、これらの職業層で6割以上を占めた。総合3位の「自然環境が良いから」は農・林・漁業(50.0%)で最も多く、唯一5割を占めた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「買い物、病院などへ行きやすいから」は小倉北区(74.7%)で最も多く、次いで戸畑区(71.4%)と続き、これらの区で7割以上を占めた。総合2位の「公共交通の便利が良いから」も小倉北区(69.1%)で最も多く、次いで戸畑区(67.0%)と続き、これらの区で6割以上を占めた。一方、総合3位の「自然環境が良いから」は小倉南区(29.5%)で最も多く、最も少ない戸畑区(17.6%)と、それに次ぐ小倉北区(18.0%)以外の全ての地区で2割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「買い物、病院などへ行きやすいから」は小倉地区(82.0%)で最も多く、次いで小倉(西部)地区(76.9%)、門司港地区(75.0%)、門司(大里)地区(70.1%)と続き、これらの地区で7割を上回った。総合2位の「公共交通の便利が良いから」は小倉地区(84.0%)で最も多く、次いで小倉(西部)地区(67.9%)、戸畑地区(67.0%)と続いた。総合3位の「自然環境が良いから」は香月地区(37.9%)で最も多く、次いで八幡東(西部)地区(35.9%)、二島地区(35.6%)と続いた。

(13) 高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由

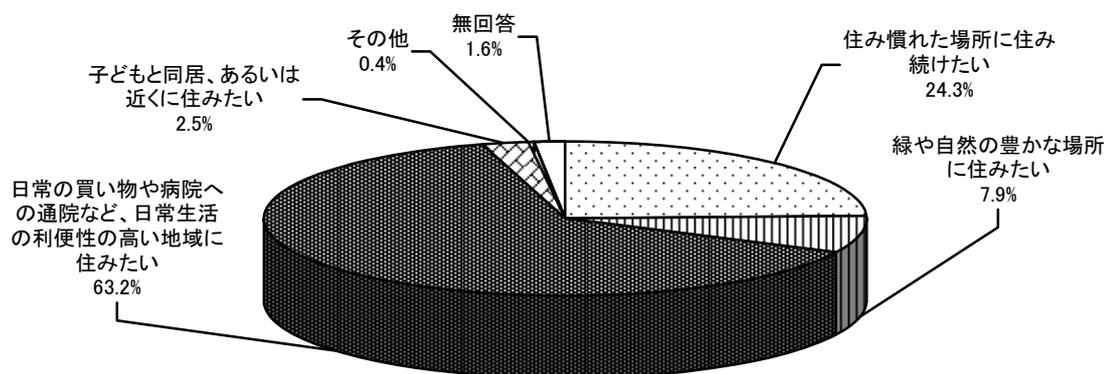
問 14 高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。
 まだ高齢でない方も、将来、高齢期を迎える場合をイメージしてお答え下さい。

N : 1,365 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 住み慣れた場所に住み続けたい	332	24.3
2 緑や自然の豊かな場所に住みたい	108	7.9
3 日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい	863	63.2
4 子どもと同居、あるいは近くに住みたい	34	2.5
5 その他	6	0.4
無回答	22	1.6

◇ 高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由は、

- 1 位 「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」 (63.2%)
- 2 位 「住み慣れた場所に住み続けたい」 (24.3%)
- 3 位 「緑や自然の豊かな場所に住みたい」 (7.9%)



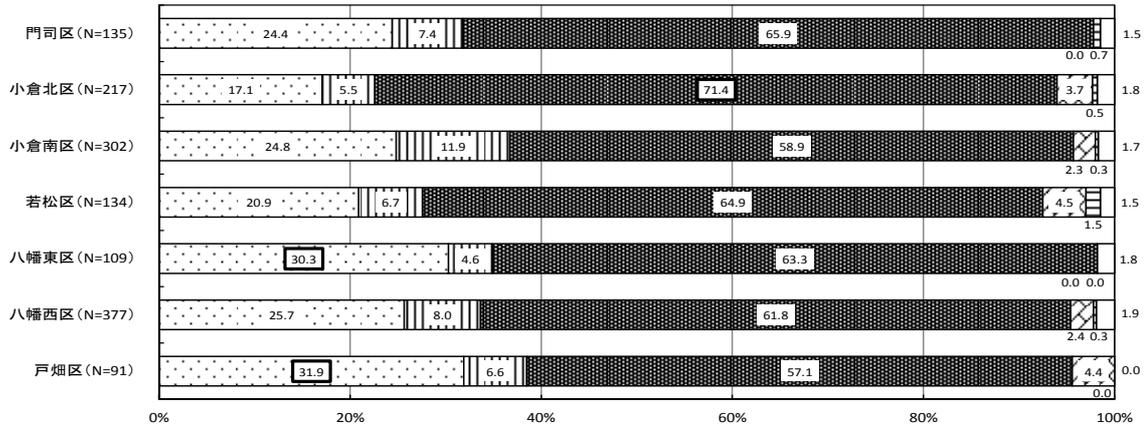
- 住み慣れた場所に住み続けたい
- 緑や自然の豊かな場所に住みたい
- 日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい
- 子どもと同居、あるいは近くに住みたい
- その他
- 無回答

問 14 高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由

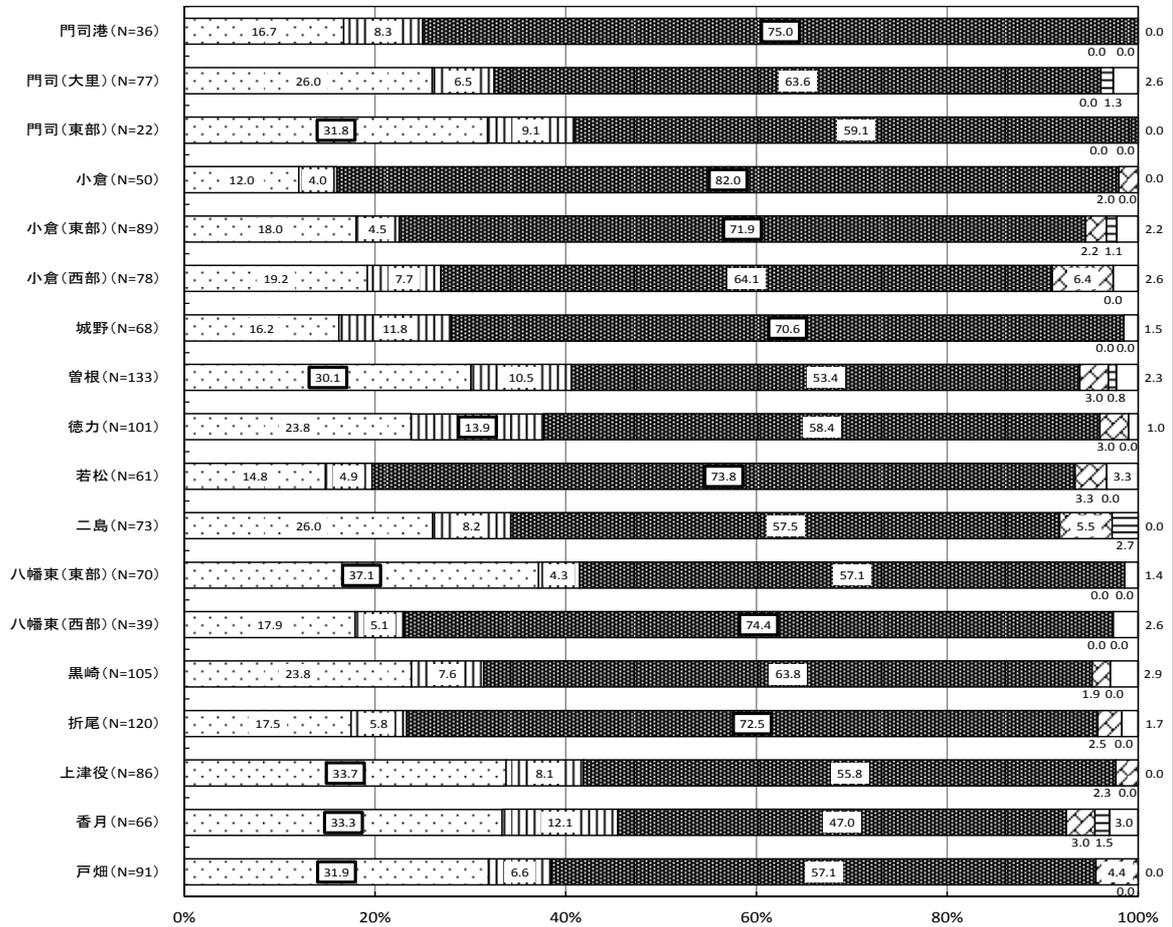


居住区

住み慣れた場所に
住み続けたい
 緑や自然の
豊かな場所に
住みたい
 日常の買い物や
病院への通院など、
日常生活の
利便性の高い
地域に住みたい
 子どもと同居、
あるいは
近くに住みたい
 その他
 無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由

【全体的傾向】

高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由について尋ねた。

その結果、「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」(63.2%)が最も多く、6割強を占めた。次いで「住み慣れた場所に住みたい」(24.3%)、「緑や自然の豊かな場所に住みたい」(7.9%)と続いた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに総合1位の「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」が最も多く、女性(65.3%)が男性(60.4%)を上回った。総合2位の「住み慣れた場所に住みたい」は男性(24.8%)と女性(24.0%)で差は見られなかった。総合3位の「緑や自然の豊かな場所に住みたい」は男性(11.3%)が女性(5.6%)を上回った。
- ◇ 年齢別でも、全ての年齢層で総合1位の「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」が最も多かった。中でも50歳代(72.0%)が最も多く、次いで40歳代(65.6%)、30歳代(63.4%)と続いた。総合2位の「住み慣れた場所に住みたい」は70歳以上(32.8%)が最も多く、次いで60歳代(23.2%)、30歳代(22.6%)と続いた。総合3位の「緑や自然の豊かな場所に住みたい」は20歳代(18.1%)が最も多く、唯一1割を上回った。
- ◇ 居住年数別でも、全ての居住年数層で総合1位の「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」が最も多かった。中でも、3年未満(81.3%)が最も多く、次いで1年未満(76.5%)、10年未満(71.9%)と続いた。総合2位の「住み慣れた場所に住みたい」は2年未満(30%)が最も多く、次いで30年以上(27.5%)、20年未満(19.3%)と続いた。総合3位の「緑や自然の豊かな場所に住みたい」は30年未満(13.0%)が最も多く、次いで1年未満(11.8%)、10年未満(10.9%)と続いた。
- ◇ 職業別では、農・林・漁業は「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」と「住み慣れた場所に住みたい」が同率で(50.0%)が最も多かった。それ以外の全ての職業層では総合1位の「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」が最も多かった。中でも、主婦・主夫(パートなど)(72.5%)が最も多く、次いで学生(68.8%)、主婦・主夫(専業)(66.3%)と続いた。総合2位の「住み慣れた場所に住みたい」は農・林・漁業(50.0%)が最も多く、次いで自営業(34.6%)、自由業(30.0%)と続いた。総合3位の「緑や自然の豊かな場所に住みたい」は自由業(20.0%)が最も多く、次いで学生(12.5%)、自営業(11.5%)と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、全ての区で総合1位の「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」が最も多かった。中でも小倉北区(71.4%)が最も多く、次いで門司区(65.9%)、若松区(64.9%)と続いた。総合2位の「住み慣れた場所に住みたい」は戸畑区(31.9%)が最も多く、次いで八幡東区(30.3%)、八幡西区(25.7%)と続いた。総合3位の「緑や自然の豊かな場所に住みたい」は小倉南区(11.9%)が最も多く、唯一1割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ても、全ての地区で総合1位の「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」が最も多かった。中でも小倉地区(82.0%)が最も多く、次いで門司港地区(75.0%)、八幡東(西部)地区(74.4%)と続いた。総合2位

の「住み慣れた場所に住み続けたい」は八幡東（東部）地区（37.1%）が最も多く、次いで上津役地区（33.7%）、香月地区（33.3%）と続いた。総合3位の「緑や自然の豊かな場所に住みたい」は徳力地区（13.9%）が最も多く、次いで香月地区（12.1%）、城野地区（11.8%）と続いた。

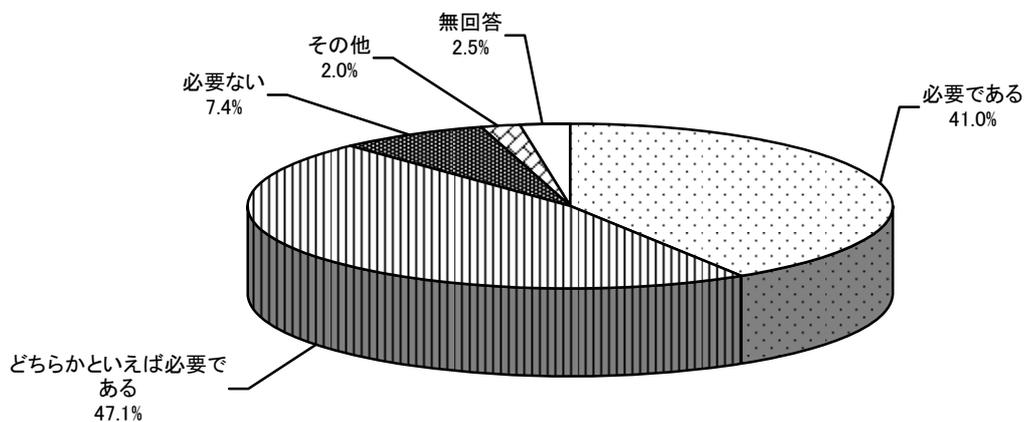
(14) 「コンパクトなまちづくり」を進めること

問 15 「コンパクトなまちづくり」を進めることについて、あなたはどのように思いますか。
ご自身の考え方に近いものを次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,365 人

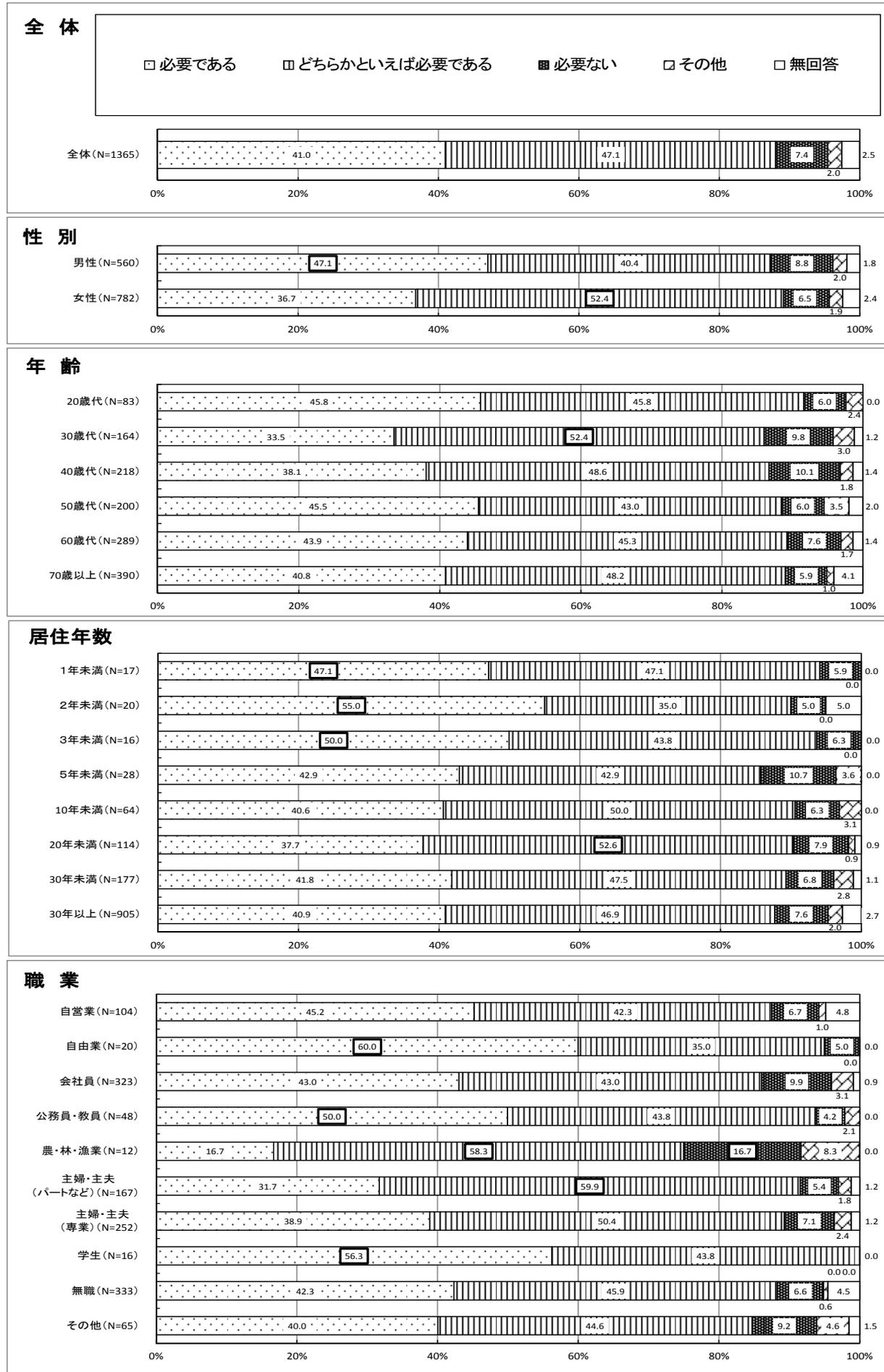
項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 必要である	560	41.0
2 どちらかといえば必要である	643	47.1
3 必要ない	101	7.4
4 その他	27	2.0
無回答	34	2.5

- ◇ 「コンパクトなまちづくり」を進めることについては、
- 1位 「どちらかといえば必要である」(47.1%)
 - 2位 「必要である」(41.0%)
 - 3位 「必要ない」(7.4%)



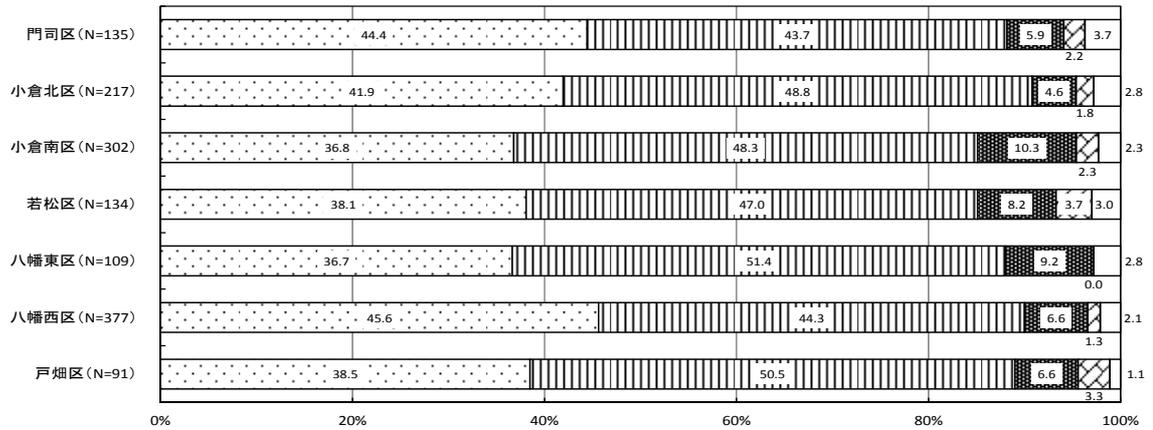
□必要である □どちらかといえば必要である ■必要ない ▣その他 □無回答

問15 「コンパクトなまちづくり」を進めること

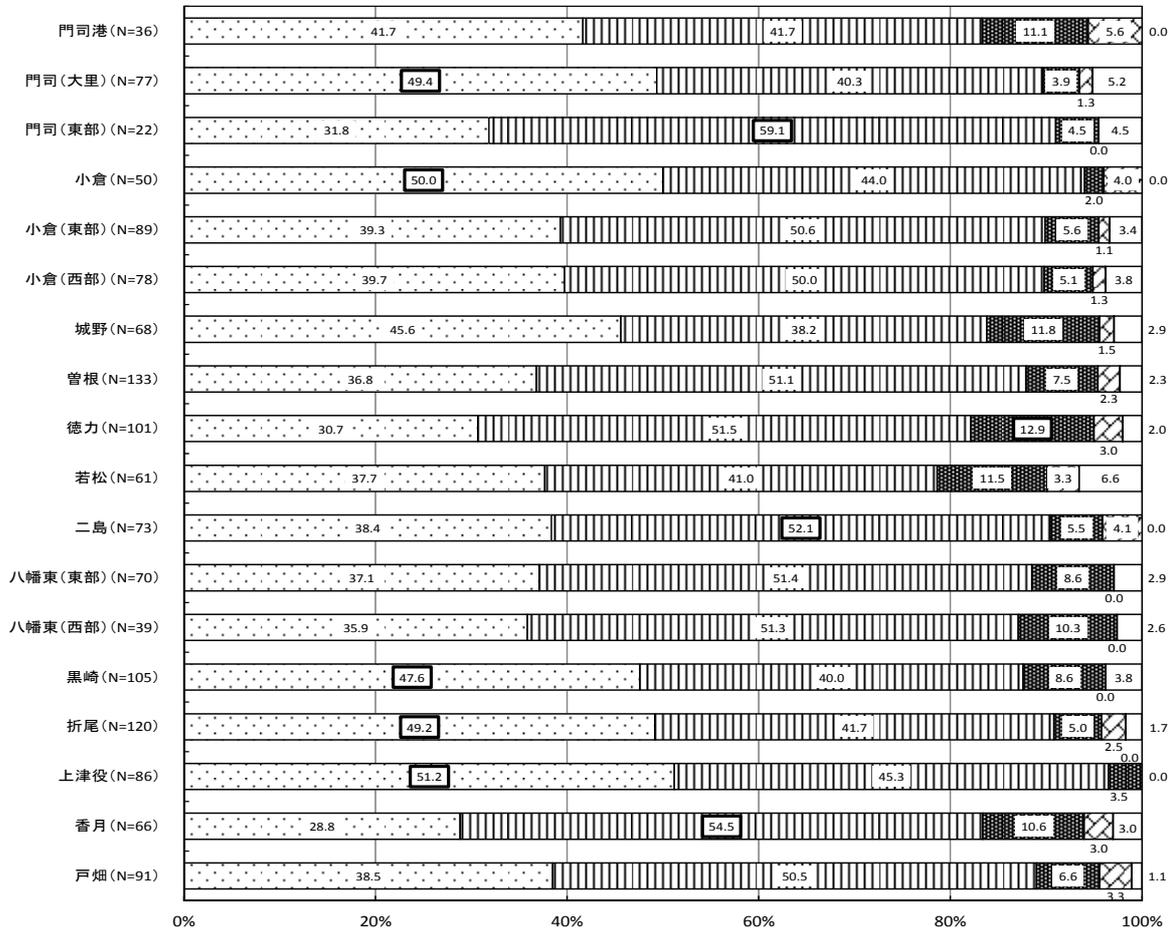


居住区

□ 必要である □ どちらかといえば必要である ■ 必要ない □ その他 □ 無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

「コンパクトなまちづくり」を進めること

【全体的傾向】

「コンパクトなまちづくり」を進めることについて尋ねた。

その結果、「どちらかといえば必要である」(47.1%)が最も多く、次いで「必要である」(41.0%)、「必要ない」(7.4%)と続いた。「必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた『必要である』は88.1%で、9割弱を占めた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男性は「必要である」が最も多く、男性(47.1%)が女性(36.7%)を大きく上回った。女性は「どちらかといえば必要である」が最も多く、女性(52.4%)が男性(40.4%)を大きく上回った。『必要である』は女性(89.1%)が男性(87.5%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、「必要である」は20歳代(45.8%)が最も多く、次いで50歳代(45.5%)、60歳代(43.9%)と続いた。「どちらかといえば必要である」は30歳代(52.4%)が最も多く、次いで40歳代(48.6%)、70歳以上(48.2%)と続いた。最も少ない50歳代(43.0%)と最も多い30歳代とのポイント差は9.4で、年齢層による大きな差は見られなかった。『必要である』は20歳代(91.6%)で最も多く、最も少ない30歳代(85.9%)とのポイント差は5.7で、年齢層による大きな差は見られなかった。
- ◇ 居住年数別では、「必要である」は2年未満(55.0%)が最も多く、次いで3年未満(50.0%)、1年未満(47.1%)と続き、居住歴の短い層で多い傾向にあった。「どちらかといえば必要である」は20年未満(52.6%)が最も多く、次いで10年未満(50.0%)、30年未満(47.5%)と続いた。『必要である』は1年未満(94.2%)で最も多く、最も少ない5年未満(85.8%)とのポイント差は8.4で、居住年数層による大きな差は見られなかった。
- ◇ 職業別では、「必要である」は自由業(60.0%)が最も多く、次いで学生(56.3%)、公務員・教員(50.0%)と続き、これらの職業層で5割以上を占めた。「どちらかといえば必要である」は主婦・主夫(パートなど)(59.9%)が最も多く、次いで農・林・漁業(58.3%)、主婦・主夫(専業)(50.4%)と続き、これらの職業層で5割以上を占めた。『必要である』は学生(100.0%)で最も多く、次いで、自由業(95.0%)、公務員・教員(93.8%)と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「必要である」は八幡西区(45.6%)が最も多く、次いで門司区(44.4%)、小倉北区(41.9%)と続いた。最も少ない八幡東区(36.7%)と最も多い八幡西区とのポイント差は8.9で、区による大きな差は見られなかった。「どちらかといえば必要である」は八幡東区(51.4%)が最も多く、次いで戸畑区(50.5%)、小倉北区(48.8%)と続いた。最も少ない門司区(43.7%)と最も多い八幡東区とのポイント差は7.7で、区による大きな差は見られなかった。『必要である』は小倉北区(90.7%)で最も多く、最も少ない小倉南区及び若松区(85.1%)とのポイント差は5.6で、区による大きな差は見られなかった。
行政区を18地区に細分化して見ると、「必要である」は上津役地区(51.2%)が最も多く、次いで小倉地区(50.0%)、門司(大里)地区(49.4%)と続いた。「どちらかといえば必要である」は門司(東部)地区(59.1%)が最も多く、次いで香月地区(54.5%)、二島地区(52.1%)と続いた。『必要である』は上津役地区(96.5%)で最も多く、次いで小倉地区(94.0%)、門司(東部)及び折尾地区(90.9%)、二島地区(90.5%)と続き、これらの地区で9割を上回った。最も少ないのは若松地区(78.7%)で、唯一8割を下回った。

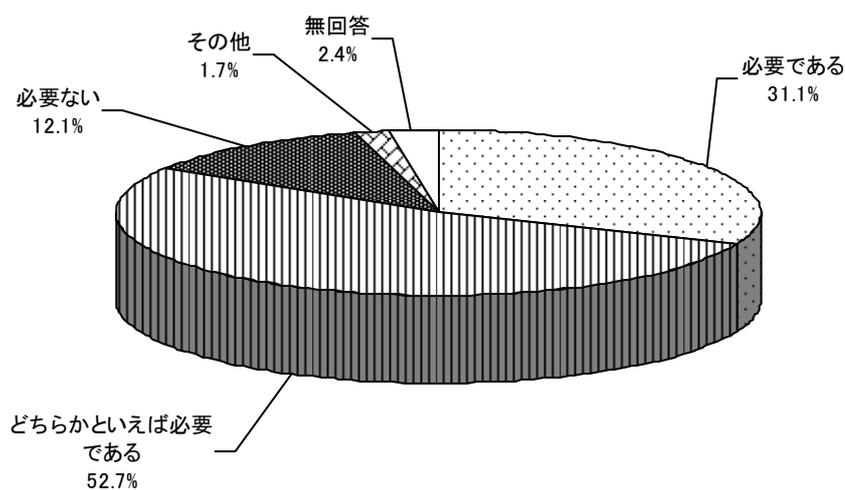
(15) 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定すること

問 16 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定することについて、あなたはどのように思いますか。ご自身の考え方に近いものを次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,365 人

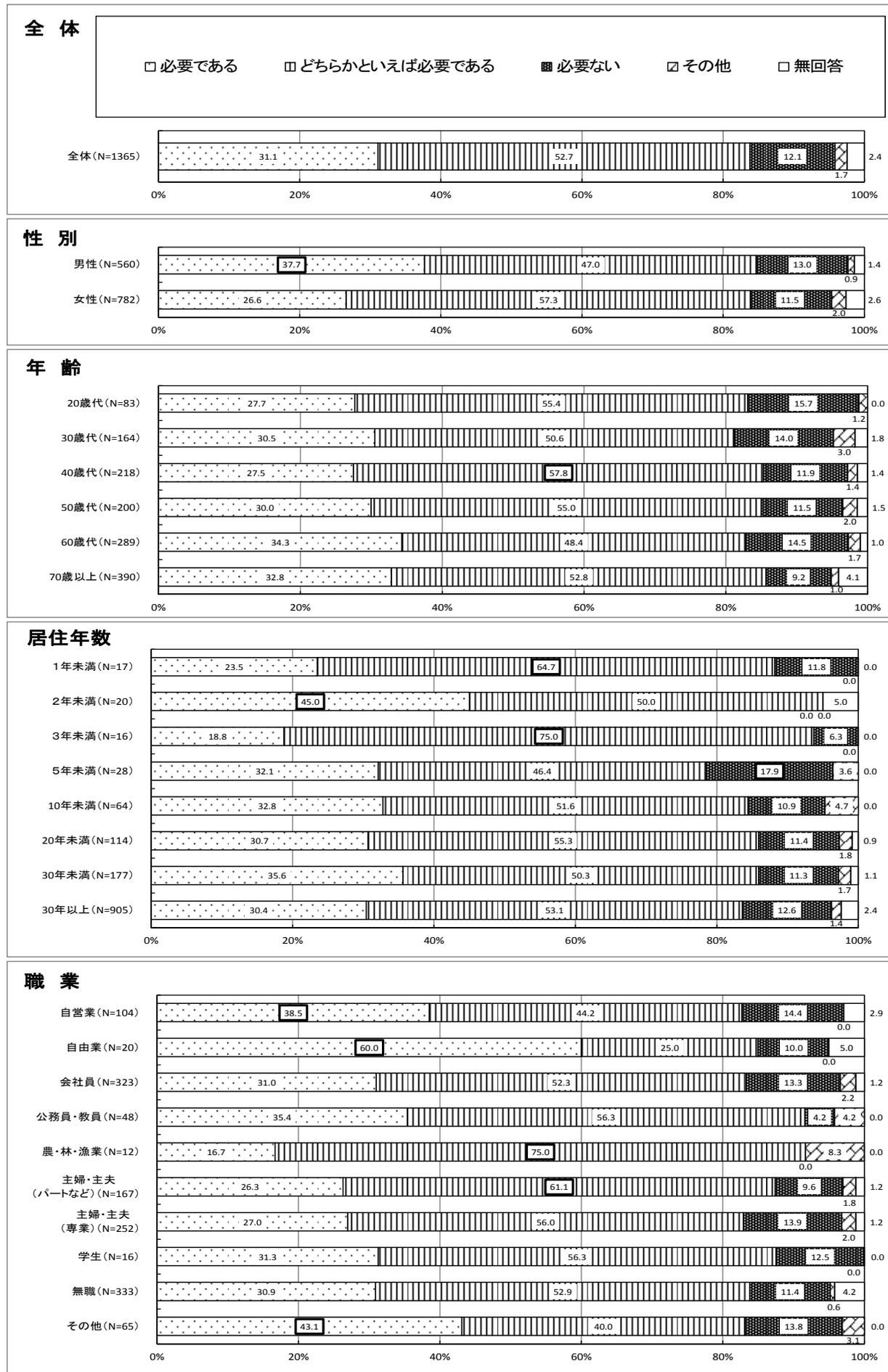
項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 必要である	424	31.1
2 どちらかといえば必要である	720	52.7
3 必要ない	165	12.1
4 その他	23	1.7
無回答	33	2.4

- ◇ 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定することについては、
- 1位 「どちらかといえば必要である」(52.7%)
 - 2位 「必要である」(31.1%)
 - 3位 「必要ない」(12.1%)



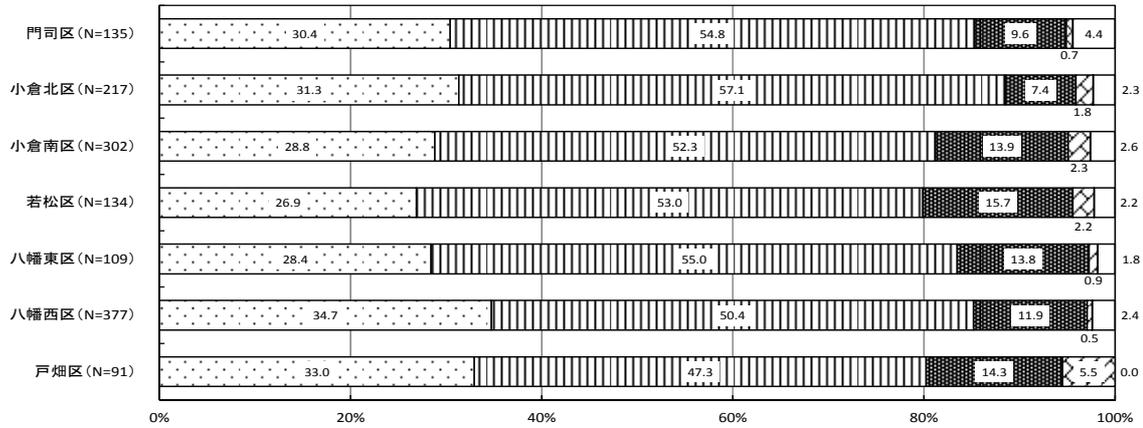
□ 必要である □ どちらかといえば必要である ■ 必要ない □ その他 □ 無回答

問 16 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定すること

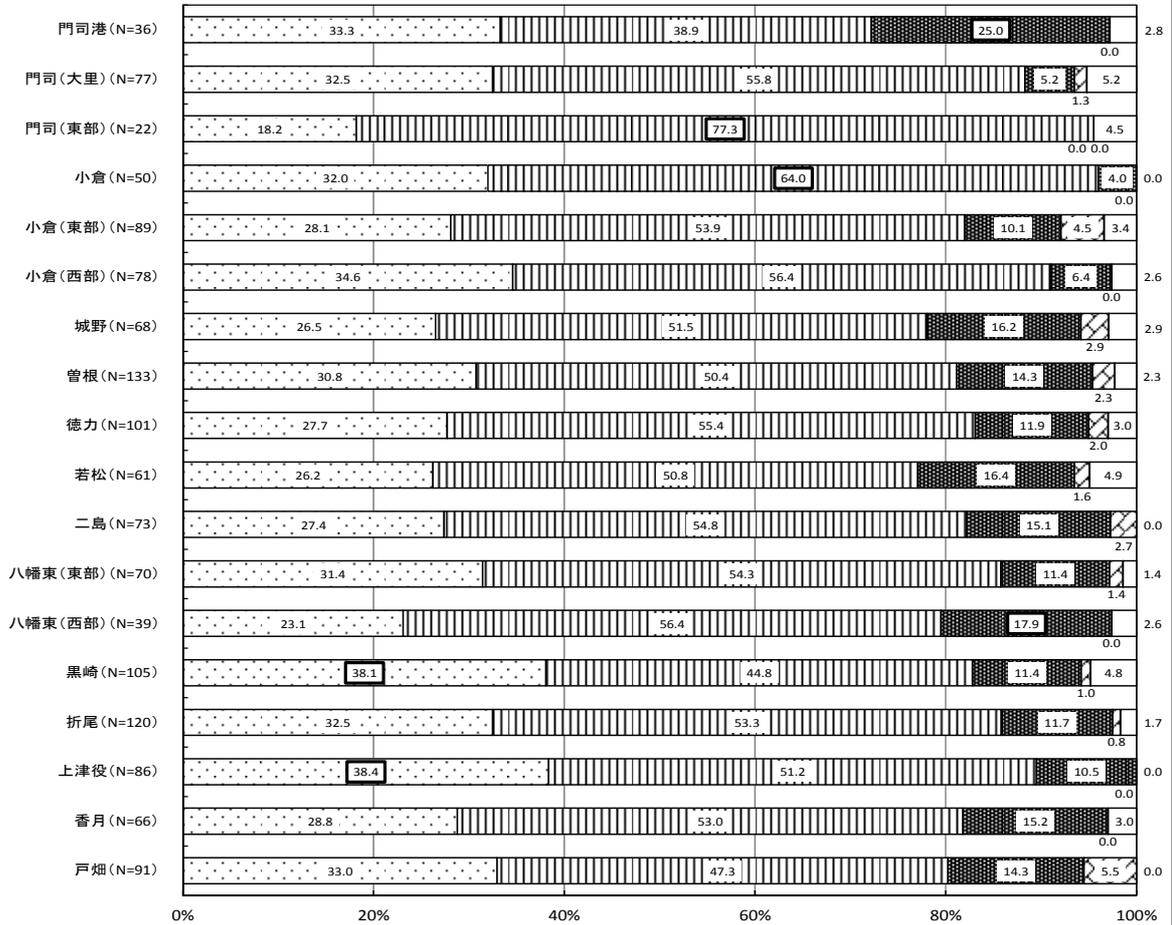


居住区

□必要である □どちらかといえば必要である ■必要ない □その他 □無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定すること

【全体的傾向】

「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定することについて尋ねた。

その結果、「どちらかといえば必要である」(52.7%)が最も多く、次いで「必要である」(31.1%)、「必要ない」(12.1%)と続いた。「必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた『必要である』は83.8%で、9割弱を占めた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに「どちらかといえば必要である」が最も多く女性(57.3%)が男性(47.0%)を大きく上回った。「必要である」は男性(37.7%)が女性(26.6%)を上回った。『必要である』は男性(84.7%)と女性(83.9%)での差は見られなかった。
 - ◇ 年齢別でも、全ての年齢層で「どちらかといえば必要である」が最も多かった。その中で40歳代(57.8%)が最も多く、次いで20歳代(55.4%)、50歳代(55.0%)と続いた。最も少ない60歳代(48.4%)と最も多い40歳代とのポイント差は9.4と、年齢層による大きな差は見られなかった。「必要である」は60歳代(34.3%)が最も多く、次いで70歳以上(32.8%)、30歳代(30.5%)と続いた。最も少ない40歳代(27.5%)と最も多い60歳代とのポイント差は6.8で、年齢層による大きな差は見られなかった。『必要である』は70歳以上(85.6%)で最も多く、最も少ない30歳代(81.1%)とのポイント差は4.5で、年齢層による大きな差は見られなかった。
 - ◇ 居住年数別でも、全ての居住年数層で「どちらかといえば必要である」が最も多かった。中でも3年未満(75.0%)が最も多く、次いで1年未満(64.7%)、20年未満(55.3%)と続き、居住歴の短い層を中心に多い傾向にあった。「必要である」は2年未満(45.0%)が最も多く、次いで30年未満(35.6%)、10年未満(32.8%)と続いた。『必要である』は2年未満(95.0%)で最も多く、次いで3年未満(93.8%)、1年未満(88.2%)と続いた。最も少ないのは5年未満(78.5%)で、唯一8割を下回った。
 - ◇ 職業別では、自由業とその他では「必要である」が最も多かった。それ以外の職業層では「どちらかといえば必要である」が最も多かった。中でも、農・林・漁業(75.0%)が最も多く、次いで主婦・主夫(パートなど)(61.1%)、公務員・教員及び学生(56.3%)と続いた。「必要である」は自由業(60.0%)が最も多く、次いでその他(43.1%)、自営業(38.5%)と続いた。『必要である』は公務員・教員及び農・林・漁業(91.7%)で最も多く、最も少ない自営業(82.7%)とのポイント差は9.0で、職業層による大きな差は見られなかった。
 - ◇ 居住区を行政区別に見ると、全ての区で「どちらかといえば必要である」が最も多かった。中でも小倉北区(57.1%)が最も多く、次いで八幡東区(55.0%)、門司区(54.8%)と続いた。最も少ない戸畑区(47.3%)と最も多い小倉北区とのポイント差は9.8で、区による大きな差は見られなかった。「必要である」は八幡西区(34.7%)が最も多く、次いで戸畑区(33.0%)、小倉北区(31.3%)と続いた。最も少ない若松区(26.9%)と最も多い八幡西区とのポイント差は7.8で、区による大きな差は見られなかった。『必要である』は小倉北区(88.4%)で最も多く、最も少ない若松区(79.9%)とのポイント差は8.5で、区による大きな差は見られなかった。
- 行政区を18地区に細分化して見ると、全ての地区で「どちらかといえば必要である」が最も多かった。中でも門司(東部)地区(77.3%)が最も多く、次いで小倉地区(64.0%)、小倉(西

部) 地区及び八幡東(西部) 地区(56.4%)と続いた。「必要である」は上津役地区(38.4%)が最も多く、次いで黒崎地区(38.1%)、小倉(西部) 地区(34.6%)と続いた。『必要である』は小倉地区(96.0%)で最も多く、次いで門司(東部) 地区(95.5%)、小倉(西部) 地区(91.0%)と続き、これらの地区で9割を上回った。最も少ないのは門司港地区(72.2%)であった。

(15) -1 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定する場所

副問 16-1 問 16 で、「1. 必要である」「2. どちらかといえば必要である」と回答された方におたずねします。

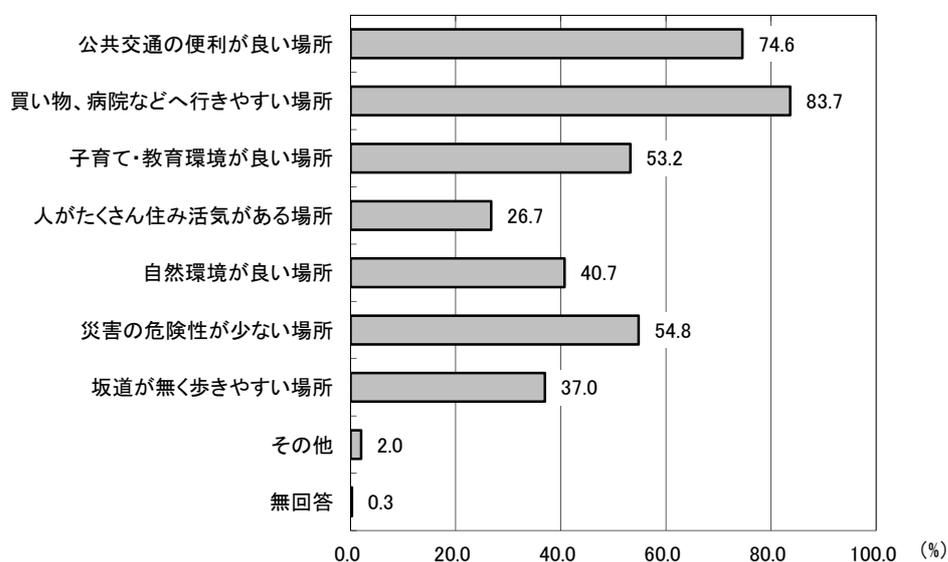
「一定の人口の集積を保っていく区域」は、どのような場所を設定したら良いと考えますか。次の中から重要と考えられるものをすべて選んでください。

N : 1,144 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 公共交通の便利が良い場所	853	74.6
2 買い物、病院などへ行きやすい場所	957	83.7
3 子育て・教育環境が良い場所	609	53.2
4 人がたくさん住み活気がある場所	306	26.7
5 自然環境が良い場所	466	40.7
6 災害の危険性が少ない場所	627	54.8
7 坂道が無く歩きやすい場所	423	37.0
8 その他	23	2.0
無回答	3	0.3

◇ どのような場所を「一定の人口の集積を保っていく区域」に設定したら良いかは、

- 1位 「買い物、病院などへ行きやすい場所」(83.7%)
- 2位 「公共交通の便利が良い場所」(74.6%)
- 3位 「災害の危険性が少ない場所」(54.8%)



副問 16-1 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定する場所

		サンプル数	公共交通の便利が良い場所	買い物、病院などへ行きやすい場所	子育て・教育環境が良い場所	人がたくさん住み活気がある場所	自然環境が良い場所	災害の危険性が少ない場所	坂道が無く歩きやすい場所	その他	無回答	
全体		1,144	74.6	83.7	53.2	26.7	40.7	54.8	37.0	2.0	0.3	
性別	男性	474	73.2	82.5	47.9	26.4	35.7	52.3	35.7	2.1	0.4	
	女性	656	75.5	84.5	56.9	26.8	44.2	56.9	37.8	2.0	0.2	
年齢別	20歳代	69	78.3	78.3	58.0	31.9	29.0	52.2	30.4	4.3	0.0	
	30歳代	133	70.7	82.7	75.2	27.1	39.1	54.1	26.3	0.0	0.0	
	40歳代	186	73.1	80.6	59.7	23.7	32.8	50.0	25.8	1.1	0.0	
	50歳代	170	77.6	82.9	54.7	24.7	38.2	50.6	35.3	4.1	1.2	
	60歳代	239	75.3	90.4	51.5	27.2	44.8	61.5	41.0	2.5	0.4	
	70歳以上	334	74.0	82.3	39.8	27.8	46.1	55.7	46.4	1.5	0.0	
居住年数別	1年未満	15	86.7	80.0	60.0	13.3	26.7	40.0	6.7	0.0	0.0	
	2年未満	19	84.2	78.9	52.6	36.8	31.6	47.4	31.6	0.0	0.0	
	3年未満	15	60.0	66.7	53.3	26.7	20.0	53.3	20.0	6.7	6.7	
	5年未満	22	81.8	72.7	63.6	31.8	22.7	54.5	31.8	0.0	0.0	
	10年未満	54	68.5	74.1	66.7	16.7	25.9	55.6	40.7	1.9	0.0	
	20年未満	98	69.4	82.7	52.0	29.6	40.8	44.9	39.8	2.0	0.0	
	30年未満	152	76.3	83.6	56.6	31.6	36.2	51.3	30.9	2.0	0.0	
	30年以上	756	74.9	85.4	51.1	25.9	43.9	57.4	38.8	2.1	0.3	
職業別	自営業	86	65.1	74.4	51.2	29.1	43.0	43.0	23.3	2.3	0.0	
	自由業	17	88.2	100.0	82.4	35.3	52.9	82.4	47.1	5.9	0.0	
	会社員	269	73.6	84.0	56.1	27.5	32.0	50.6	32.7	1.5	0.4	
	公務員・教員	44	77.3	81.8	50.0	25.0	29.5	38.6	22.7	2.3	0.0	
	農・林・漁業	11	36.4	72.7	27.3	0.0	45.5	63.6	9.1	0.0	9.1	
	主婦・主夫(パートなど)	146	76.7	84.9	58.2	30.8	41.1	55.5	32.2	2.7	0.0	
	主婦・主夫(専業)	209	76.6	84.7	63.6	23.9	53.6	62.2	43.1	1.4	0.5	
	学生	14	57.1	71.4	50.0	14.3	35.7	57.1	21.4	0.0	0.0	
	無職	279	75.3	85.7	39.8	24.4	40.5	56.3	45.9	2.5	0.0	
	その他	54	81.5	79.6	53.7	37.0	29.6	57.4	37.0	1.9	0.0	
居住区別	行政区分	門司区	115	75.7	80.0	57.4	26.1	41.7	63.5	39.1	1.7	0.0
		小倉北区	192	79.7	91.1	55.7	29.2	40.1	58.9	35.4	2.1	0.0
		小倉南区	245	71.8	82.0	51.0	23.3	42.4	51.0	36.3	2.4	0.4
		若松区	107	75.7	79.4	45.8	26.2	40.2	56.1	37.4	0.9	0.0
		八幡東区	91	72.5	85.7	50.5	29.7	42.9	56.0	46.2	3.3	0.0
		八幡西区	321	73.2	82.6	55.8	25.5	38.6	50.2	33.6	1.9	0.6
		戸畑区	73	75.3	83.6	50.7	35.6	42.5	60.3	42.5	1.4	0.0
		門司港地区	26	61.5	76.9	46.2	23.1	42.3	53.8	34.6	3.8	0.0
門司区	門司(大里)地区	68	79.4	80.9	58.8	27.9	45.6	66.2	42.6	1.5	0.0	
	門司(東部)地区	21	81.0	81.0	66.7	23.8	28.6	66.7	33.3	0.0	0.0	
	小倉地区	48	75.0	89.6	58.3	31.3	35.4	56.3	35.4	2.1	0.0	
小倉北区	小倉(東部)地区	73	80.8	90.4	60.3	28.8	47.9	60.3	35.6	1.4	0.0	
	小倉(西部)地区	71	81.7	93.0	49.3	28.2	35.2	59.2	35.2	2.8	0.0	
	城野地区	53	67.9	81.1	45.3	22.6	30.2	47.2	35.8	1.9	0.0	
小倉南区	曾根地区	108	73.1	85.2	53.7	25.0	49.1	56.5	35.2	2.8	0.0	
	徳力地区	84	72.6	78.6	51.2	21.4	41.7	46.4	38.1	2.4	1.2	
若松区	若松地区	47	78.7	72.3	46.8	31.9	38.3	53.2	48.9	2.1	0.0	
	二島地区	60	73.3	85.0	45.0	21.7	41.7	58.3	28.3	0.0	0.0	
八幡東区	八幡東(東部)地区	60	75.0	85.0	50.0	26.7	46.7	51.7	45.0	3.3	0.0	
	八幡東(西部)地区	31	67.7	87.1	51.6	35.5	35.5	64.5	48.4	3.2	0.0	
八幡西区	黒崎地区	87	75.9	85.1	62.1	31.0	42.5	52.9	34.5	0.0	1.1	
	折尾地区	103	74.8	85.4	60.2	24.3	41.7	51.5	38.8	4.9	1.0	
	上津役地区	77	70.1	77.9	50.6	16.9	32.5	45.5	33.8	1.3	0.0	
	香月地区	54	70.4	79.6	44.4	31.5	35.2	50.0	22.2	0.0	0.0	
戸畑区	戸畑地区	73	75.3	83.6	50.7	35.6	42.5	60.3	42.5	1.4	0.0	

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定する場所

【全体的傾向】

どのような場所を「一定の人口の集積を保っていく区域」に設定したら良いかについて尋ねた。その結果、「買い物、病院などへ行きやすい場所」(83.7%)が最も多く、次いで「公共交通の便利が良い場所」(74.6%)、「災害の危険性が少ない場所」(54.8%)と続いた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女ともに総合1位の「買い物、病院などへ行きやすい場所」が最も多く、女性(84.5%)が男性(82.5%)を上回った。総合2位の「公共交通の便利が良い場所」も女性(75.5%)が男性(73.2%)を上回った。総合3位の「災害の危険性が少ない場所」も女性(56.9%)が男性(52.3%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、総合1位の「買い物、病院などへ行きやすい場所」は60歳代(90.4%)が最も多く、次いで50歳代(82.9%)、30歳代(82.7%)と続いた。最も少ないのは20歳代(78.3%)で、唯一8割を下回った。総合2位の「公共交通の便利が良い場所」は20歳代(78.3%)が最も多く、次いで50歳代(77.6%)、60歳代(75.3%)と続いた。最も少ない30歳代(70.7%)と20歳代の差は7.6で、区による大きな差は見られなかった。総合3位の「災害の危険性が少ない場所」は60歳代(61.5%)が最も多く、次いで70歳以上(55.7%)、30歳代(54.1%)と続いた。
- ◇ 居住年数別では、総合1位の「買い物、病院などへ行きやすい場所」は30年以上(85.4%)が最も多く、次いで30年未満(83.6%)、20年未満(82.7%)と続き、居住歴が長い層が多かった。最も少ないのは3年未満(66.7%)で、全ての居住年数層で6割を上回った。一方、総合2位の「公共交通の便利が良い場所」は1年未満(86.7%)が最も多く、次いで2年未満(84.2%)、5年未満(81.8%)と続き、居住歴が短い層が多かった。最も少ないのは3年未満(60.0%)と、全ての居住年数層で6割以上を占めた。総合3位の「災害の危険性が少ない場所」は30年以上(57.4%)が最も多く、次いで10年未満(55.6%)、5年未満(54.5%)と続いた。最も少ないのは1年未満(40.0%)で、全ての居住年数層で4割以上を占めた。
- ◇ 職業別では、総合1位の「買い物、病院などへ行きやすい場所」は自由業(100.0%)が最も多く、次いで無職(85.7%)、主婦・主夫(パートなど)(84.9%)と続き、最も少ない学生(71.4%)を含む全ての職業層で7割を上回った。総合2位の「公共交通の便利が良い場所」は自由業(88.2%)が最も多く、次いでその他(81.5%)、公務員・教員(77.3%)と続いた。最も少ないのは農・林・漁業(36.4%)で、唯一4割を下回った。総合3位の「災害の危険性が少ない場所」は自由業(82.4%)が最も多く、次いで農・林・漁業(63.6%)、主婦・主夫(専業)(62.2%)と続いた。最も少ないのは公務員・教員(38.6%)で、唯一4割を下回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「買い物、病院などへ行きやすい場所」は小倉北区(91.1%)が最も多く、次いで八幡東区(85.7%)、戸畑区(83.6%)と続いた。最も少ない若松区(79.4%)で約8割、それ以外の6区で8割を上回った。総合2位の「公共交通の便利が良い場所」で、小倉北区(79.7%)が最も多く、次いで門司区及び若松区(75.7%)と続いた。最も少ない小倉南区(71.8%)との差は7.9ポイントと区による大きな差は見られず、全ての区で7割を上回った。総合3位の「災害の危険性が少ない場所」は門司区(63.5%)が最も多く、次いで戸畑区(60.3%)、小倉北区(58.9%)と続いた。最も少ないのは八幡西区(50.2%)で、全ての区で5割を上回った。なお「坂道が無く歩きやすい場所」は八幡東区(46.2%)が

最も多く、次いで戸畑区（42.5%）と続き、これらの区で4割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「買い物、病院などへ行きやすい場所」は小倉（西部）地区（93.0%）が最も多く、次いで小倉（東部）地区（90.4%）、小倉地区（89.6%）と続き、小倉区は区内全体で割合が多かった。最も少ないのは若松地区（72.3%）で、全ての地区で7割を上回った。総合2位の「公共交通の便利が良い場所」は、小倉（西部）地区（81.7%）が最も多く、次いで門司（東部）地区（81.0%）、小倉（東部）地区（80.8%）と続き、これらの地区で8割を上回った。最も少ないのは門司港地区（61.5%）で、全ての地区で6割を上回った。総合3位の「災害の危険性が少ない場所」は門司（東部）地区（66.7%）が最も多く、次いで門司（大里）地区（66.2%）、八幡東（西部）地区（64.5%）と続いた。

(16) 物流・製造拠点としてのポテンシャルが高くなるエリアの今後の方向性

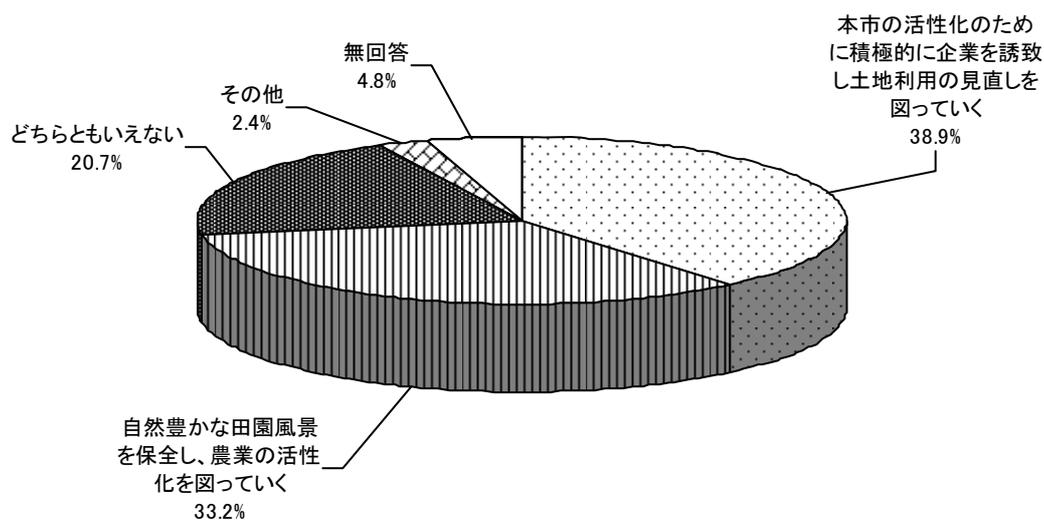
問 17 東九州自動車道が全線開通すると、本市にある IC 周辺は物流や製造拠点としてのポテンシャルが高くなることが考えられます。一方、この IC 周辺には田畑が多く、現状では工場や物流倉庫などが立地できないエリアもあります。このエリアの今後の方向性はどうあるべきだと思いますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

N : 1,365 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく	531	38.9
2 自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく	453	33.2
3 どちらともいえない	282	20.7
4 その他	33	2.4
無回答	66	4.8

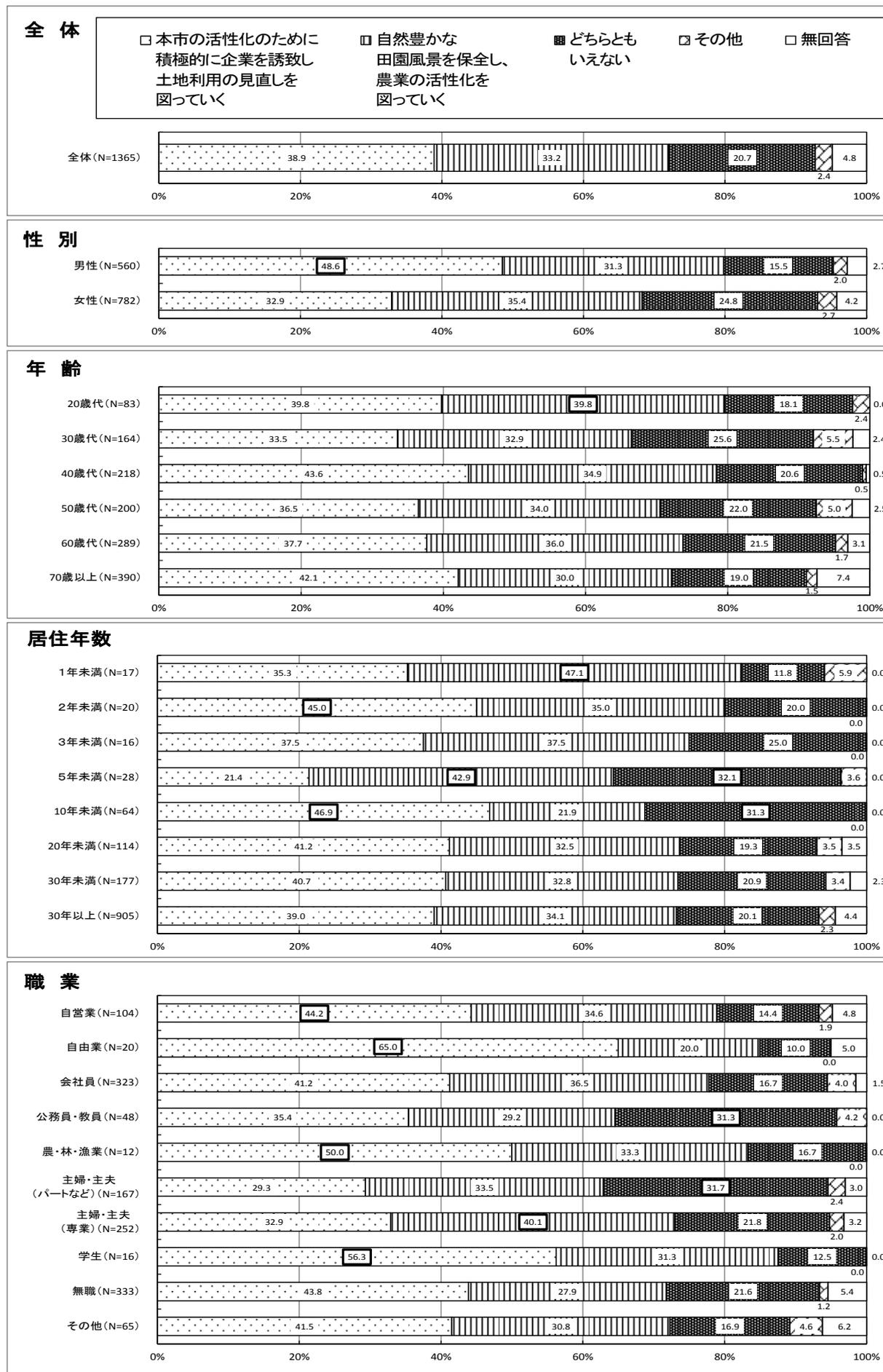
◇ 「物流や製造拠点としてのポテンシャルが高くなることが考えられるが、田畑が多く、現状では工場や物流倉庫などが立地できないエリア」の今後の方向性は、

- 1 位 「本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく」(38.9%)
- 2 位 「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」(33.2%)
- 3 位 「どちらともいえない」(20.7%)



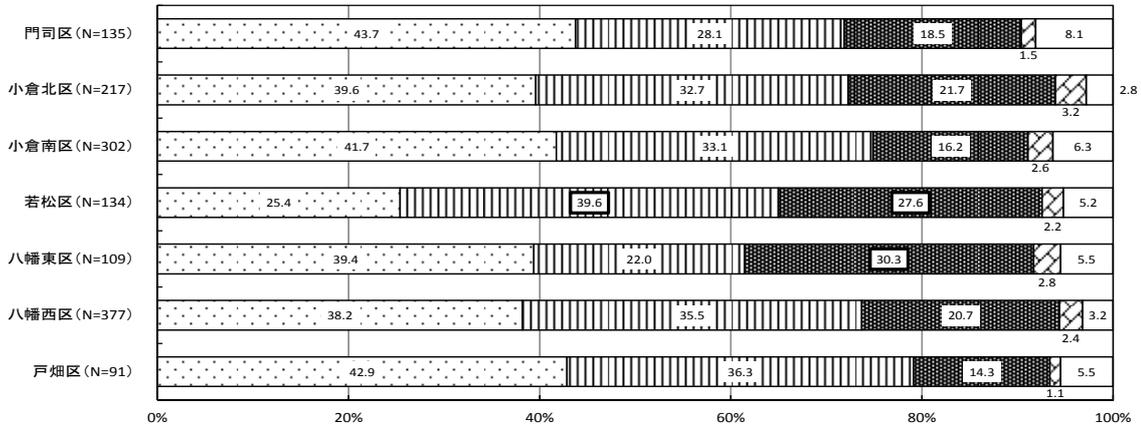
- 本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく
- 自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく
- どちらともいえない
- その他
- 無回答

問 17 物流・製造拠点としてのポテンシャルが高くなるエリアの今後の方向性

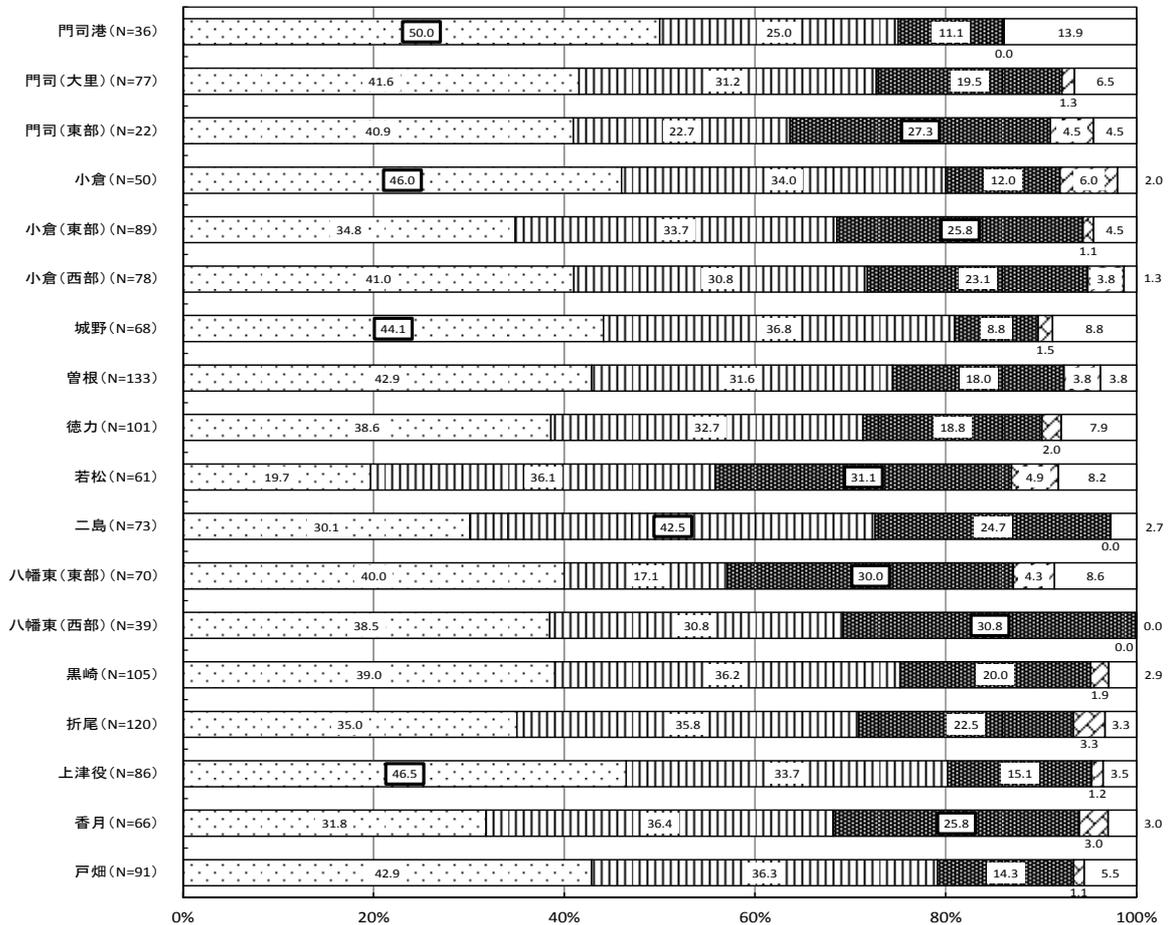


居住区

本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく
 自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく
 どちらともいえない
 その他
 無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

【 全 体 的 傾 向 】

「物流や製造拠点としてのポテンシャルが高くなることが考えられるが、田畑が多く、現状では工場や物流倉庫などが立地できないエリア」の、今後の方向性について尋ねた。

その結果、「本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく」(38.9%)が最も多く、次いで「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」(33.2%)、「どちらともいえない」(20.7%)と続いた。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- ◇ 性別では、男性は「本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく」が最も多く、男性(48.6%)が女性(32.9%)を大きく上回った。一方、女性では、「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」が最も多く、女性(35.4%)が男性(31.3%)を上回り、傾向に違いが見られた。「どちらともいえない」は女性(24.8%)が男性(15.5%)を上回った。
- ◇ 年齢別でも、全ての年齢層で「本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく」が最も多かった。中でも、40歳代(43.6%)が最も多く、次いで70歳以上(42.1%)、20歳代(39.8%)と続いた。最も少ないのは30歳代(33.5%)で、全ての年齢層で3割を上回った。「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」は20歳代(39.8%)が最も多く、次いで60歳代(36.0%)、40歳代(34.9%)と続いた。最も少ない70歳以上(30.0%)との差は9.8ポイントと、年齢層による大きな差は見られなかった。「どちらともいえない」は30歳代(25.6%)が最も多く、最も少ない20歳代(18.1%)との差は7.5ポイントと、年齢層による大きな差は見られなかった。
- ◇ 居住年数別では、1年未満及び5年未満では「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」が最も多かった。それ以外の居住年数層は全て「本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく」が最も多かった。中でも、10年未満(46.9%)が最も多く、次いで2年未満(45.0%)、20年未満(41.2%)と続いた。最も少ないのは5年未満(21.4%)で、唯一3割を下回った。一方、「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」は1年未満(47.1%)が最も多く、次いで5年未満(42.9%)、3年未満(37.5%)と続き、居住歴が短い層で多い傾向にあった。「どちらともいえない」は5年未満(32.1%)が最も多く、次いで10年未満(31.3%)、3年未満(25.0%)と続いた。
- ◇ 職業別では、主婦・主夫(パートなど)及び主婦・主夫(専業)では「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」が最も多かった。それ以外の職業層は全て「本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく」が最も多かった。中でも自由業(65.0%)が最も多く、次いで学生(56.3%)、農・林・漁業(50.0%)と続いた。一方、「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」は主婦・主夫(専業)(40.1%)が最も多く、次いで会社員(36.5%)、自営業(34.6%)と続いた。「どちらともいえない」は主婦・主夫(パートなど)(31.7%)が最も多く、次いで公務員・教員(31.3%)と続き、これらの職業層で3割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、若松区のみ「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」が最も多かった。それ以外の6区は全て「本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく」が最も多かった。その中で、門司区(43.7%)が最も多

く、次いで戸畑区（42.9%）、小倉南区（41.7%）と続いた。最も少ないのは若松区（25.4%）で、唯一3割を下回った。一方、「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」は若松区（39.6%）が最も多く、次いで戸畑区（36.3%）、八幡西区（35.5%）と続いた。最も少ないのは八幡東区（22.0%）であった。「どちらともいえない」は八幡東区（30.3%）が最も多く、唯一3割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、若松、二島、折尾及び香月の4地区で「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」が最も多かった。それ以外の14地区は全て「本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく」が最も多かった。中でも、門司港地区（50.0%）が最も多く、次いで上津役地区（46.5%）、小倉地区（46.0%）と続いた。最も少ないのは若松地区（19.7%）で、唯一2割を下回った。一方、「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」二島地区（42.5%）が最も多く、次いで城野地区（36.8%）、香月地区（36.4%）と続いた。最も少ないのは八幡東（東部）地区（17.1%）で、唯一2割を下回った。「どちらともいえない」は若松地区（31.1%）が最も多く、次いで八幡東（西部）地区（30.8%）、八幡東（東部）地区（30.0%）と続き、これらの地区で3割以上を占めた。

3 まとめ

本調査報告書の冒頭部分「調査の目的」で触れているが、本市では、2003年（平成15年）に策定した市町村の都市計画に関する基本的な方針である「北九州市都市計画マスタープラン」について、今後、急激に進行する人口減少、超高齢化を見据えて、コンパクトなまちづくりを実施する観点から、その見直しに着手したところである。

そこで、平成27年度の市民意識調査では「人口減少・超高齢化を見据えたコンパクトなまちづくりについて」をテーマとし、都市計画マスタープランを見直すにあたり、まちづくりに対する取り組みの評価やまちの将来像、今後のまちづくりの方向性などについて、市民の意見を把握し、今後の施策検討の資料とするために本調査を実施した。

調査結果の具体的な内容、詳細についてはすでに指摘したとおりであるが、最後にここで調査結果の簡単な要約を行い本調査の報告を終わることとする。

1. 現在の北九州市の都市イメージ

- 北九州市の都市イメージについて尋ねた結果、「そう思う」は、「北九州市は交通が発達し便利だ」（16.1%）が最も多く、次いで「北九州市は緑が多い」（15.8%）、「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」（15.2%）と続いた。また、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『賛同層』では、「北九州市は緑が多い」（56.8%）が最も多く、「北九州市は交通が発達し便利だ」（54.0%）と続き、これらの項目は5割を上回った。次いで「北九州市は商店があちこちにあって買物に便利だ」（47.3%）であった。

2. 北九州市の問題・課題への対策の必要性

- 北九州市の問題や課題のなかで、特に対策が必要と思うことについて尋ねた結果、「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」（75.2%）が最も多く、7割を上回った。次いで「工業の生産や働く場が減少している」（31.8%）、「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」（30.1%）、「仕事や住宅を求めて市外への人口流出が続いている」（30.0%）と続き、これらは3割以上を占めた。

3. 北九州市の将来像

- 生活の場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うことについて尋ねた結果、「人口減少下においても活気のあるまちにしていく」（45.3%）が最も多く、次いで「地域で支え合う社会福祉の充実したまちにしていく」（44.5%）、「子どもを育てやすいまちにしていく」（42.5%）と続いた。
- 働く場として、より良いまちづくりのために特に対策が必要と思うことについて尋ねた結果、「これまで北九州市にあまりなかった新しい産業を盛んにしていく」（48.4%）が最も多く、次いで「商業やサービス業を盛んにしていく」（46.3%）、「働く場所と住む場所が近接するまちにしていく」（43.0%）と続き、これらは4割を上回った。
- 都市らしいにぎわいやまちの魅力を高めるために、特に対策が必要と思うことについて

て尋ねた結果、「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけまとまって立地するコンパクトなまちにしていく」(44.4%)が最も多く、次いで「観光で多くの人が集まるまちにしていく」(33.0%)、「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしていく」(32.7%)、「商業で多くの人が集まるまちにしていく」(31.4%)と続き、これらは3割を上回った。

4. 今後必要な取り組み

- これまでのまちづくりの取り組みについて尋ねた結果、「満足」は、「大規模な公園の整備(勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など)」(18.1%)が最も多く、次いで「公共交通の利用しやすさ(バス、電車、鉄道など)」(11.1%)、「ふだん利用する自宅周辺の道路の整備」(8.3%)と続いた。また、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足層』も、「大規模な公園の整備(勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など)」(61.6%)が最も多く、6割を上回った。次いで「幹線道路の整備」(47.4%)、「公共交通の利用しやすさ(バス、電車、鉄道など)」(45.1%)と続いた。
- これまでのまちづくりの取り組みで、今後、特に重点をおいて取り組む必要があると思うことについて尋ねた。結果、「安全・安心に対する取り組み(暴力団対策・交通安全など)」(48.7%)が最も多く、次いで「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備(市民センター、児童館など)」(31.8%)、「まちのにぎわいづくり」(31.4%)と続き、これらは3割を上回った。

5. 居住地について

- 現在住んでいる住宅について尋ねた結果、「持家・戸建て住宅」(55.8%)が最も多く、6割弱を占めた。次いで「借家・集合住宅」(23.7%)、「持家・集合住宅」(15.2%)、「借家・戸建て住宅」(4.2%)の順であった。なお、「持家・戸建て住宅」と「借家・戸建て住宅」を合わせた『戸建て層』は60.0%で6割、「持家・集合住宅」と「借家・集合住宅」を合わせた『集合住宅層』は38.9%で4割弱を占めた。
- 同居している世帯の構成について尋ねた結果、「二世帯世帯(親と子)で、15歳未満のこどもがいない」(27.6%)が最も多く、次いで「夫婦のみで、2人とも65歳以上」(18.4%)、「二世帯世帯(親と子)で、15歳未満のこどもがいる」(15.7%)と続いた。
- 現在の場所での居住年数について尋ねた結果、「30年以上」(32.8%)が最も多く、3割強を占めた。次いで「10年以上20年未満」(18.2%)、「20年以上30年未満」(16.2%)と続き、これらを合わせた『10年以上』は67.2%と7割弱を占めた。
- 現在住んでいる場所について尋ねた結果、「まちの中心の周辺部(駅や商店街からやや離れた場所)」(40.2%)が最も多く、約4割を占めた。次いで「郊外の住宅地」(30.3%)、「生活に便利なまちの中心部(駅や商店街の近く)」(18.5%)、「郊外の田園地域または山間部等」(8.9%)の順であった。
- 住みたいと望む場所について尋ねた結果、「生活に便利なまちの中心部(駅や商店街の近く)」(37.2%)が最も多く、僅差で「まちの中心の周辺部(駅や商店街からやや離れた場所)」(37.1%)が続き、以降「郊外の住宅地」(17.0%)、「郊外の田園地域また

は山間部等」(6.9%)の順であった。

- 住みたいと望む場所を選んだ理由について尋ねた結果、「買い物、病院などへ行きやすいから」(63.5%)が最も多く、6割強を占めた。次いで「公共交通の便利が良いから」(53.9%)、「自然環境が良いから」(25.1%)と続いた。
- 高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由について尋ねた結果、「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」(63.2%)が最も多く、6割強を占めた。次いで「住み慣れた場所に住み続けたい」(24.3%)、「緑や自然の豊かな場所に住みたい」(7.9%)と続いた。

6. まちづくりの方向性について (その1)

- 「コンパクトなまちづくりを進めることについて尋ねた結果、「どちらかといえば必要である」(47.1%)が最も多く、次いで「必要である」(41.0%)、「必要ない」(7.4%)と続いた。「必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた『必要である』は88.1%で、9割弱を占めた。
- 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定することについて尋ねた結果、「どちらかといえば必要である」(52.7%)が最も多く、次いで「必要である」(31.1%)、「必要ない」(12.1%)と続いた。「必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた『必要である』は83.8%で、9割弱を占めた。
- どのような場所を「一定の人口の集積を保っていく区域」に設定したら良いかについて尋ねた結果、「買い物、病院などへ行きやすい場所」(83.7%)が最も多く、次いで「公共交通の便利が良い場所」(74.6%)、「災害の危険性が少ない場所」(54.8%)と続いた。

7. まちづくりの方向性について (その2)

- 「物流や製造拠点としてのポテンシャルが高くなることが考えられるが、田畑が多く、現状では工場や物流倉庫などが立地できないエリア」の、今後の方向性について尋ねた結果、「本市の活性化のために積極的に企業を誘致し土地利用の見直しを図っていく」(38.9%)が最も多く、次いで「自然豊かな田園風景を保全し、農業の活性化を図っていく」(33.2%)、「どちらともいえない」(20.7%)と続いた。

以上、今回調査の要約としてエッセンスをまとめてみた。

今回の調査では、アンケートを通して、「現在の北九州市の都市イメージ」や「北九州市の問題・課題への対策の必要性」、「北九州市の将来像」、「今後必要な取り組み」、「居住地について」、「まちづくりの方向性について」に関する市民の現状や見解を知ることができた。

今回の調査結果も踏まえ、「都市計画マスタープラン」を見直し、コンパクトなまちづくりの実現に向けた諸施策を推進してまいりたい。